

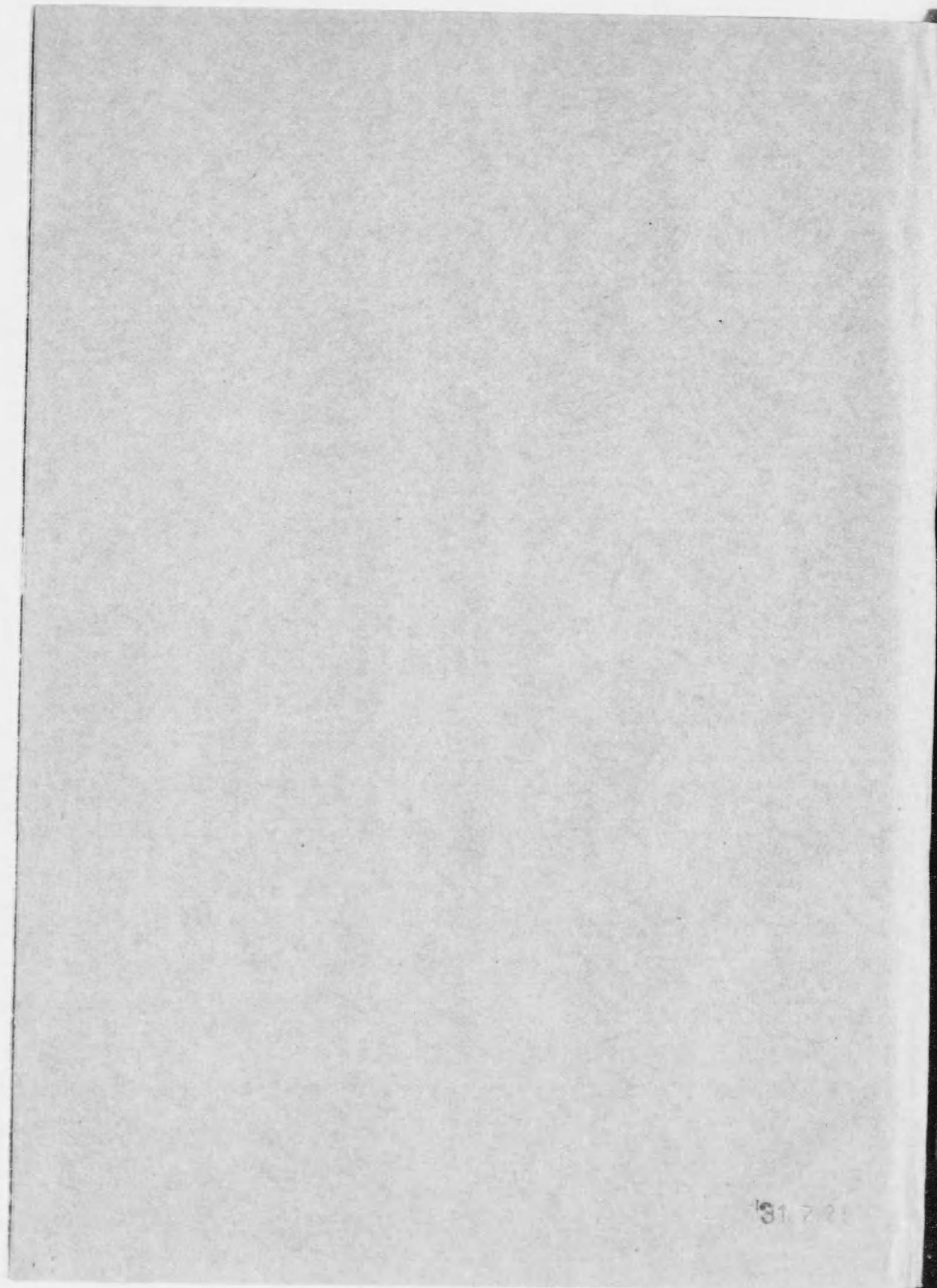
337

113

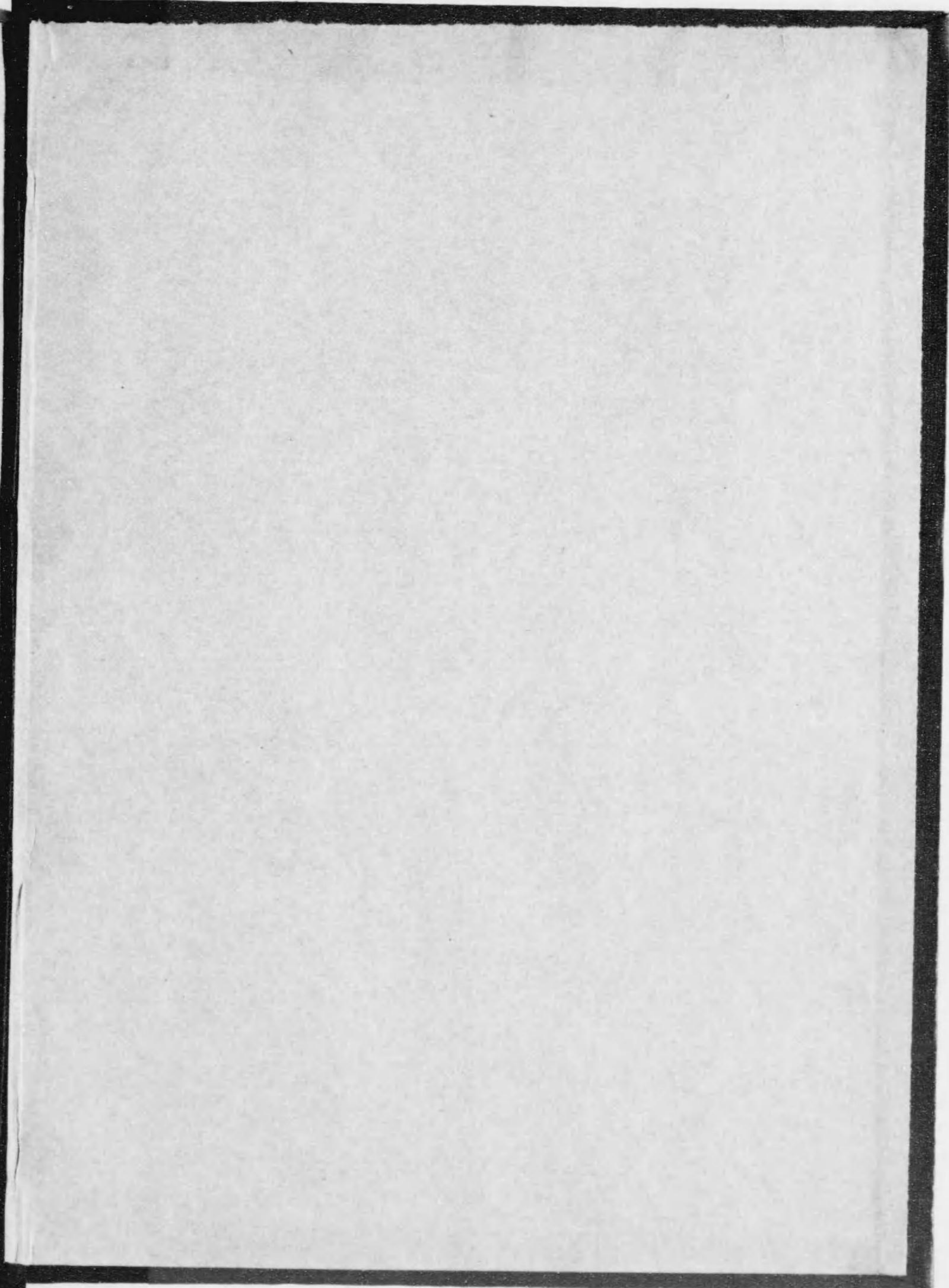


始





31721



387
113

千島及海豹島

農商務省水產局

△ 678

正誤表

頁數	行	誤	正
八	九	故ニ	故カ
同	十一	十一年(百十六年前)	十二年(百十三年前)
同	十七	十二年(百十五年前)	十二年(百十三年前)
十八	二	蕃殖	繁殖
同	六	明治初年ニハ内外人	明治初年ニ内外人
廿一	七	「捕獲シタリト」ノ下へ	「ト云フ」ノ三字ヲ加フ
同	十一	「蕃殖場アリテ」ノ下へ	「本省巡視船ハ巡邏ノ際ニ」ノ十一字ヲ加フ
廿三	十	「甲殻類ハ」ノ四字省ク	少
廿五	十	「放尿スルコ」ノ下へ	而シテ
廿六	一	殊ニ	年々白、赤狐
同	八	年々赤狐	Urta
廿七	十四	Urta	ニホウム船長 G. Niebaum
廿九	四	船長 G. Niebaum	ニホウム船長 G. Niebaum
卅二	四	巡查若干名ハ	巡查若干名ニ

337-113

千島及海豹島



第一章 緒言

目次

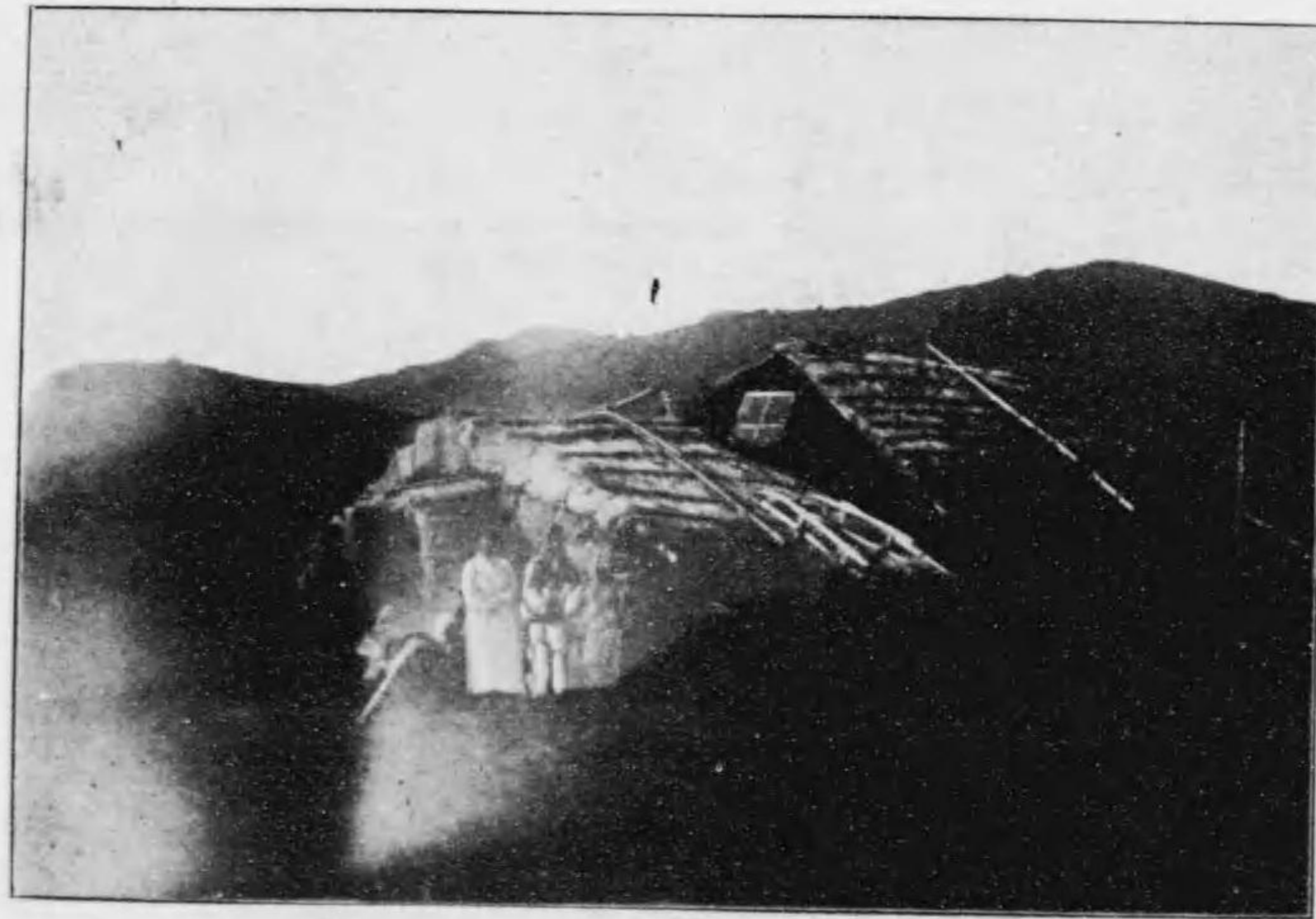
千島ノ歴史及地理	一
動物	六
千島ノ住民	七
臘虎獵業ノ沿革	八
臘納獸獵業ノ沿革	一一
臘虎及其獵法	一五
臘納獸及其獵法	一六
臘虎及臘納獸生息地	一七
臘納獸蕃殖保護策	二五
黑狐ノ増殖策	二五

大正
2. 4. 9
寄贈

寄贈本



者 督 監 其 及 人 土 丹 色

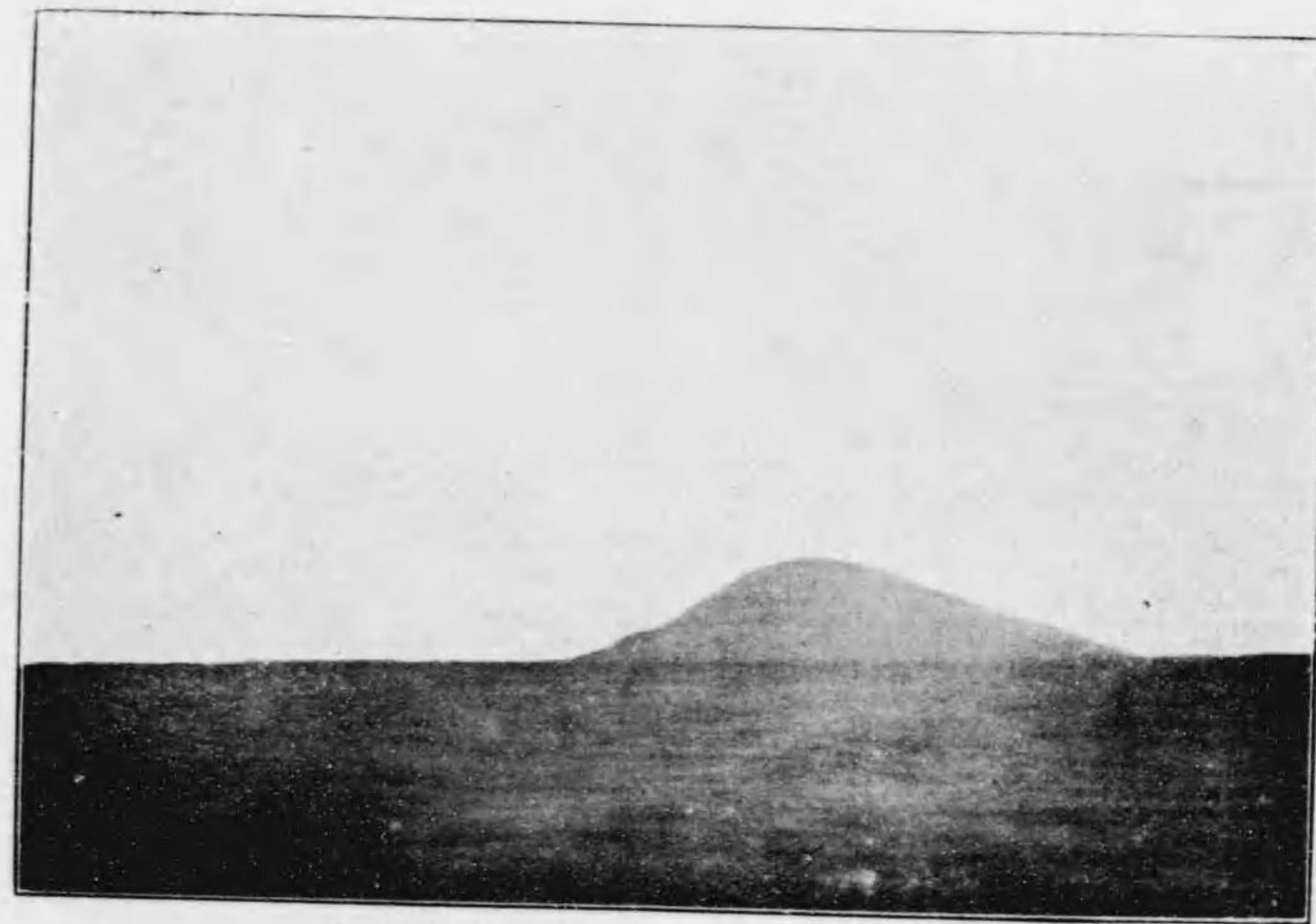


屋 家 ノ 人 土 丹 色

第二章

目次

海驢ノ利用	二七
海豹島及其臘納獸	二七
海豹島ノ地理	二七
露領時代ニ於ケル海豹島ノ歴史	二九
我領有以來ニ於ケル海豹島	三〇
海豹島ノ現状	三一
海豹島臘納獸保護ニ就キ將來ノ企望	三三
臘納獸群統計事項	三四
監守諸規則	三六



島南以保理知ルタ見リヨ湮八約東南



場殖蕃鹽海ノ島南以保理知



所息棲虎巖舊近附岩鏡眼岸西島撫得



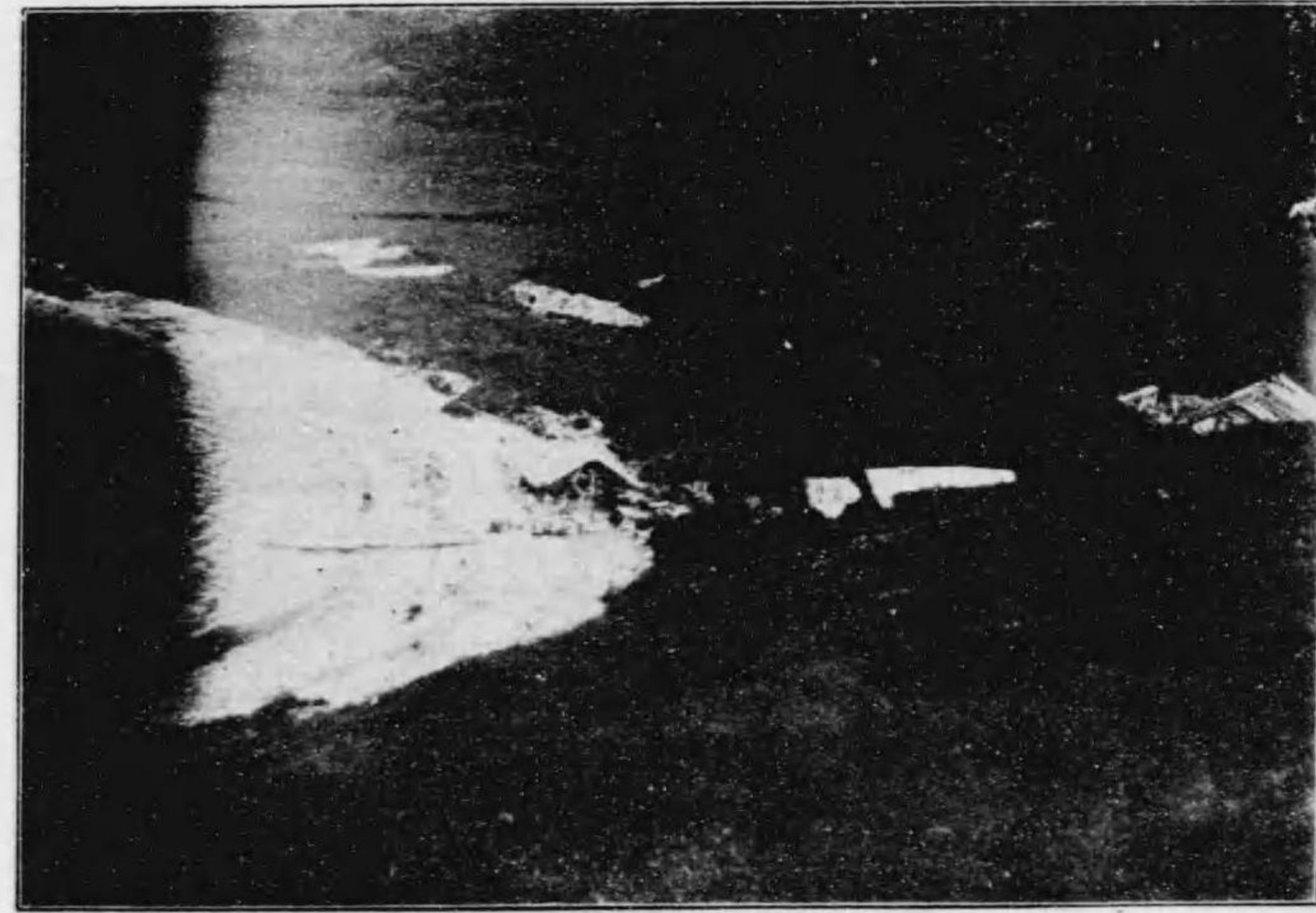
岩鏡眼島撫得ルタ見リヨ側北



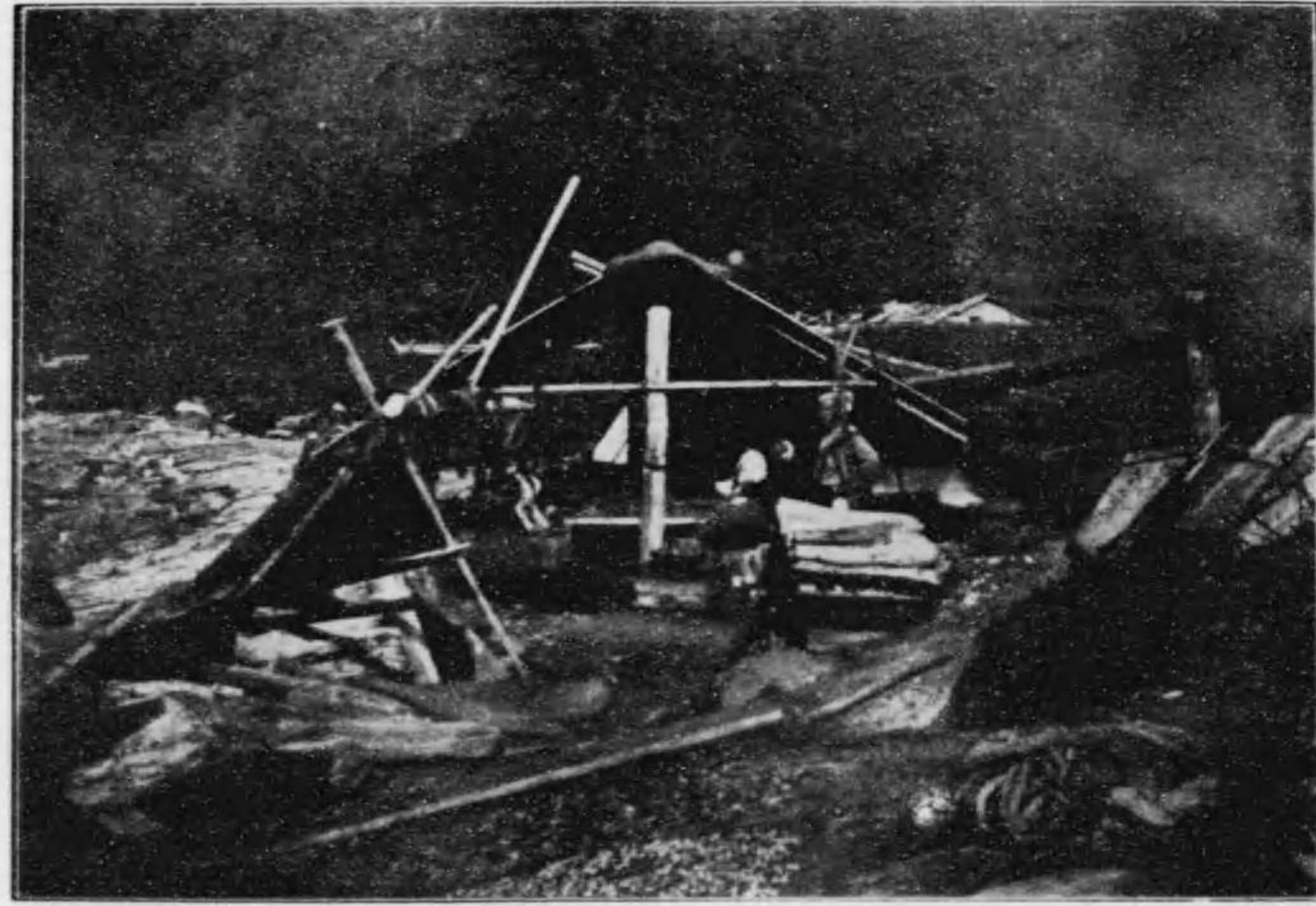
島夷吐計ルタ見リヨ湮五東北



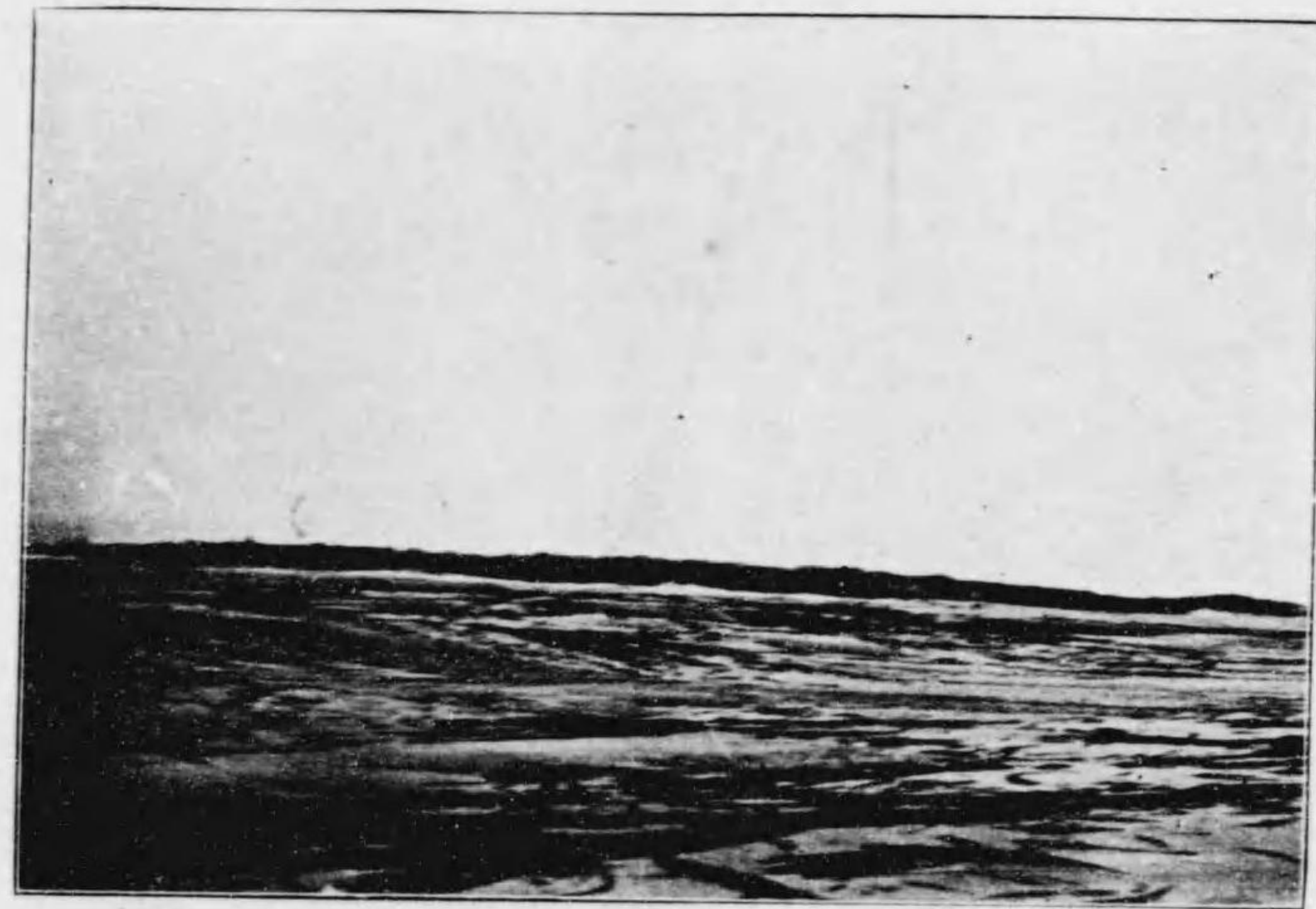
島輪松ルタ見リヨ湮十方南



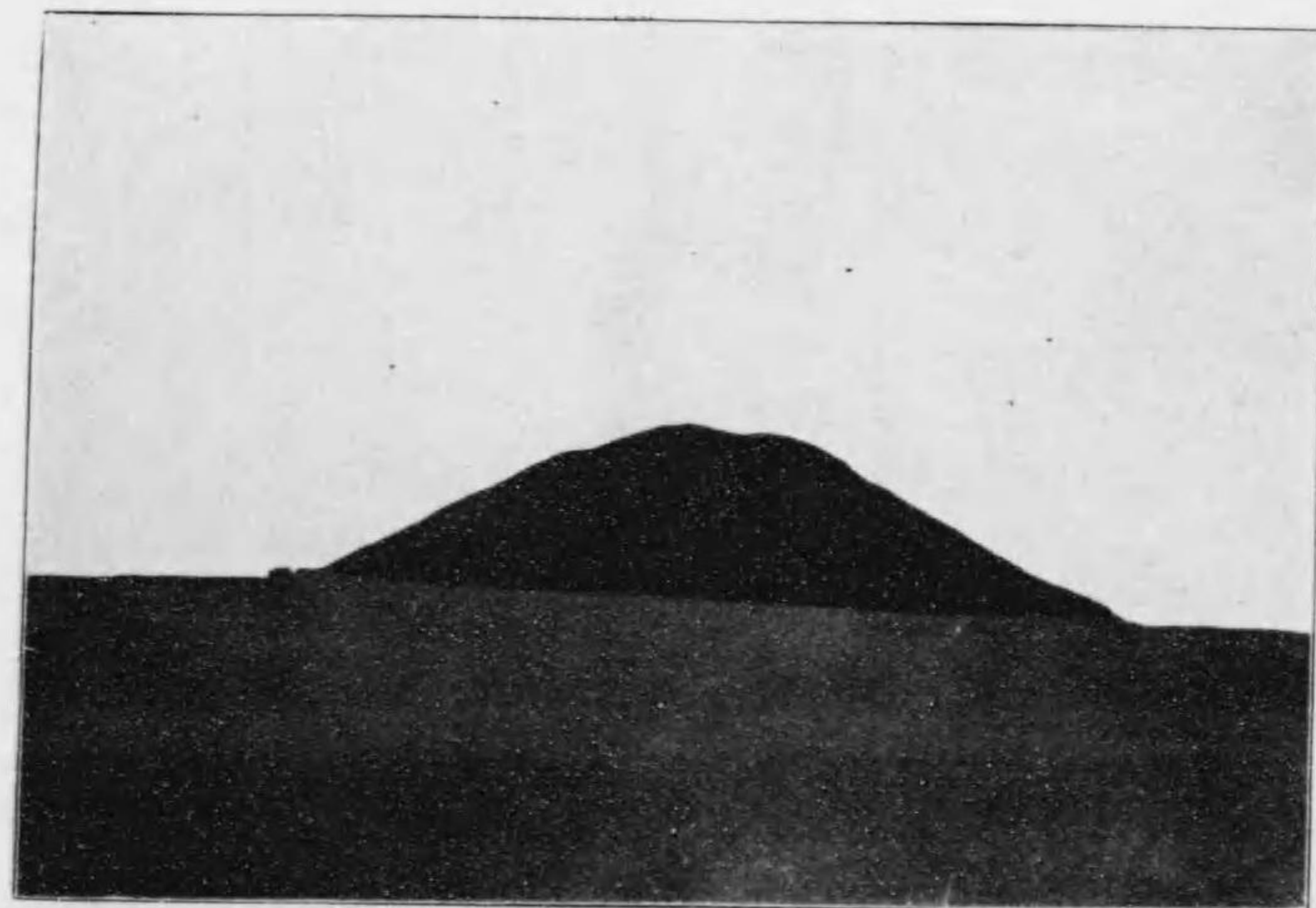
舍漁ノ内灣頓魯武島知新



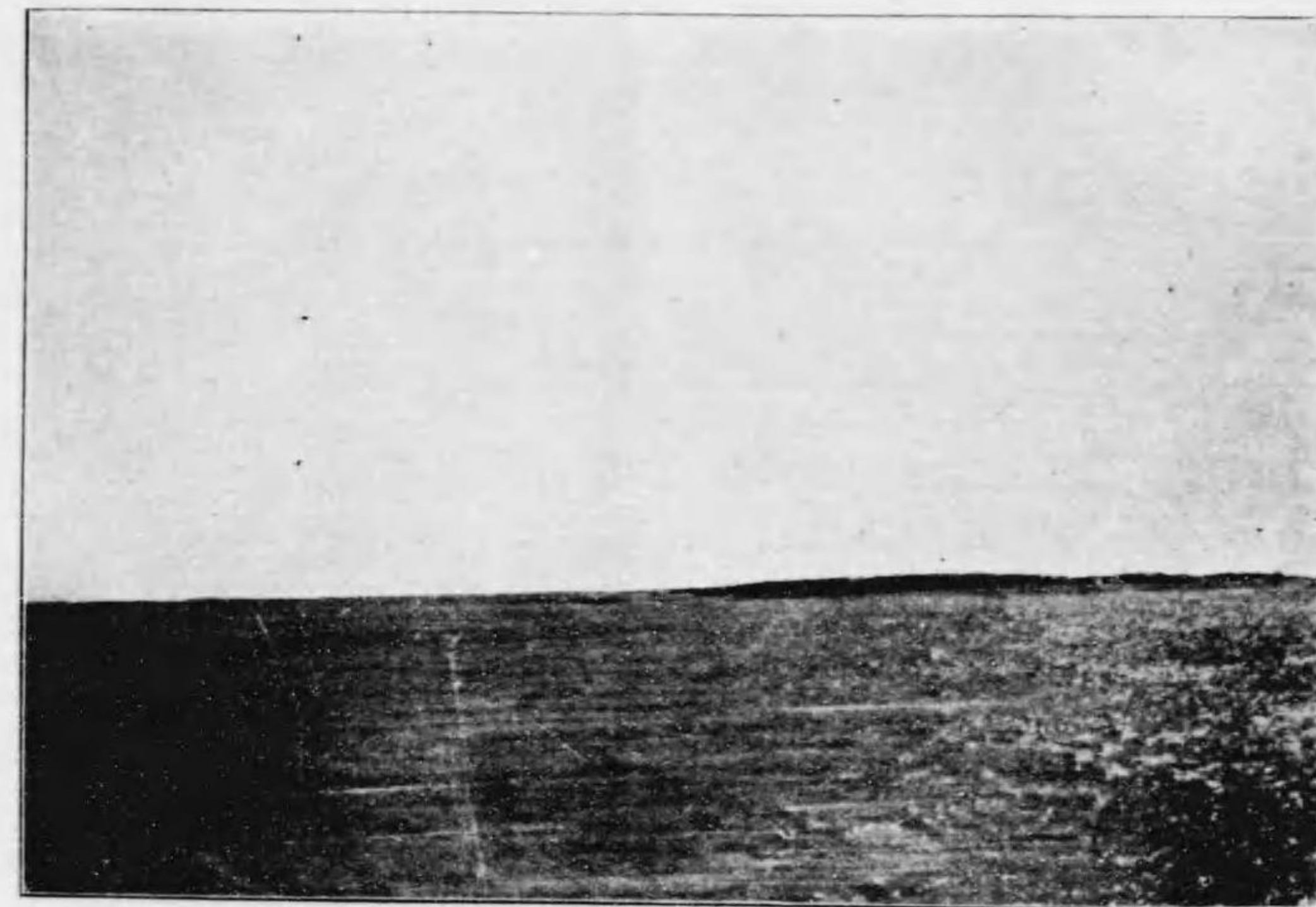
所造製老海剝内灣頓魯武



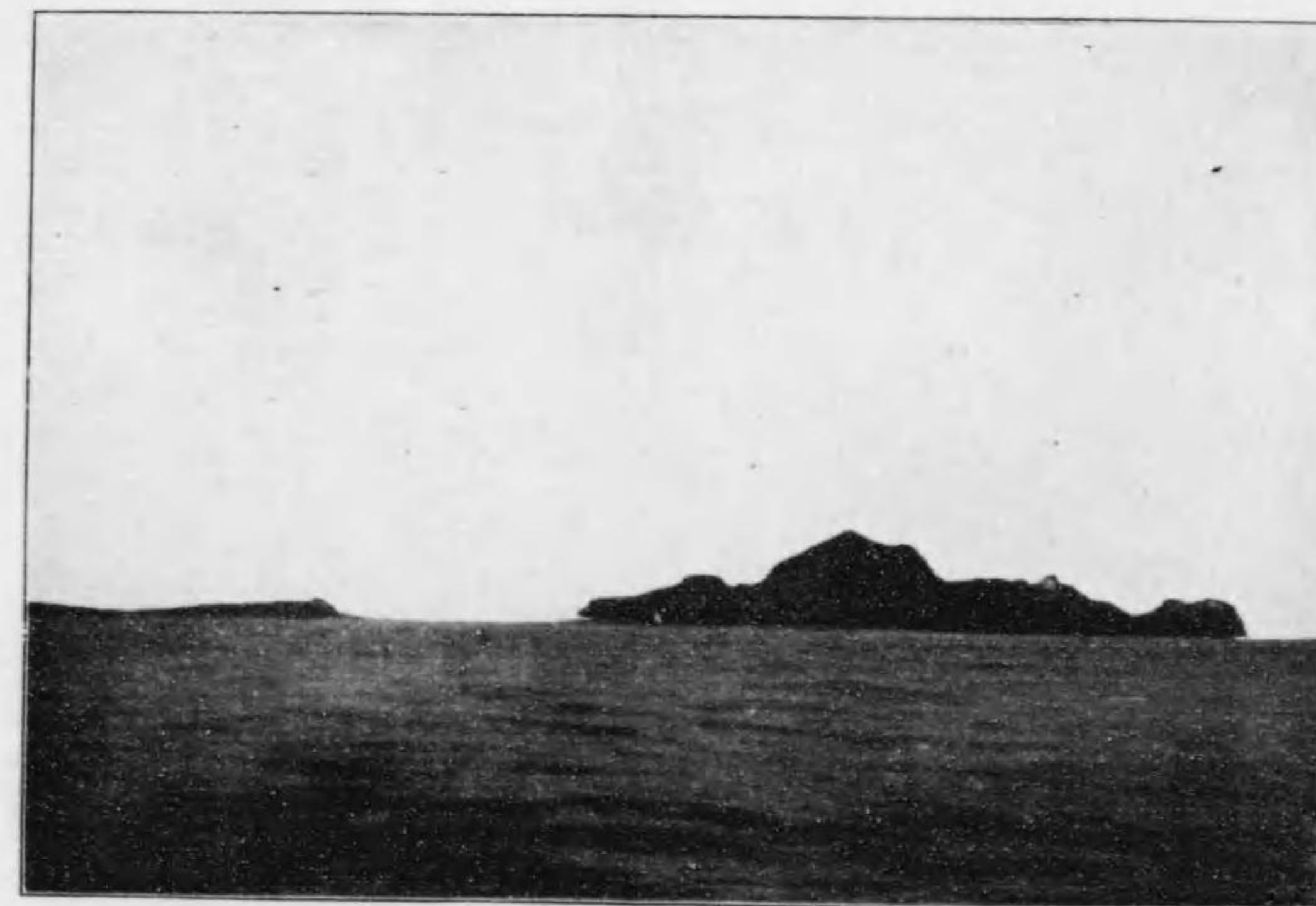
布若鬼ノ近附岩手摺



島計公雷ルタ見リヨ湮三方南



岩手摺ルタ見リヨ湮一方西



島知志宇ルタ見リヨ湮五西南



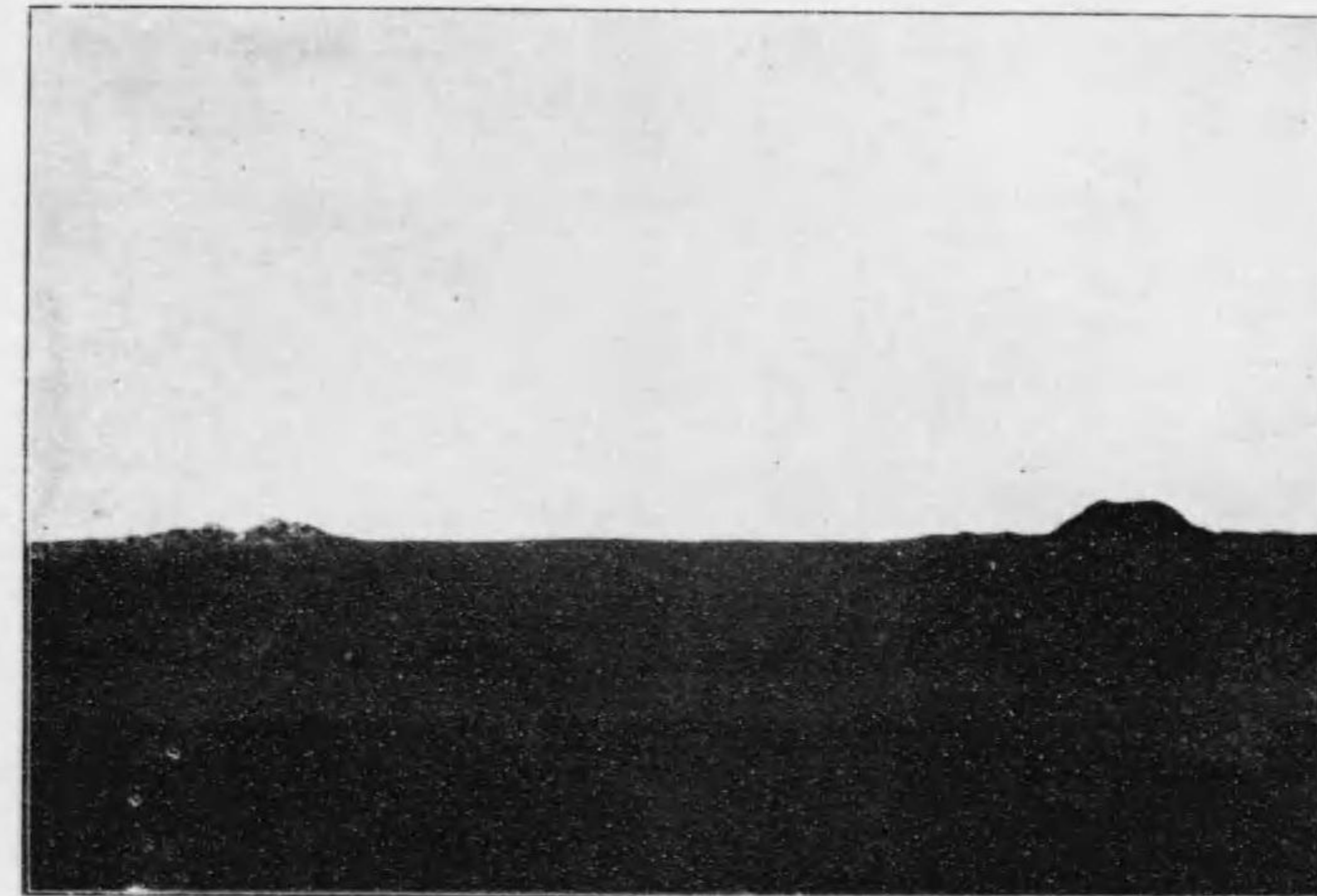
牟望ヲ岩豹海リヨ岩長岩列知牟



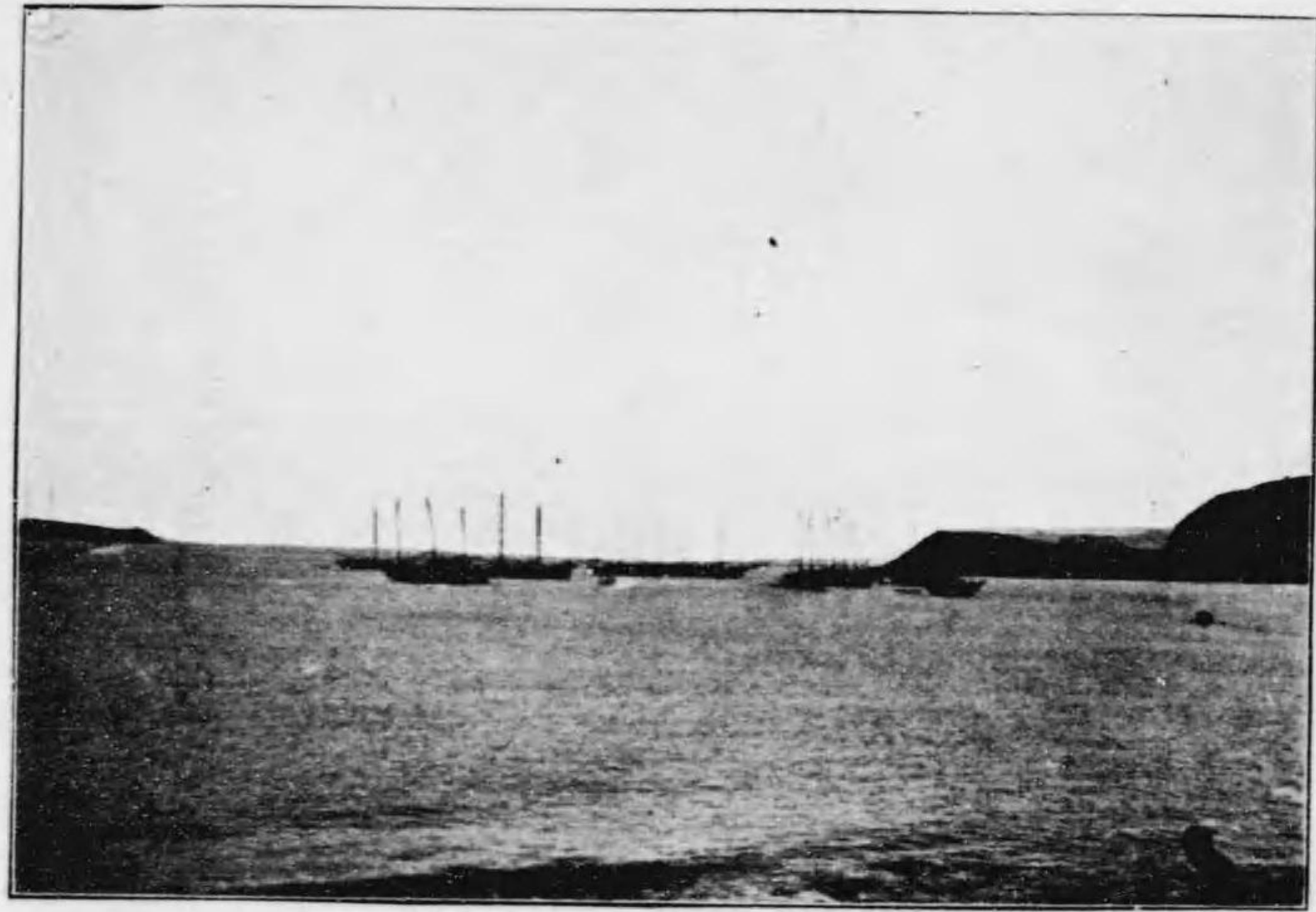
皮剝驢海ルケ於ニ岩長岩列知牟



場殖蕃舊獸舩脇ノ側西島計公雷



岩列知牟ルタ見リヨ側西



船漁鱈ルケ於ニ灣上村島延幌



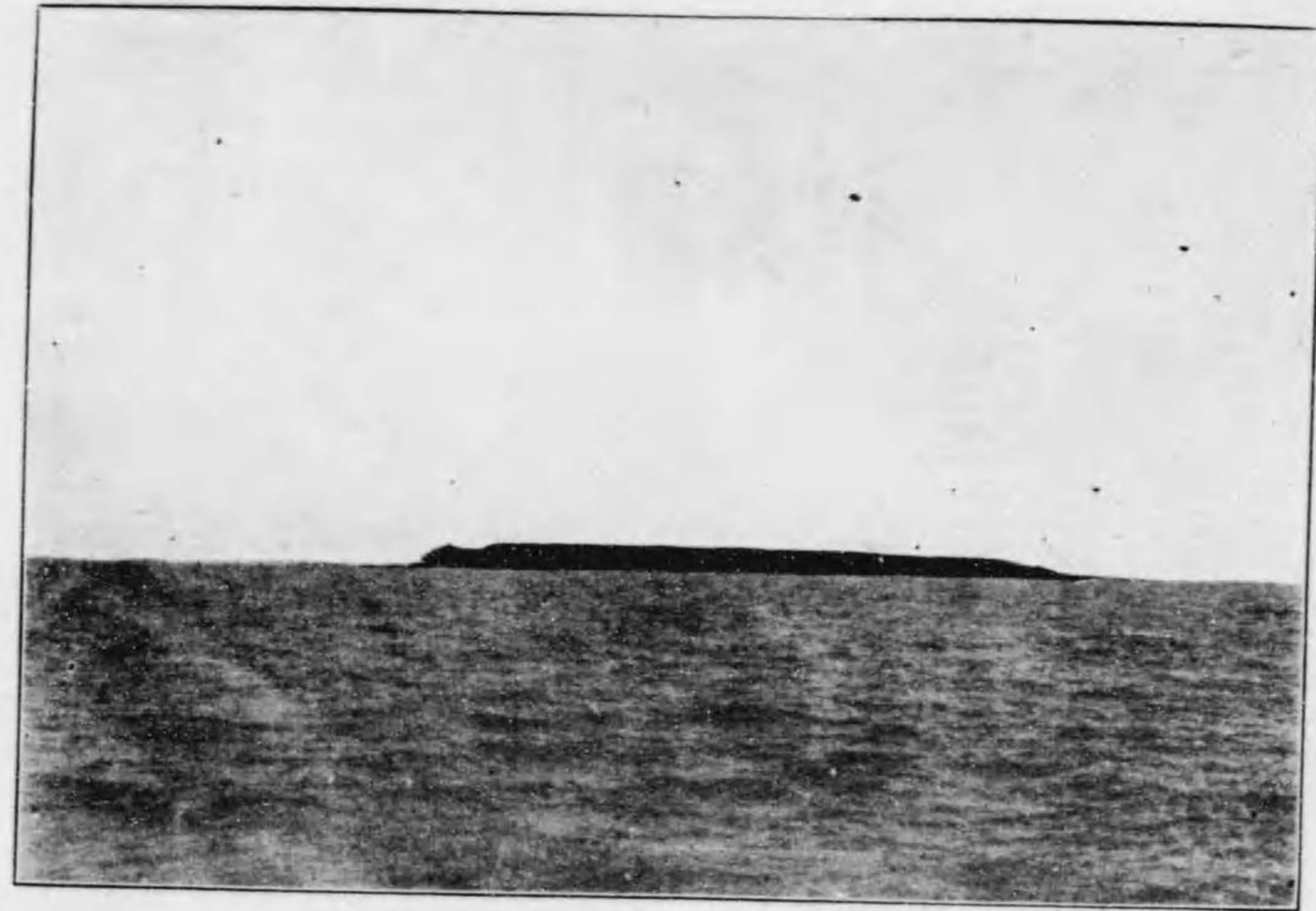
場業事鱈社會式株業漁洋遠本口大ルケ於ニ灣上村



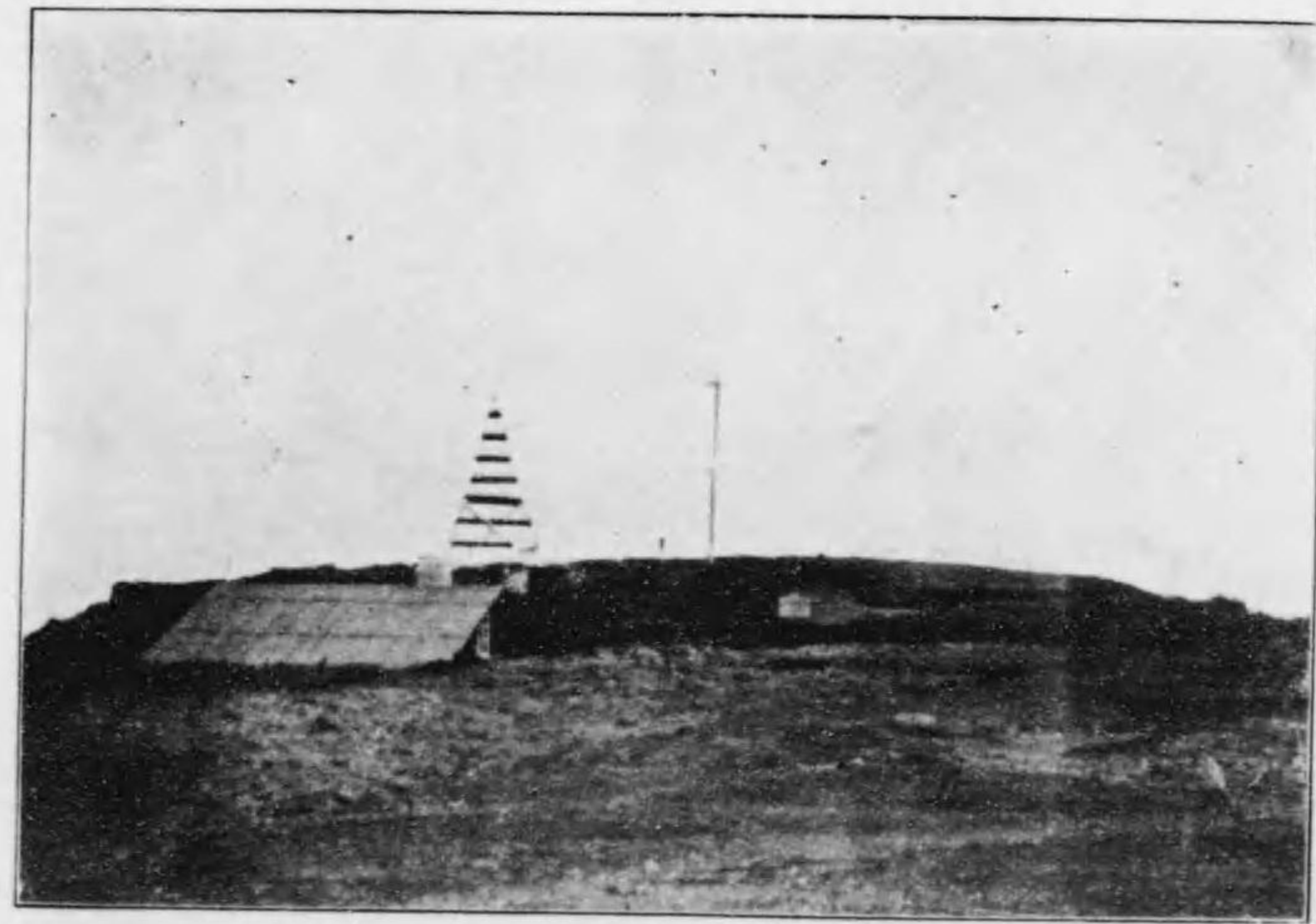
近附灣石黒岸東島丹古爾温



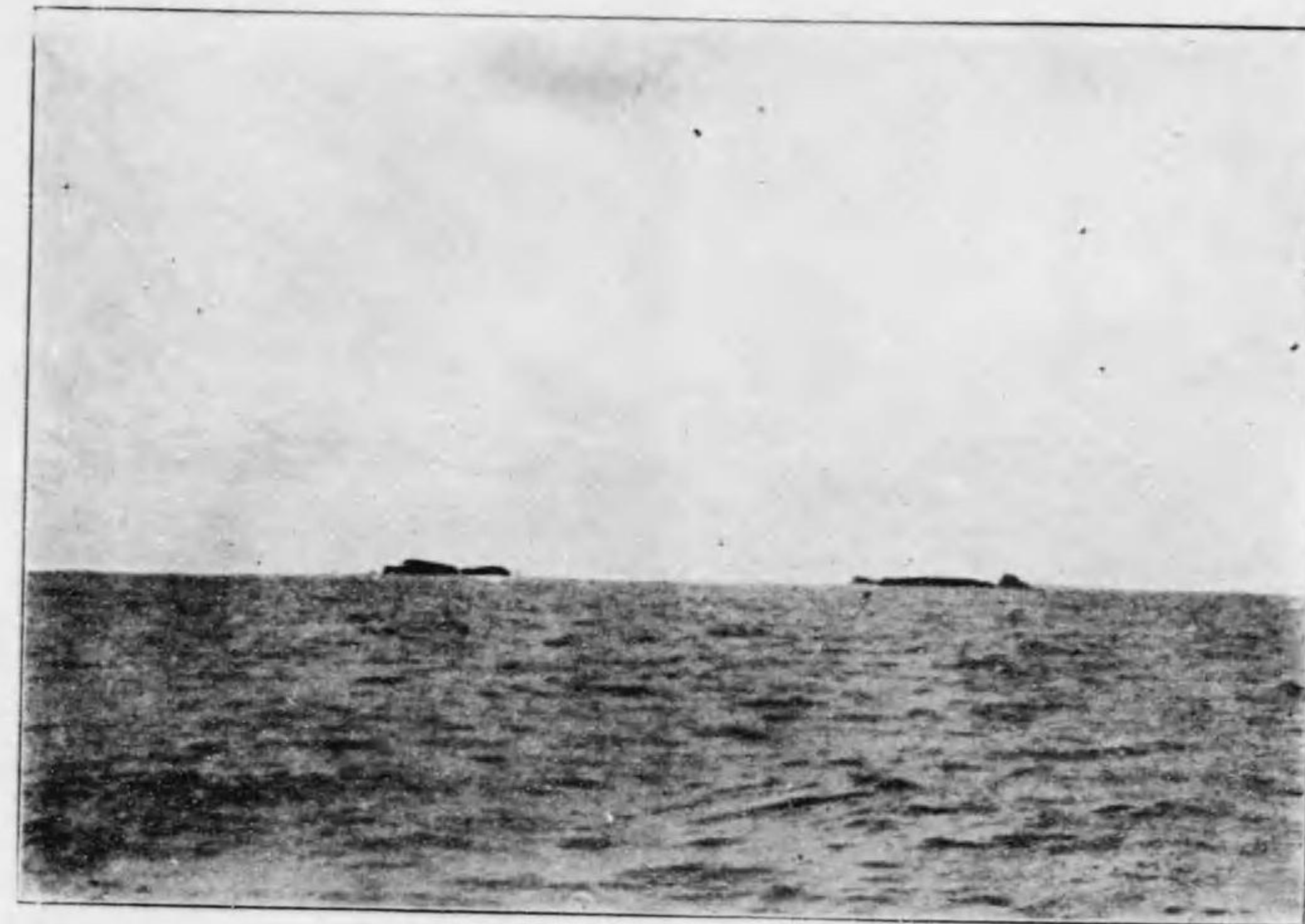
島留勘磨ルタ見リヨ湮四南東



島 豹 海 ル タ 見 リ ヨ 湮 ニ 側 西



部 頂 島 豹 海



島 列 島 島 ノ 側 東 島 筵 幌



場 業 事 鱈 社 會 式 株 業 漁 洋 遠 本 日 大 ル ケ 於 ニ 川 中 島 守 占



(日五廿月六年五十四治明) 獸納臘ルタ見リヨ所望展島野海



(日四十月十年元正大) 獸納臘ノ方北所望展島野海



舍宿ノ目視監島野海



(日五廿月六年五十四治明) 獸納臘ルタ見リヨ端南



海豹島展望所南方臘臘獸 (大正元年十月十四日)

千島及海豹島

緒言

本邦ニ於ケル臘臘虎ノ生息地ハ北海道千島諸島沿岸ニ存シ、臘臘獸蕃殖地ハ千島ノ内或數箇ノ島嶼ト樺太海豹島ニ在ルハ普ク人ノ知ル所ナリ、然レトモ其栖息地ノ狀況ニ就テハ未タ詳カナラサルモノアリ此等貴重海獸ノ保護ヲ圖リテ國利ヲ經營セント欲セハ須マク先ツ此等北海島嶼ノ現状及沿革ヲ精細ニ調査セサル可ラサルナリ

從前千島及海豹島及其貴重獸ニ關シテ記載セル文獻ハ甚タ少ク既ニ刊行セラレタルモノ、内稍見ルニ足ルヘキモノハ英國自令海委員調査報告(千八百九十三年英國政府刊行)

米國北太平洋臘臘獸及臘臘獸島調查報告(千八百九十八年米國政府刊行)

水産調査報告

水産調査事業報告

「スノー」氏千島諸島(千八百九十七年刊行)

「スノー」氏禁止海(千九百十一年刊行)

等ナリトス、而シテ本省所管ニ係ル文書中ニハ制度ノ變遷等ニ關スルモノアリ今此等ノ諸書ヲ涉獵シテ參考トナシ近頃局員ノ實査シタル成績ニ基キ本邦產貴重獸蕃殖ノ狀況及之レカ保護ノ方法ニ就キ記述スル所アラントス

第一章 千島及其貴重海獸

千島ノ歴史及地理

西人ノ千島ヲ發見シタルハ十七世紀ノ頃ニシテ露國ノ始メテ本島ヲ征服シ得撫以北ヲ領有シタルハ千七百三十六年ナリシト云フ明治八年ニ至リ樺太境界問題協定ノ事ヨリ露國政府ハ其領有セル千島ノ全部ヲ我ニ讓渡スルコト、ナリ爾來吾千島列島ノ海圖ハ近年ニ至ルマテ嘗テ米國政府ノ刊行シタルモノヲ基礎トシ我海軍ニ於テ幾分補正シタルモノニ係ハリ各島ノ位置並ニ地形ニ甚シキ誤謬アリ航海者ノ頗ル遺憾トスル所ナリシカ千八百九十三年英國政府ノ刊行セル該海圖ハ密獵船長トシテ有名ナル「スノー」氏ノ測量シタルモノニシテ稍正確ナルヲ得從前ノ海圖ニ比シ大ニ面目ヲ一新シタリ、然レトモ詳細ナル點ニ至リテハ尙誤謬アルヲ免レス千八百九十八年米國政府刊行ノ北太平洋羣島及臘納獸島調查報告中ニ掲記セル同海圖ニハ中央千島ニ就キ多少訂正シタル所アリ

千島ノ總面積ハ「スノー」氏ノ測定スル處ニ據レハ大略二千八百六十平方地理哩即チ一千七百七十三平方里ニシテ各島ノ面積ハ左表ノ如シ

擇捉	九三〇	幌田	五六二
國後	四四四	得撫	二九八
新島	一二六	溫爾古丹	一一一
占守	八九	色丹	七〇
阿頼度	四六	計夷	三五
捨子古丹	三四	羅處和	二五
磨勘留	二一	松輪及磐城島	二〇
春牟古丹	一六	越湯	五五
北知里保以	三、七五	南知里保以	三、二五

千島ハ大體ニ於テ北海道根室國ヨリ露領勘察加半島ニ向テ少シク東南ニ膨出シタル弧線上ニ並列スル大小ノ島嶼ヨリ成リ海上凡六百三十哩ニ互ル唯色丹及占守ノ二島ヲ除ク外ハ各島皆火成岩ヨリ成リ現ニ圓錐形ノ活火山ヲ處々ニ見ルヘシ其最モ高キモノハ阿頼度島ニシテ凡ソ七千六百四十呎アリト云フ、南北兩端ニ位スル二三ノ大島ヲ除ク外ハ皆峻嶺ヲ以テ成ル小島ニシテ平野ヲ見ルコトナシ、沿岸碇泊ニ適スル灣少ク斷崖長ク連續シ礁脈ノ蟠結スル所多クシテ錨地ニ乏ク而モ夏季ニハ濃霧ノ四塞スルノ日多ク航海頗ル危險ナリ、是迄千島ノ氣候ニ就テ記載シタルモノ甚少シ、明治三十五年九月ニ創立セラレタル擇捉島西岸ナル紗那測候所及占守島片岡灣ナル報效義會ノ諸觀測ハ左表ノ如シ

紗那測候所觀測

平均氣溫	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
平均最高	(-) 六一	(-) 七八	(-) 四六	一七	五三	九三	一三四	一五四	一三九	八四	三三	(-) 一八	四〇
平均最低	(-) 二九	(-) 四三	(-) 〇六	五八	九八	一三六	一九八	一七三	一二二	三三	(-) 五七	〇五	七九
氣溫	九三	一一七	八九	一一	一一	四六	九三	一一五	八二	(-) 四二	(-) 一	五九	〇〇
降水日數	三四六	二〇九	一七一	一四一	一五三	一三〇	一二六	一四一	一四〇	一三〇	一四七	一三六	一〇〇
降水量	九三三	六二三	一七五	五七〇	九三一	五三九	七三五	四八五	八七六	一一七	一三三	一一八	一〇〇

降雪季節 平均 最 早 最 晚

降雪季節 十月二十九日 十月二十四日 五月二十六日

降霜季節 十月一日 九月一日 七月五日

占守島片岡灣ニ於ケル報效義會觀測

(自四十四年九月二十一日至四十五年九月十九日)

月別	平	均	最	高	最	低
一	(-)	四、二三	二、二〇	二、二〇	(-)	一、二〇
二	(-)	四、九〇	三、三〇	三、三〇	(-)	一、三〇
三	(-)	二、四二	五、〇〇	五、〇〇	(-)	一、〇〇
四	(-)	一、一〇	七、八〇	七、八〇	(-)	四、四〇
五	(-)	四、五七	一、二八	一、二八	(-)	一、一〇
六	(-)	八、一三	一、六一	一、六一	(-)	四、四〇
七	(-)	一〇、八八	二、〇〇	二、〇〇	(-)	四、四〇
八	(-)	一、二七	二、一〇	二、一〇	(-)	六、七〇
九	(-)	一〇、六六	一、五〇	一、五〇	(-)	六、一〇
十	(-)	六、五四	一、三九	一、三九	(-)	一、一〇
十一	(-)	三、四七	八、九〇	八、九〇	(-)	〇、〇〇
十二	(-)	二、五三	八、九〇	八、九〇	(-)	八、三〇

月別	雪	雨	霧	曇	晴
一					
二					
三					
四					
五					
六					
七					
八					
九					
十					
十一					
十二					

降雪季節 九月十五日 最 早
 降雪季節 五月二十日 最 晚
 降霜季節 十月十九日 不 明

天候比例

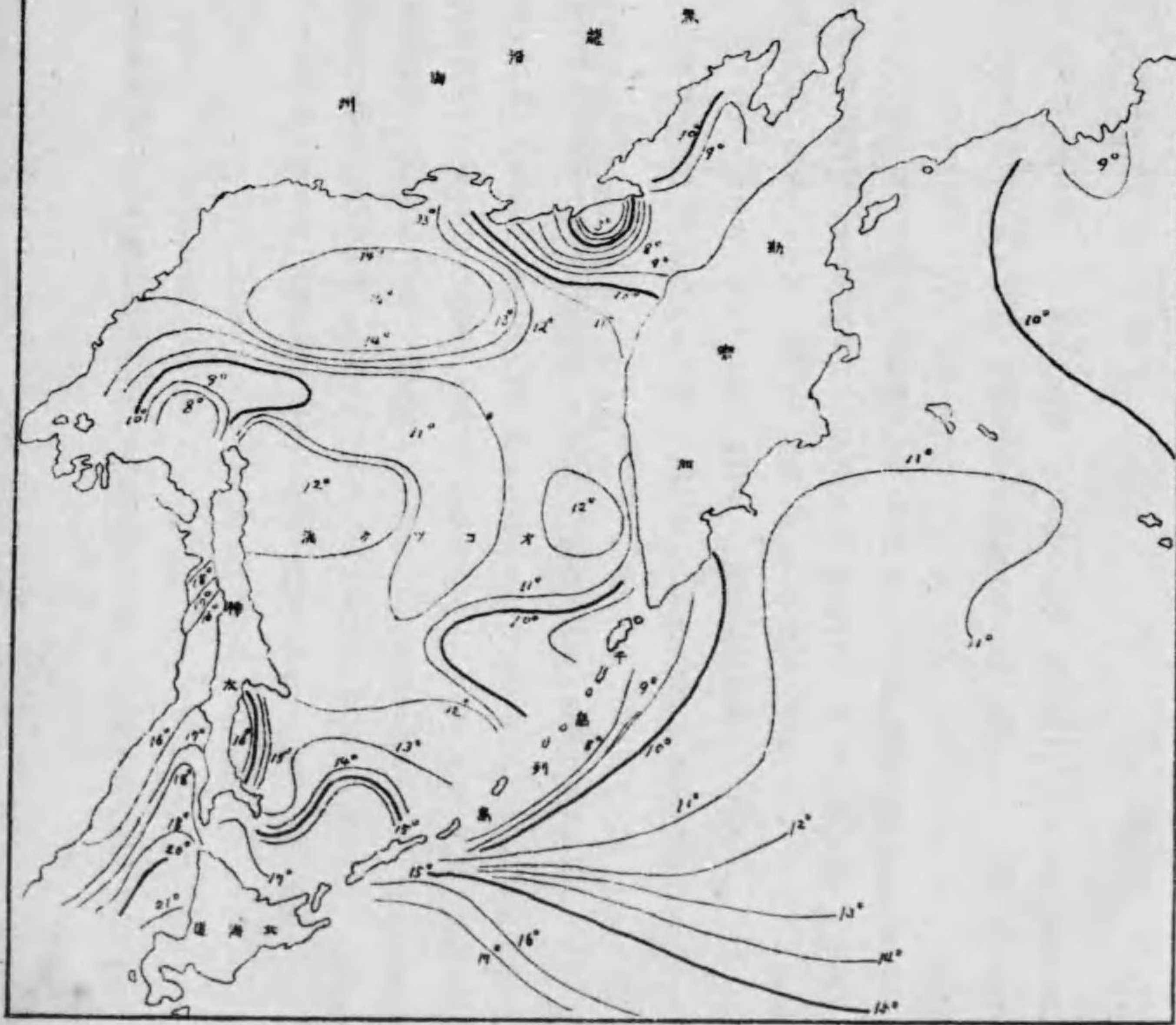
月別	雪	雨	霧	曇	晴
一	二、一〇				七、〇
二	一、二五				九、〇
三	一、四〇				七、五
四	一、一五				八、五
五	三、〇	五、〇	〇、五		一、二〇
六		三、五	三、五		八、五
七		三、〇	四、〇		八、五
八		一、〇	四、〇		一、六〇
九	二、〇	一、〇	四、〇		七、〇
十	一、三〇	一、〇	一、〇		一、〇
十一	一、三〇	五、〇	二、〇		六、〇
十二	一、六〇		二、〇		一、〇

是レ千島南部西海岸比較的溫暖ナル方面及極北ニ於ケル記録ニシテ中央千島ニ於テハ夏季ト雖モ偏南風ノ時ハ氣温十五度内外偏北風ノ時ニハ一二度ニ低下スルコトアリ、臘虎臘臘獸獵船カ色丹島以北ニ入ルトキハ其船尾室ニ暖爐ヲ設ケ絶エス焚火ス以テ其氣候ノ冷涼ナルヲ知ルヘシ

尙「スノ」船長カ十五年間ノ經驗ニ依リ其著書千島諸島(千八百九十七年刊行)ニ記載スルモノヲ記スレハ左ノ如シ

千島ノ氣候ハ雨量大ナリト云フヲ得サルモ明カニ濕氣多シト云フヘシ、春ハ寒冷ニシテ荒天多ク其初メハ西北風吹キ霧少シ、後ニハ方向定ラサル風吹キ時々雪、雨及霧ノ來襲スルコトアリ、二月頃ハこゝつく海西北部ヨリ來ル流水ハ西南千島及北州ノ東海岸ニ漂著シテ廣ク海岸ヲ擁塞シ時ニ國後擇提間ノ海峡ヲ閉鎖スルコトアリ、其全ク消失シ去ルニハ五月ニ入ルコトアリ、夏季ニハ濃霧ノ四塞スルコト多シ、此濃霧ハ唯冷涼ナル北風力能ク之ヲ拂フノミ、而モ晴日ヲ見ルハ暫時ノ

表度温面表水海、中月八ルケ於ニ述附其及海クツコオ
(洲觀氏フロカマ)

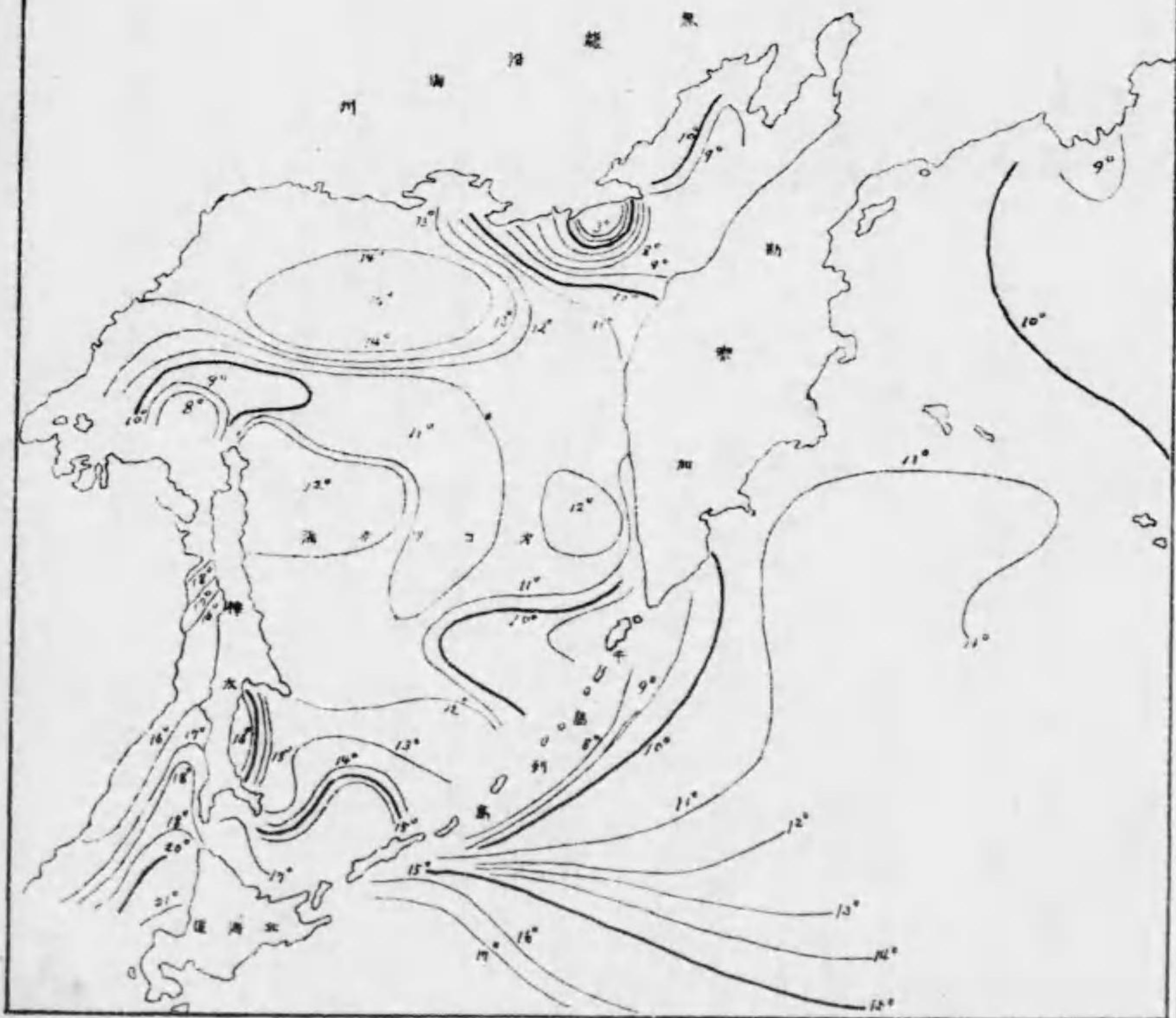


動植物

ミナリ、秋ハ最モ好キ氣候ニシテ西風吹キテ晴天打續キ十一月中頃ニ及フ、冬ハ寒冷ニシテ主トシテ西北風吹ク云々
千島近海ノ海洋調査ニ至リテハ最モ不十分ナリ多少之レガ調査ヲ爲シタルモノナキニアラズト雖モ皆斷片的ナリ、然レト
モ大體ニ於テ其東側ハ常ニ比較的寒冷ナル水ヲ以テ洗ハレ其西側ハ稍温暖ナル水ノ存在スルヲ認ムルハ衆説ノ一致スル所
ナリ、此東側ノ冷水ハ即チ本土東北諸國ノ沿海ニ來ル所謂親潮ノ上源ニシテ白令海ノ西部ヨリ來ルモノナルコトハ疑ナキ
カ如シ、西側ノ暖水ハ北洲ノ東北岸ヲ洗ヒテ北上スルハこゝトク海東部ノ暖流ナラント云フ蓋シ白令海、こゝトク海及
日本海ハ何レモ其東部ニ於テ温暖ナル水ヲ有シ西部ニ於テ寒冷ナル水ヲ存スルハ學者ノ首肯スル所ニシテ千島東側ノ海水
ハ白令海西部ニ似タル性質ヲ帶ヒ千島西側ノ海水ハこゝトク海東部ノ特性ヲ顯ハスモノナリ冬季西北風ノ連吹スルニ當
リ流水カおこトク海西北部ヨリ來リ又多數ノ流木カ千島諸島ノ西岸ニ漂着スルヲ見レハ冬季ニハこゝトク海ニ於テ西
南ニ向テ流ル、一種ノ皮流アルヲ認メラルヘシ、左圖ハ千八百八十八年八月十六日ニ於ケルこゝトク海及其附近ノ海水
表面ノ同温線ヲ示スモノニシテ「マカロフ」氏著ビちあつ號及太平洋ヨリ採摘シタルモノナリ、參觀セラルヘシ
千島沿岸干潮満潮ノ差ハ三尺五寸乃至六尺ニシテ各島間ノ海峡ニテハ干潮時ニハ東南ニ流レ満潮時ニハ西北ニ流ルト云フ

北洲固有ノえぞ松、トド松、樺、赤楊等ヨリ成ル森林ハ國後ニハ相應ニ繁茂スルモ漸ク北スルニ從ヒテ其程度ヲ減シ得撫ニ
至ルトキハ著シク寂寥短矮トナリ得撫以北ニテハ唯計吐夷其他ノ小島ニ間々樺、赤楊等ノ矮樹ヲ見ルノミ然レトモ熊笹、
薇、撒形科植物、薊、蓴ノ類ハ海岸處々繁生シ山岳平地亦各種ノ雜草ヲ生ス、岩崖ノ海ニ接スル所ニハ北海固有ノ藻類繁
茂ス其滿潮線ニ近ク生スルモノハあまのりノ一種其稍下位ニシテ干潮線ノ中間ニ生スルモノハふくすノ一種、干潮線
ノ邊ニ生スルモノハあいのわかめト稱スルモノナリ、干潮線下一二尋ノ深處ニ生スルモノハねこあしこんぶトス、而シ

表度温面表水海、中月ハルケ於ニ述附其及海クツコオ
(洲観氏ヲロカマ)



動植物

六
ミナリ、秋ハ最モ好キ氣候ニシテ西風吹キテ晴天打續キ十一月中頃ニ及フ、冬ハ寒冷ニシテ主トシテ西北風吹ク云々
千島近海ノ海洋調査ニ至リテハ最モ不十分ナリ多少之レヲ調査マ爲シタルモノナキニアラズト雖モ皆斷片的ナリ、然レト
モ大體ニ於テ其東側ハ常ニ比較的寒冷ナル水ヲ以テ洗ハレ其西側ハ稍溫暖ナル水ノ存在スルヲ認ムルハ衆説ノ一致スル所
ナリ、此東側ノ冷水ハ即チ本土東北諸國ノ沿海ニ來ル所謂親潮ノ上源ニシテ白令海ノ西部ヨリ來ルモノナルコトハ疑ナキ
カ如シ、西側ノ暖水ハ北洲ノ東北岸ヲ洗ヒテ北上スルハこゝトク海東部ノ暖流ナラント云フ蓋シ白令海、もこゝトク海及
日本海ハ何レモ其東部ニ於テ溫暖ナル水ヲ有シ西部ニ於テ寒冷ナル水ヲ存スルハ學者ノ首肯スル所ニシテ千島東側ノ海水
ハ白令海西部ニ似タル性質ヲ帶ヒ千島西側ノ海水ハこゝトク海東部ノ特性ヲ顯ハスモノナリ冬季西北風ノ連吹スルニ當
リ流水方ハこゝトク海西北部ヨリ來リ又多數ノ流木カ千島諸島ノ西岸ニ漂着スルヲ見レハ冬季ニハこゝトク海ニ於テ西
南ニ向テ流ル、一種ノ皮流アルヲ認メヨルヘシ、左圖ハ千八百八十八年八月十六日ニ於ケルハこゝトク海及其附近ノ海水
表面ノ同温線ヲ示スモノニシテマロフ氏著ビもあつて及太平洋ヨリ抜擧シタルモノナリ、參觀セラルヘシ
千島沿岸干潮満潮ノ差ハ三尺五寸乃至六尺ニシテ各島間ノ海峡ニテハ干潮時ニハ東南ニ流レ満潮時ニハ西北ニ流ルト云フ

北洲固有ノえぞ松、ヒマ松、樺、赤楊等ヨリ成ル森林ハ國後ニハ相應ニ繁茂スルモ漸ク北スルニ從ヒテ其程度ヲ減シ得撫ニ
至ルトキハ著シク寂寥短矮トナリ得撫以北ニテハ唯計吐夷其他ノ小島ニ間々樺、赤楊等ノ矮樹ヲ見ルノミ然レトモ熊笹、
藪、撒形科植物、薊、蔦ノ類ハ海岸處々繁生シ山岳平地亦各種ノ雜草ヲ生ス、岩岸ノ海ニ接スル所ニハ北海固有ノ藻類繁
茂ス其滿潮線ニ近ク生スルモノハあまのりノ一種其積下位ニシテ干満二潮線ノ中間ニ生スルモノハふくすノ一種、干潮線
ノ邊ニ生スルモノハあいのわかめト稱スルモノナリ、干潮線下一二尋ノ深處ニ生スルモノハねこあしこんぶトス、而シ

テ夫レヨリ以下深サ十尋ニ至ル間ニ生スルモノハおにわかめナリ、此ノ海藻ノ葉ノ幅ハ八九寸、長ハ四五十尋ニ達シ葉莖ハ中空ナルヲ以テ潮流緩ナルトキハ能ク水面ニ浮泛シ長葉相重リテ水面ヲ蔽ヒ之ヲ遠ク望メハ岩礁ノ如ク近ツイテ其上ヲ舟行スルコト亦困難ナリ

千島ノ陸上動物中主要ナルモノハ熊ト狐ナリ其熊ハ所謂熊ニシテ毛色暗褐ナリ國後、擇捉、占守及幌筈島ニ産ス、狐ハ各島概不之ヲ産シ唯雷公計、知林古丹、越湯磨、志林規各島ニハ之ヲ産セス、其毛色ニハ赤、黒、十字ノ別アルモ赤ヲ最多トシ十字之ニ次キ黒最少シ此等狐ノ冬毛ハ濃厚ニシテ頗ル美ナリ、鳥類ハ百六七十種アリト云フ然レトモ多クハ候鳥ナリ、就中えとひりか、ぎるもと、しのりかも、ふるまかきめ、ハ最多數群來シ此處ニ産卵蕃殖シ、ぎるもと、しのりかもノ如キハ北海獵業者ノ珍味トスルトコロ又ぎるもと及ふるまかきめ、ノ卵ノ如キハ鷄卵ト其味同シキヲ以テ白令海ノ土人ノ如キハ之ヲ採集シテ食用ニ供スト云フ、海獸トシテ古來有名ナルハ臘虎及臘駝獸ナリ此二種ニ就テハ別ニ詳述スル所アルヘシ、海驢ノ蕃殖ハ旺盛ニシテ千島列島中約十八箇所ノ蕃殖場アリト云フ、海豹ハ各島ニ普通ナルモ甚多カラス

千島ハ深海底ヨリ噴起シタル島嶼ニシテ沿海ハ岩礁多ク急ニ深キヲ以テめばる、そい、あぶらめノ如キ所謂礁魚ニ宮ムモ砂泥質ニ棲息スル魚族ニ乏シ唯南端及北端ニ位スル諸島ハ北洲又ハ勘察加ニ接スルヲ以テ附近ニ淺海ヲ存在シ鱈、大鮭、蟹ノ類多シ殊ニ南方國後島ノ西南沖合ニハ近年たらば蟹ノ漁業盛ニシテ北方阿賴度島西北沖合ニハ鱈ヲ饑産シ日米漁船ノ増集スル所タリ鰹魚トシテ秋刀魚ノ如キハ夏期近海ニ群游スルヲ見ルモ之レカ漁獲ヲ試験シタルモノナシ各島何レモ大ナル河川ヲ有セサレハ鮭鱒ノ湖上甚タ多カラス但シ國後、擇捉、得撫、幌筈、占守ノ各島ニハ可ナリ鱒ノ漁獲アリ

千島ノ住民

國後、擇捉等南方諸島ノ土族ハ北洲「あいぬ」種ニ屬スルモ占守其他北方ノ土族ハ勘察加半島ノ種族ト同一ナリ、而シテ此

等ノ土民部落ノ主ナルモノハ國後、擇捉ノ外、得撫(小舟港)、新知(武魯頓灣うらとまん)、羅處和(をれしちふい)、占守(まいるつば)ニ散在シタリ、而シテ其南千島ニ住スルモノハ自然我北洲ト來往シ北千島ノモノハ勘察加ト交通シ又夏季此等島嶼ニ寄泊スル商船ト物貨ノ交換ヲ爲シ以テ銃砲火藥、小刀、煙草等ノ供給ヲ得、臘虎、狐等獸皮ヲ輸出シタリ又夏季(三百二十年前)福山城主カ豐太閣ニ獻上シタル臘虎皮ノ如キモ亦此南千島ノ產ナリシナルヘシ、南千島土族ノ漸次北方ニ發展セントスルヤ明和二年(百四十八年前)ニ至リ露國獵業者トノ間ニ鬭争ノ事アリテ一時露人ノ來獵少カリシモ寬永ノ末頃(凡百四十年前)露人數多來リ此ヨリ土人ノ擇捉以北ニ出獵スルモノナキニ至レリ

明治八年樺太千島交換ノ事アリ多クノ土人ハ勘察加地方ニ移住シタルモ尙少數ハ占守其他ノ島嶼ニ殘留シタリ明治十七年ニ至リ政府ハ此殘留土人合計約九十人ヲ色丹島ニ移住セシメ米附ヲ給與シ公醫ヲ置キ保護ヲ加フルモ風土ノ之ニ適セサルカ故ニ年々其數ヲ減シ今ヤ其數五十七人(内男十七人、女四十人)トナリ、而モ此等ノ土人中ニハ政府ノ保護ヲ脱シテ占守其他ノ島嶼ニ歸還センコトヲ願フモノアリト云フ

内地人ノ始メテ千島ニ來リ住居ヲ定メシハ何時ノ頃ナルヤ明ナラズト雖モ寬政十一年(百十六年前)兵庫縣ノ人高田屋嘉兵衛ナルモノ擇捉島ニ來リ會所ヲ建テ土人ヲ僱役シ臘虎其他ノ漁業ヲ爲セリト云フ

臘虎獵業ノ沿革

臘虎ノ千島沿岸ニ於テ獵獲セラル、ハ普ク人ノ知ル處ニシテ文祿二年(三百二十二年前)十一月福山城主蠣崎慶廣臘虎皮ニ枚ヲ豐太閣ニ獻セシ以來時々將軍ニ獻上ノ事アリシハ文獻ニ見ル所ナリ、然レトモ由來僻遠ノ地ニ於ケル土民ノ產業ナリシカハ其詳細ナル變遷ニ關シテハ多ク知ラル、モノナシ、明和二年(百五十年前)同獵業ニ關シ日露民間争闘ヲ起シ以來彼我營業者ノ勢力互ニ一縮一縮アリ寬政十一年松前藩ニ於テ漁場受負人ノ制ヲ定ムルヤ寬政十二年(百十五年前)兵庫ノ人

高田屋嘉兵衛ナルモノ擇捉島ニ來リ會所ヲ建テ土人ヲ僱役シ臘虎其他ノ漁業ヲ始メタリ、獵獲シタル獸皮ハ概ネ獵物ト稱シ漁場請負人ヨリ松前藩ニ上納シ藩ヨリ相當ノ代價ヲ支拂フコト、シ密ニ販賣スルコトヲ嚴禁セラル、斯クテ獸皮ハ更ニ肥前長崎ニ轉輸シ此處ニ支那商人ニ賣却セラレタリト云フ、其後元治慶應ノ頃千島ニ臘虎ノ豐富ナルコトノ海外ニ傳ハルヤ外國獵船ノ同近海ニ來リ密獵ニ從事スルモノ前後五十餘隻ニ達シ此等ノ内ニハ難破又ハ行衛不明トナリシモノモ多クアリシカ如シト雖或年ニハ千島沿海ニ彙集セシモノ十二隻ノ多キニ達セシコトアリト云フ、明治二年北海道開拓使ノ設置アルヤ擇捉島ニ出張所ヲ置キ委員ヲ派シテ之レカ取締ヲ爲サシメタリ、明治六年ニ至リ擇捉土人ヲ雇ヒ臘虎獵業官營ヲ開始シ所屬汽船又ハ帆船ヲ以テ獵業並ニ取締ヲ爲シ同時ニ軍艦ヲ以テ警邏セシムルコト、ナレリ、明治七年開拓使ニ於テ「北海道及其近傍我所轄ノ諸島沿海諸獵取締心得」ヲ定メタルニ明治八年露國ト交渉ノ結果千島列島全部我所領トナリシヲ以テ明治九年更ニ太政官達ニヨリ「日本帝國ノ所轄タル北海道及其近傍諸島沿海諸獵規則」ヲ發布シ外國船密獵防禦ヲ努メシカ其實果ヲ擧グルコト能ハサリシモノ、如ク爾來獸群ノ著シク減少スルヤ明治十一年開拓使長官ハ根室支廳(當時臘虎獵業ヲ擔當ス)ニ一條例ヲ達シ獵獲制限ヲ設ケ且ツ該獸ニ關スル諸調査ヲ命シタリ、明治十五年二月開拓使ノ廢セララル、ヤ同獵業事務ハ農商務省ノ所轄ニ移サレタルモ同事業ヲ繼續スルコトナク、明治十七年五月太政官布告第十六號ヲ以テ農商務卿ノ特許ヲ得ルニ非サレハ北海道ニ於テ臘虎並ニ臘胎獸ノ獵獲ヲ爲スヘカラサルノ規定ヲ設ケラレ則チ官營ヲ廢シテ特許制度ヲ採用スルコト、ナリシナリ、今開拓使ノ臘虎獵業官營中ニ於ケル事業成績ノ概要ヲ示セハ左表ノ如シ

年次	獵獲臘虎皮數	事業費
明治六年	二九八	一九六
同七年	七八	二五三
同八年	二五〇	二、九八八

同	同	同	同	同	同
九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年
二八五	三四三	二七〇	二一〇	一三七	七七
四、七〇七	三、四六七	六、八三九	八、七四四	一、四六三	一四、〇七三

外三七二五弗 年不明

尙船長「スノ」氏ノ記述スルトコロニ據レハ明治五年以後同十四年ニ至ル間内外獵業者ノ千島ニ於テ獵獲シタル臘虎ノ頭數左ノ如シ

年次	開拓使獵獲	外國獵船收穫	合計
明治五年	二九八	三〇〇(一)	三〇〇
同六年	七八	一九六(七)	四九四
同七年	二五〇	一、三五三(三)	一、四三一
同八年	二八五	一、二五〇(七)	一、五〇〇
同九年	三四三	一、一五〇(八)	一、四三五
同十年	二七〇	一、〇八三(九)	一、四二六
同十一年	二一〇	八一八(九)	一、〇八八
同十二年	一三七	三七五(七)	五八五
同十三年	七七	四五〇(八)	五八七
同十四年	一、九四八	三五〇(二)	四二七
計		八、三二五	一〇、二七二

即チ十年間ニ於ケル一箇年平均ハ約一千頭ナリシヲ知ルヘシ
 明治十七年太政官布告第十六號公布以來久シク千島ニ於ケル海獸獵ノ特許ヲ出願スルモノ無ク而モ警備少キニ乘シ外國密獵船ノ跋扈甚シキニ至リタレハ明治十九年勅令第八十號ヲ以テ獵場區域獵期生皮検査ノ方法ヲ公示セラレ北海道廳ハ其取締手續ヲ定メ明治二十一年ニ至リ農商務大臣ハ始メテ帝國水産株式會社ニ對シ五箇年間區域ヲ定メ輪番獵獲ノ方法ヲ定メ、臘虎及臘獸獵業ノ特許ヲ與ヘ前記勅令第八十號ノ實效ヲ舉ケ且ツ密獵防禦蕃殖保護ノ責務ヲ負ハンメタリ、然レトモ該會社ハ元來海獸獵業ニ經驗少カリシ爲メ密獵防禦ノ責ヲ盡スコト能ハサリシノミナラス其業務舉ラサルヲ以テ同二十六年滿期ニ際シ得撫以北ハ全部帝國水産株式會社ノ特許ヲ繼續シ其他ハ沿岸漁業者ノ組合ニ特許スルコト、ナレリ、然レトモ臘虎ノ激滅、臘獸蕃殖場ノ荒廢ノ爲メニ千島沿海ノミニ於ケル海獸獵業ニテハ利益ヲ得ルコト能ハサルノ狀況トナリタリ、明治四十四年臘獸及臘虎保護條約(臘獸獵業ノ章參照)成ルヤ同年勅令第二百八十七號並ニ明治四十五年法律第二十一號ヲ以テ領海外ニ於ケル一般獵業ヲ禁止セラレ領海内ニ於ケル獵業ハ官營ト定メラレタリ

臘獸獵業ノ沿革

千島ニ來往スル臘獸ハ臘虎ト共ニ往昔ヨリ土人ノ間ニ知ラレタルモノナレトモ其蕃殖場ノ位置並ニ其狀況等ニ就テハ明カナラサリシナリ、然ルニ明治十四年英國獵船々長「スノ」氏カ臘虎密獵ノ際不圖摺手岩ニ於テ該獸ノ蕃殖場ヲ發見シ五千餘頭ヲ獲續テ他ノ密獵船ニヨリ雷公計、牟知ノ諸島ニ於ケル同蕃殖場ヲモ發見セラレ合計殆ント八千餘頭ノ收穫ヲ算スルニ至レリ、爾來數年間ハ千島各島密獵高年平均凡五千頭ニ及ヒタリト云フ、明治十七年太政官布告第十六號ニ於テ始メテ臘獸ノ字ヲ見ルハ之レカ爲メナリ、而シテ明治二十一年帝國水産株式會社カ千島ニ於テ臘獸獵業ノ特許ヲ得タル頃ニハ其蕃殖場ハ已ニ荒廢ニ近ツキシ時ニシテ島上ニ於ケル獵業ヲ目的トシテハ業務ノ振ハサル當然ノ事ナリトス

自明治十四年 千島ニ於ケル内外船臘納獸獵獲表

年次	獵船數	内外船別		總捕獲數	一隻平均數	備考
		日本船	外國船			
明治十四年	二			七、七五〇	三、三七五	總捕獲中一子頭ハ千島土人ノ捕獲セシモノナリ
同十五年	七			四、四九〇	六四三	
同十六年	二			四八七	二四三	
同十七年	五			二、四五一	四九〇	
同十八年	明			六、四九一	二四六	
同十九年	四			九八六	四六〇	
同二十年	二			九二一	九	
同二十一年	一			四四	二二	
同二十二年	二			三七九	一二六	
同二十三年	三			四四	二二	
同二十四年	二			三四〇	八五	
同二十五年	四			七五	二五	
同二十六年	三			四	八	
同二十七年	一			八	二	
計	一一			二四、四九一	一二	

各島ニ於ケル臘納獸獵獲頭數表

年次	摺手岩	雷公計島	牟知列岩	武魯頓島	場所不明
明治十四年	七、七〇〇		一、二四〇		
同十五年	三、二五〇		八七		
同十六年	四〇〇		一、七五八		
同十七年	六九〇		四九一		
同十八年		六、〇〇〇	一〇〇		
同十九年		八八六			
同二十年		九二一			
同二十一年		九			
同二十二年					
同二十三年					四四
同二十四年					三七九
同二十五年		三四〇			四四
同二十六年		六三			二
同二十七年			四		
同二十八年				八	
同二十九年					一
計	一一、〇四一	八、二一九	三、七三三	一四	四八一

然ルニ明治二十六年英米間白令海ノ問題ノ巴里仲裁判定ニ依リテ解決セラレ米國西海ニ於ケル臘納獸海上獵業ニ嚴重ナル制限ノ設ケラル、ヤ英米ノ同獵業船ハ倉然トシテ我近海ニ來集シ大ニ我官民ヲ刺戟シタリ、是ニ於テカ些々タル而モ荒廢ニ近キ千島海獸蕃殖場ノ保護ニ力ヲ加フルヨリモ此際寧ロ遠海臘納獸獵業ヲ獎勵シ實力ヲ以テ外國獵船ヲ驅逐スヘシトノ議起リ明治二十八年「臘虎臘納獸獵法」ヲ公布セラレ從來ノ特許制ヲ廢止シ續テ明治三十年「遠洋漁業獎勵法」ヲ發布セラレ

タレハ帝國水産株式會社ヲ始メトシ漸次英米ノ獵法ニ倣ヒ獵船ヲ鑲裝スルモノ増加シタリ、當時法律ニ依リ獎勵ノ目的トナレル漁業ノ種類ハ臘納獸獵業ノ外各種ニ互レルニモ拘ハラス獎勵金ヲ受ケタルモノハ臘納獸獵業ノミナリシハ以テ該獵業ノ大ニ世人ノ注目スルトコロトナリシヲ知ルニ足ルヘシ左ニ明治二十九年以來同獵業ノ狀況ヲ表示ス

年次	獵船數	獵獲總數	一隻平均獵獲高
明治二十九年	九	三、三一九	三六九
同 三十年	一三	四、六一六	三三〇
同 三十一年	一六	四、七五七	三〇〇
同 三十二年	一二	六、五一八	五四三
同 三十三年	一四	七、五三三	五四一
同 三十四年	一五	七、〇四五	四〇三
同 三十五年	一五	七、四五四	四一七
同 三十六年	二一	一〇、九三七	五二一
同 三十七年	二八	一五、六九八	五六一
同 三十八年	二八	一〇、三三五	三六九
同 三十九年	二九	一〇、四七五	三六一
同 四十年	三六	一〇、四二二	二九〇
同 四十一年	三四	一三、三一〇	三九三
同 四十二年	三四	一〇、二四六	三〇一
同 四十三年	三三	八、三〇九	二五一
同 四十四年	四七	一二、〇八一	二五七

即チ明治三十六年頃ヨリハ船數頓ニ増加シ全ク外國獵船ヲ驅逐シ得タルハ勿論漸次白令海及米國西岸近ク進獵スルニ至レ

リ然レトモ一隻當リ平均獵獲高ハ寧ロ増加セス漸次利益ノ減退ヲ示シ且ツ密獵ノ嫌疑ヲ以テ米露ノ官憲ニ拿捕セララル、モノ年々續出シ又米露ニ於ケル該獸蕃殖場モ漸次寂寥ニ赴キ其收穫昔日ノ比ニ非ラサルモノアルニ至リタリ、明治四十四年米國ノ主唱ニ基キ華盛頓府ニ於ケル日米露英四箇國會議ノ結果成立シタル臘納獸及臘虎保護條約ニ依リ明治四十四年公布勅令第二百八十七號並ニ明治四十五年公布法律第二十一號ヲ以テ臘納獸海上獵業ヲ禁止セラレ陸上獵業ハ官營トナリタリ

臘虎及其獵法

臘虎ハ食肉獸ニシテ鼬類ニ近似シタル動物ナリ、其特異トスル所ハ水中ニ棲息スル爲メ後肢ノ指間ニ膜アリテ蹠狀ヲナシ齒ハ貝類及海膽類ヲ食スルニ適スル爲メ尖銳ナラス、殊ニ後方ノ齒ハ所謂臼齒狀ヲナセリ、嗅覺頗ル鋭敏ニシテ人煙ニ近キ處ニ棲息セス軟毛ハ栗色ニシテ厚サ八分ニ達シ貴重獸ノ最タリ北太平洋ノ離島沿岸ニ産ス獵獲激甚ナル爲メ其數年々減少シ北米ノ側ニテハ全ク絶滅シタル所アリ、好シテおにわかめノ如キ海藻ノ繁茂スルトコロニ棲息ス、體長ハ四尺ニ達スルモノアリ、但シ其内一尺許リハ尾ナリ、皮膚ハ甚タ緩カニシテ體長四尺ノモノハ容易ニ六尺ニ展張スルコトヲ得ヘシ、生殖時期ハ一定セサルモノ、如ク一牝一兒ヲ産ムヲ通例トシ、分婉ハ海藻上ニ於テスト云フ、哺乳期ハ凡一箇年ニ互リ母獸ハ哺乳兒ヲ保庇スルノ情頗ル厚シ

臘虎獵獲ノ方法トシテ從來土人ノ間ニ行ル、モノハ弓矢、鉗殺、棒打(冬季)羅網ニ在ルモ輒近密獵船カ銃器ヲ使用スルニ至リ其方法一變セリ、今其方法ヲ略記センニ本船ナルスグーナアハ別ニ若干里ヲ隔テ爾地ニ碇泊シ三隻ノ端艇ニ五六人ツツ乘組ミ、各隻ハ地乗り、中乗り、沖乗りト凡一定ノ距離ヲ隔テ、海岸ニ並行シテ臘虎ノ棲息地ヲ探檢ス、各艇ニハ一人ツツノ銃手アリ連發銃ヲ持シテ艇首ニ立チ常ニ前面ヲ凝視シ若シ臘虎ヲ發見シタルトキハ舵手ニ命シテ其機ヲ舉ケシメ以テ他艇ニ信號ス、然ルトキハ各艇ハ臘虎ノ所在ヲ中心トシテ各三四百間ノ距離ヲ保チツ、三角陣ヲ作り水中ニ潜没シタル臘

虎カ呼吸ノ爲メニ水面ニ頭ヲ顯ス度毎ニ發砲シテ疲勞セシメツ、各端艇漸次密接シテ終ニ射止ムルナリ
 羅網ノ方法ハ前述ノ如ク元來土人ノ用ヒタルモノナルモ露顔こんさんだ諸島ニ於テハ今尙此方法ニ由リ獵獲スト云フ、
 即チ海藻繁茂シ臘虎ノ棲息スル處ニ粗目ノ羅網ヲ張り置クトキハ臘虎ハ休眠センカ爲メニ此處ニ來リ其網目ニ羅リ大ニ恐
 レテ逃グルコトヲ知ラス、故ニ容易ク之ヲ捕獲シ得ルナリ、然レトモ體カ網ニ纏絡スル爲メニ皮毛ヲ幾分損スト云フ
 捕獲シタル獸ハ可成速カニ腹面中央線及四肢ニ沿フテ皮ヲ切り開キテ剥キ又ハ丸剥キトナシ長方形ノ框ニ張りテ陰乾ニス
 ルナリ

臘肭獸及其獵法

臘肭獸ハ食肉獸ニシテ鱗脚類ニ屬ス、其四肢ハ皆鱗狀トナリ體ノ形狀最モ游泳ニ適セリ、數種アリ北太平洋產ハ南太平洋
 其他南半球ノ產ト種類ヲ異ニセリ、北太平洋產ニ就テモ三種ノ別アリトセルモノアルモ是レ或ハ單ニ地方的變形ニ過キス
 トスルヲ可トセン、軟毛ハ茶褐色ニシテ臘虎ニ比スレハ頗ル短ク且ツ硬毛多量ナルカ故ニ倫敦ニテハ硬毛ヲ拔キ取り軟毛
 ヲ黑色ニ染メテ販賣ス三四年獸皮ヲ以テ最良トス
 臘肭獸ハ夏季寒帯ノ孤島ニ群集スルモ冬季ニハ遙ニ温帯ニ南下シ南北緯三十五度ノ邊マテ來ル、即チ一箇年間ニ約八百哩
 乃至千二百哩ノ間ヲ往復スルモノナリ、而シテ夏季寒帯ノ孤島ニ群集スルハ主トシテ生殖ノ目的トスルモノニシテ冬季温
 帯ニ至ルハ嚴寒ヲ避クルニ在リ、其ノ間該獸ノ食トスルコロハ遠洋ニ在リテハ主トシテ柔魚類、寒帯番殖場、附近ニ在
 リテハ鯨等ノ魚族ナリ、遠海廻游ノ際ニハ老幼雌雄群ヲ爲シ睡眠ヲ貪リツ、游泳スルモ其番殖場ニ於テハ前半期ハ秩序整
 然タルモノアリ、元來該獸ハ一夫多妻ノ習性アリテ一牡能ク二三十乃至百餘頭ノ牝獸ヲ控ユルモノナリ、故ニ牡獸間ノ競
 爭頗ル激烈ナルモノアリ爲ニ成牡ニシテ牝獸ヲ控ヘ得ルモノハ六七年ノ強大ナルモノニシテ其體格普通牝獸ノ二倍以上

アリ、此成牡ハ六月初メ頃マテニ孤島沿岸最モ上陸シ易キ地點ニ位置ヲ占ム最モ優勢ナル牝獸ハ最モ海岸ニ近キ處ヲ占領
 シ稍々弱キ牝獸ハ順次内地ノ方又ハ他ノ不便ナル海岸ニ踞居シ各頭數坪乃至十數坪ノ地域ヲ以テ自己ノ家族ヲ作ルヘキ場
 所ト定メ、決シテ他獸ノ侵入ヲ許サス、故ニ其後ニ續テ上陸スル四五年未滿ノ牝獸ハ不得已遙ニ内地ノ方又ハ他ノ方面ニ
 上陸スルヲ普通トシ、其間截然タル區別アリ、而シテ六月中旬ヨリ來著スル牝獸ハ夫々成牡ニ配セラレ分婉交尾ヲ遂ケ且
 ツ幼兒ノ哺育ヲナスナリ、八月頃ニハ成牡ノ精力大ニ減退シ時々食餌ヲ得ンカ爲メ海ニ入り家族ヲ維持セサルニ至ルヲ以
 テ玆ニ獸群ハ入り亂レテ雜然タル群集トナルナリ

臘肭獸獵法トシテ陸上ト海上ト別アリ陸上獵法ハ夏季其上陸シタル孤島ニ於テ撲殺スルヲ以テ古來ノ法トナス、但シ近年
 ハ生殖ニ關係セサル若牡即チ所謂鰥獸ヲ一處ニ驅集シテ撲殺スルノ法ヲ探レリ、是レ獸群ノ番殖ヲ害セザランコトヲ欲ス
 ルカ故ナリ、海上獵法ハ元ト慶應二年ノ頃加奈太ニテ始メテ行ハレ續テ合衆國ニ傳ハリ明治二十五年頃我邦ニモ起ヨリ
 タル方法ニシテ、通例六七十噸ノスクーナアヲ以テ本船トシ臘肭獸群ノ廻游區域ニ於テ端艇六七隻ヲ繰出シ散彈ヲ以テ銃
 殺スルモノナリ、加奈太及合衆國ノ獵船ハ巴里仲裁判決ノ結果自令海ニ於テ銃器ヲ禁セラレタル以來銃器ニ代ユルニ銃ヲ
 以テセリト云フ此海上獵法タル雌雄ノ別ナク斃スノ故ヲ以テ獸群番殖上有害ナリトシテ米露政府ハ之レカ禁止ヲ唱道セリ
 捕獲シタル獸ハ其陸上ナルト海上ナルトヲ問ハス可成速カニ口及鱗ノ周圍ノ皮ヲ切り夫レヨリ腹面中央ヲ縱ニ切り開キテ
 皮ヲ剥キテ鹽藏スルヲ通例トス

臘虎及臘肭獸生息地

色丹島及其附近ノ小島ニハ臘虎及臘肭獸ノ生息地ナシ唯此等海獸カ稀ニ其海岸ニ來ルコトアルニ過キサルナリ、然レトモ
 海豹ノ群棲處ハ所々ニ在リ

國後島ハ最モ北洲ニ接近シタル島ニシテ其動植物ノ状態ハ北洲ニ類ス、其東南沿海ハ有名ナル蟹漁場ナリ、而シテ東北端ニ位スル美麗ナル爺々火山ノ海ニ盡キおにわかめノ蕃殖スル所ニハ臘虎ノ生息ヲ見ル、臘納獸ノ上陸地ナキモ海豹ノ群多シ

擇提島ハ千島諸島中最大ナルモノニシテ全島八箇ノ山嶽ト其間ニ介在スル平野高原ヨリ成リ野獸ニ富ム殊ニ狐ノ蕃殖盛ナリト云フ、沿岸ニ小灣多ク碇泊ニ便利ナリ、住民ノ部落ハ西北おこ一つく海ノ側ニ多シ、是レ此側ニハ河湖ニ富ミ鮭鱒漁業ノ利アレハナリ、臘虎ハ本島ノ西南海岸ニ蕃殖セシモ明治初年ニハ内外人ノ此處ニ獵獲シタル數ハ數千頭ニ達シタレハ今ヤ其數大ニ減少シタリ、海獺ノ上陸點ハ西南端及東北端ニ在ルモ臘納獸ノ上陸處無シ

得撫島ニハ未タ一定ノ部落ナシ夏期鮭鱒漁業者カ其西岸ニ渡來スルモノアルノミ、露領時代ニハ其東岸小舟港ニ露米商會ノ出張所アリテ此處ニ土人ノ住居スルモノアリシト云フ、全島森林トシテ見ルヘキモノナキモ西北沿岸ニハ流木處々ニ堆積シ薪炭ノ外家屋ノ用材トナスヲ得ヘシ、熊ヲ産セサルモ黒、十字、赤三種ノ狐ヲ饒産ス、而シテ十字及黒ハ床丹灣以北ニ又赤ハ以南ニ多シト云フ色丹及擇提土人ノ言ニ由レハ總數二千頭ヲ下ラサルヘク内一割五分乃至二割ハ黒狐ナラント云フ沿岸ニハ暗礁多クシテ各種ノ海藻繁茂ス、殊ニ西南端及東北端ニ近キ海岸ニハおにわかめノ蕃殖盛ニシテ臘虎ノ好棲息地タリ、西南端ニハ海獺ノ蕃殖場アリ、海豹ハ到處ニ見ルヘシ、西北端ニ近キ二子石又ハおにわかめト稱スル處ハ臘虎獵船ノ屢々寄泊スルトコロニシテ各種ノ礁魚、水禽ニ富ミ沿岸小溪流アリ良水ヲ得ヘク流木堆積シテ薪炭ヲ得ルニ易シ

知里保以ノ二島ハ共ニ荒寥タル圓錐形ノ火山ニシテ樹木ヲ生セス、野獸ハ南島ニ棲息セサルモ北島ニハ少許ノ赤狐ヲ産ス又南島ノ西南角ニ近ク海獺ノ蕃殖場アリ、又同島ノ西北邊ニハ突屹タル一離島アリ臘虎岩ト稱ス、其附近ニ暗礁散在シテ海藻繁茂シ良好ナル臘虎ノ一小棲息場ヲ成セリ、此島ノ東邊ニハ碇泊ニ便ナル一小灣アルモ淡水ヲ得ヘカラス

武魯頓島ハ圓蓋狀ノ島ニシテ短倭ナル植物ヲ生スルモ其四周ハ皆懸崖ニシテ登攀スヘカラス、陸獸ハ少許ノ狐ヲ産スト云

フモ分明ナラス島ノ西北沿岸ニ在ル低礁ハ海獺ノ蕃殖スルトコロナルモ臘納獸モ亦上陸セルヲ見タルモノアリ

新知島ハ得撫島ニ次テ大ナル島ナレトモ住民ノ部落ヲ存セス、島ノ北端ニ位スル新月形ノ武魯頓灣ノ東岸ハ露米商會ノアリシ所ニシテ明治十一年頃迄露人一ありと人五十名許アリテ羅處和ニ居住セシ土人ハ臘虎其他ノ毛皮ヲ持テ渡來シ日用品ト交換セリト云フ、十數箇ノ穴居跡今尙存セリ明治四十四年十一月函館ノ人、所ニ藏ハ七名ノ獵夫ト共ニ越年シ翌年三月迄ニ黒狐十頭、十字狐二十五頭、赤狐三十三頭ヲ捕獲シ仙臺ノ人白石廣造ハ十一月下旬武魯頓灣ノ東方ナル中浦ニ五名ノ獵夫ヲ越年セシメテ赤狐六頭、十字狐六頭ヲ翌年三月迄ニ得タリト其他根室ヨリ五名函館ヨリ三名ノ越年者アリテ前者ハ黒三頭、十字十五頭、赤十三頭ヲ後者ハ黒二頭、赤十字合シテ二十頭ヲ捕獲セリト、而シテ一般ノ成績好良ナラザリシハ狐類ノ少ナキタメニアラスシテ根據地ノ選定不良ナリシト雪深クシテ廣ク涉獵シ得ザリシカタメナリト云フ黒狐ハ南西部新知灣附近ニ多ク十字狐、赤狐ハ武魯頓附近ニ多シト云フ

武魯頓灣ハ冬季結氷スルトナキタメ四時魚族豐饒ニシテ清水注入シ港口ニハ流木堆積シ一小漁村ヲ設クルニ適ス明治四十四年四月根室ノ人中村菊藏ハ漁夫三十四名工女十名ヲ送リテ蝦漁業ヲナシ七月十七日迄ニ剝蝦二千六百斤ヲ製造シテ引上ケタリシカハ豫定ノ利益ヲ得ザリシモ有望ナレハ將來益事業ヲ擴張スルモノ、如ク四十五年ニハ七月三十日男女十八名ヲ送り八月一日ヨリ同三十一日迄ニ剝蝦三千斤ヲ製造セリ尙五六月ノ頃ハ鯨群來スルト夥シケレハ建網ノ設置ハ將來有望ナルヘシト云フ武魯頓灣ハ疑モナク舊噴火口ニシテ長サ二哩半アリ、灣口ハ狹クシテ一鏈ニ滿タス、深サ十尺乃至十二尺アリ、海藻繁茂ス、灣ノ周圍ニハ小樹散在スルヲ見ルモ全島植物ノ發生少シ、殊ニ西南部ニ於テハ荒寥タルモノアリ、然レトモ島ノ西北岸ニハ流木ノ處々ニ堆積スルヲ見ル西北岸南部ノ新知灣ニハ碇泊スヘク又飲料水ヲ得ヘシ明治四十四年六月函館ノ人平出喜三郎ハ川崎船五隻漁夫七十餘名ヲ送リテ鱈漁業ヲ開始セシカ七月下旬迄ニ鱈粕僅カニ七俵餘ヲ得收支償ハスシテ中止ス、本島ハ溪流少ク且ツ小ニシテ溯河魚稀ナリ、野獸トシテハ狐ヲ饒産スルノミ、海獸トシテハ海獺甚タ多ク

其蕃殖場ハ島ノ西南端ト東北岬ノ附近ニ在リ海豹ハ普通ナルモ臘虎ハ少シ
 計吐夷島ハ數箇ノ火山峰ノ彙集ヨリ成ル五角形ノ小島ニシテ其西邊ハ概ネ懸崖ヲナシ東邊ハ緩斜ヲ以テ海ニ没ス、而シテ
 其海ニ没シテヨリ一二哩ノ間ハ暗礁多クシテ投錨スヘカラス、投錨ニ適スル處ハ北岸及南岸ニ在ルノミ、多少ノ野草ヲ
 生シ北側ニハ樺樹ヲ生スル所アリ野獸トシテハ狐ヲ饒産ス明治四十三年九月函館ノ人、所ニ藏ハ獵夫三名ト共ニ西南端崖
 下ニ越年シ翌年四月迄ニ黑狐四十七頭、十字狐八十頭、赤狐六十頭ヲ捕獲シタリト云フ、西南角及東南角ニ海驢ノ蕃殖場アリ
 リ臘虎及海豹ハ少シ西南角ニハ臘豚獸モ少シク蕃殖シ海上獵者ノタメニ屢撲殺セラレ、タノ其數増加セス、而シテ最近撲
 殺セシハ上部遍理所有父島丸及竹内二郎所有ノ伊勢丸ノ二獵船ニシテ前者ハ四十二年六月十九日頭ノ成獸及七頭ノ幼獸
 ヲ又伊勢丸ハ同年九月下旬老幼總計五十餘頭ヲ捕獲シ翌四十四年六月四日頭ヲ撲殺セリト云フ本省巡視船方大正元年九月初
 旬巡航セル際ハ一頭モ認メザリシト云ヘリ

宇志知島ハ長サ一哩半許ノ二小島ヨリ成ル、其南島ニハ小灣アリ暮田灣ト云フ是レ又疑モナク舊噴火口ニシテ其南ニ開ク
 處ハ水淺クシテ端艇ノ通行ニ適スルノミ、灣ノ東岸ニ溫泉湧出ス、本島ノ東北端ニハ土人ノ部落ノ蹟アリ、又南島ノ南西
 方ニ婆武岩ト名ケタル一岩礁アリ海驢蕃殖ス本省巡視船ハ巡航ノ節數頭ノ半成臘豚獸ヲ認メタリト云フ、南北兩島ノ間ニ
 岩礁並列シ其各側共ニ投錨ニ適ス、全島雜草繁茂ス元ト野獸ヲ産セザリシモ明治三十一年頃八雲丸船長竹山某カ羅處和島
 ヨリ二番ヒノ赤狐兒ヲ移殖セシ以來大ニ蕃殖セリト云フ爲メニ從來其蕃殖頗ル旺盛ヲ極メタリシ鳥類モ今ハ大ニ衰ヘテ崖
 側ニ群棲スルノミナリ、將來摺手岩(其北島ヲ距ル二哩半ニ在リ)ナル臘豚獸蕃殖場ヲ警護スルノ根據地トスヘキ處ナリ、
 然レトモ本島ニハ解雪期ノ外清水ナキ故豫メ準備スルコト必要ナリ

摺手岩礁ハ宇志知島北島ヲ距ル二三哩ノ處ニ位スル數箇ノ礁ヨリ成ル、其北ナルヲ黑岩ト稱シ中央ナルヲ平岩ト稱ヘ又南
 方ニアルヲ海驢岩ト呼フ平岩ハ嘗テ外國密獵船カ數千頭ノ臘豚獸ヲ殺戮シタル處ニシテ長サ二千尺幅七百尺高二十尺アリ

草木ヲ生セス四邊ノ暗礁ニハ海藻繁茂シ幼獸ノ游泳練習ニ適セリ、多年臘豚獸ノ研究ニ從事シタル米國「ステネガア」氏ハ
 本礁ヲ以テ理想的ノ臘豚獸蕃殖場ナリトセリ、唯其面積狹隘ニシテ何等設備ヲ施スノ餘地ナキヲ恨トス、故ニ本礁ニ於ケ
 ル臘豚獸ノ保護ヲ企圖スルニハ根據地ヲ最近ノ宇志知島ニ置カサルヘカヲサレヘシ

羅處和島ハ地形木葉ニ似タリ、其南部葉柄ニ近ク西岸おれしちふいニ土人住居ノ跡アリ、山勢北部ニ急峻ニシテ中央部東
 側ノ高山ヨリハ常ニ白煙ノ噴出シ山頂附近ハ一面ニ硫黃露出セリ稍々低キ部分又ハ溪谷ニハ雜草繁茂ス、溪水少ク野獸ト
 シテハ狐ヲ饒産ス、臘虎、海豹及海驢ハ沿岸ニ之ヲ見ル但シ海驢ノ蕃殖場ハ之レ無シ明治四十四年秋ヨリ四十五年春ニ亘
 リ根室ノ人佐藤仁助外二名越年シ黑狐十七、十字狐五十三、赤狐二十二頭ヲ捕獲シタリト

松輪島ハ正美ナル圓錐形ノ火山島ニシテ其山脚海ニ没スル所ハ概ネ斷崖ヲナセリ、唯東南ニ當リテ地勢稍緩ニ小丘ノ起伏
 スルモノアリテ沙濱ニ終ル、其西南端ニ近ク土人部落ノ蹟アリ、飲料水及流木ヲ得ヘシ、其前面ハ投錨ニ適ス、此部落跡
 反對ノ側即チ本島ノ東側ニ一小嶼アリ、磬城島ト唱フ此小嶼ノ内側モ亦好錨地ナリ、本島ニハ狐ヲ産ス、本島北側ニ海驢
 ノ蕃殖場アリテ十數頭ノ臘豚獸混在スルモ幼兒ヲ認メス、僅少ノ海豹及臘虎ヲ産ス北側ノ懸崖ハ水鳥ノ好蕃殖場ヲ成ス
 雷公計島ハ亦圓錐形ノ火山島ニシテ火山灰砂ヲ以テ蔽ハレ樹木ヲ生セス、雜草モ少ク陸獸無シ山脚ハ玄武岩又ハ其片岩ヨ
 リ成リ海驢ノ群多シ臘豚獸ノ蕃殖場ハ東西兩岸ニアリト云フ「スノー」氏ノ說ニ依レハ西岸ニハ臘豚獸ノ蕃殖場アリ嘗テ少
 クモ一萬五千頭上陸シタルコトアリシナラント云フ、然レトモ今ハ斷崖墜落シテ又舊態ヲ存セス東岸ノ蕃殖場ハ海驢ニ占
 領セラレ臘豚獸ハ其一隅ニ蟄居スルノミ米國「ステネガア」氏ハ若シ本島ニ臘豚獸蕃殖場アリトセハ其蕃殖場トシテハ最モ
 不適當ナリトセリ蓋シ氏ハ斷崖墜落セル現狀ヲ觀察シテ速斷セルニハアテサルカ

牟知岩礁ハ三箇ノ稍大ナル岩ト數多ノ小礁ヨリ成ル、其内最南ノ岩(海豹岩)ニハ臘豚獸ノ蕃殖場アリシカ今ハ海驢ノ獨占
 スル所トナレリ、此岩ハ玄武岩ヨリ成リ其長七百尺未滿ナルヘク、高八十尺以下ナルヘシ北方低クシテ之レヨリ上リ得ヘ

シ近年ハ最北ノ長岩ニ該獸上陸シ四十四年九月父島九ハ二十餘頭ヲ認メ内七頭ヲ捕獲シ大正元年九月本省巡視船ハ四頭ノ成獸及一頭ノ幼獸ヲ認メ海豹岩附近ニテ八頭ノ半成獸ノ游泳スルヲ見タリト云フ
 捨子古丹島ハ中間低地ヲ以テ連續セル二火山臺ヨリ成リ地形瓢狀ヲナス、山嶽ノ下部ニハ雜草ヲ生シ低地ニハ小流アリテ飲料水ヲ得ヘク流木モ多シ、西岸乙女灣ハ好投錨地トス、陸獸トシテハ唯赤狐ヲ産スルノミ、水鳥ハ他ノ島ニ比シ稍少キカ如シ全沿岸暗礁ニ富ミ海藻亦繁茂シ臘虎ノ好蕃殖場ナリ、元ト多數棲息セシモ密獵者ノ爲ニ殆ント絶滅セリ、海豹ニ可ナリニ之ヲ見ルモ海驢ノ蕃殖場ナシ

越湯磨島ハ捨子古丹島ノ西北三哩四分一許ニ在ル小火山島ニシテ東部稍低キ處ニ雜草ヲ生スルノミ野獸ナク水鳥ノ蕃殖盛ナリ、東北角ニ海驢ノ蕃殖場アリ、尙海豹及僅少ノ臘虎ヲ見ルヘシ

知林古丹島ハ越湯磨島ノ西方十六哩ニ位スル一小火山島ニシテ南東側ノ外ハ雜草ヲ生ス沿岸ハ概ネ斷崖ナリ、野獸ヲ産セス水鳥ノ群多シ海驢ノ蕃殖場ナク海豹モ少シ臘虎ノ如キハ稀ニ見ルコトアルノミ

春牟古丹島モ亦火山島ニシテ圓錐峰ノ西側ニ低地アリ、沙丘ノ爲ニ四小湖ヲ生シ且ツ小灣ヲ形成シ投錨ニ適ス灣頭ニ舊土人住家ノ跡アリ、水、流木共ニ在リ、山麓低地ニハ雜草ヲ生ス狐多シ、海豹モアリ、臘虎及海驢ハ少シ、水禽ハ其棲息ニ適スル處少キ爲メ多ク來ラス、灣ノ沖合ニテ鱈ヲ釣獲スヘシ

溫爾古丹島ハ千島列島中新知島ニ次テ大ナル島ニシテ南北兩端ニ近ク圓錐峰等エ地形煙管ノ如シ、低處ニハ雜草繁茂ス、野獸トシテハ赤狐ト鼯鼠ヲ産スルノミ煙管ノ吸口ニ近ク西岸ねも灣ニ舊土人ノ住跡アリ此處ニ注ク小流ニ鮭鱒湖上ス東岸雁首ニ當ル所謂黒石灣ハ沙濱ヲ成シ灣頭ニ舊土人住家ノ跡アリ此沙灣ノ外ハ沿岸概ネ斷崖ヲナシ海藻繁茂ス海豹ハ普通ナリ臘虎、海驢モ有リ其蕃殖場ハ東北端金東崎ニ在リ、水禽ノ好蕃殖場モナシ、沖合ニテハ鱈ヲ釣獲スヘシ

磨勘留島ハ溫爾古丹島ヲ西北ニ距ルコト十四哩ニ在ル小火山島ニシテ山ノ下部ニハ雜草ヲ生シ狐ヲ産ス、沿岸ニハ岩片ノ累々タルモノアルカ又ハ斷崖ナリ、西側ノ沿岸ニハ分離シタル岩礁アリ海藻ノ繁茂スルトコロアリ、水禽海豹モ亦多シ、海驢ヲ見ルモ其蕃殖場ナシ、臘虎稀ナリ、近海鱈其他雜魚ヲ饒産ス

あぼす岩ハ外觀「ピラミッド」形ニ屹立スル小岩島ニシテ高さ二百尺許基底七八十尺アリ、磨勘留島南端ノ西四分一南凡十哩ニ位ス、附近ニ尙數箇ノ小岩礁アリ、海驢及少許ノ臘獸ハ此處ニ上陸スルモ生殖スルコトナシ水禽多シ

幌延島ハ其面積國後ヨリ大ニシテ探捉ヨリ小ナリ、即千島列島第二位ニ在リ、山嶽全島ニ蟠幅シ數箇ノ火山モアリ、山麓ニハ雜草ノ外矮樹ヲ生ス、熊、狐等ヲ産ス、海岸ニハ水禽多シ海豹ハ普通ナリ、臘虎ハ少シ、海驢ノ來ルコトアルモ其蕃殖場ナシ臘獸ハ七月初旬東岸ニ無數群來スレトモ古來蕃殖シタルコトナキカ如シ想フニ露頭ニんまんどるすき一群島ニ北上スル途次食餌ヲ得ンカタメ一時足ヲ止ムルモノ、如ク十餘日ニシテ其影ヲ失フ河流ニハ鮭鱒湖上シ沿海一帶ニ魚類ヲ饒産シ特ニ鱈多ク大鱈、鱈、かじか、ほつけ、すけとう鱈等之ニ亞ク甲殼類ハ鱈場蟹、毛蟹、海膽多ク瀬戸貝モ各所ニ認ムヘシ藻類ハ鬼若布、布海苔、岩海苔等アレトモ多カラス鱈場蟹ハ沿岸一帶ニ産スレトモ東岸ヨリモ西岸ニ多ク又海底ノ狀況ニ由リ自カラ棲息ノ厚薄アリ漁場ノ幅員ハ一般ニ廣カラサルモノ、如シ、而シテ西岸ノ鯨灣ハ其巢屈トモ云フヘク五月ヨリ九月末迄饒産スト云フ根室ナル千島興業株式會社ハ數年來本島ノ漁業ニ從事シ好成績ヲ擧ケテ事業ヲ擴張シ四十五年ニハ使用漁船(川崎船)五十三隻漁夫八百餘名ヲ送り鴨灣ヲ根據トシテ東岸十二箇所西岸五箇所ニ漁船ヲ配置シ五月下旬ヨリ十月初迄ニ鱈粕約一萬二千石棒鱈三千五百石蟹籠詰千七百五十函鮭鱒籠詰三百函ヲ製造シ又函館ノ入武富平作外一名ハ川崎船十四隻漁夫約二百名ヲ以テ東西兩岸ニ於テ漁業ヲナシ鱈粕約二千五百石ヲ得尙大日本遠洋漁業株式會社ハ從來臘獸臘獵ニ使用セル船船十二隻川崎船十隻漁夫三百九十一名ヲ使役シテ村上灣ヲ根據トシ乾燥器ヲ据付ケテ無骨鱈十五萬八千枚棒鱈二百六十石鱈粕二千六百餘石新鱈約百石ヲ製造ス此水揚總計三十七萬七千八百餘圓ナリト云フ開關以來人跡稀

レニ何等利用セラレサリシ僻土モ此ニ始メテ開拓ノ端緒ヲ得タリト云フヘク特ニ鱈漁業及蟹羅詰業ハ其前途大ニ矚目スヘキモノアリ

志林規島ハ幌延島ノ西南ヲ距ル凡五哩ニ在ル小島ニシテ沿岸概ネ懸崖又ハ累石ヨリ成ル、唯其東端小灣ヲ成ス處ニ低地ヲ見ルノミ低地ニハ雜草ヲ生ス、海驢ノ蕃殖場三箇所ニ在リ其蕃殖盛ナリ、海豹モ多シ、臘虎ハ稀ナリ、水禽ノ來集多シ阿賴度島ハ幌延島ノ西北凡三十二哩ニ位シ千島列島中占守島ヨリモ稍々北ニ挺出ス、本列島中最高ノ火山島ニシテ「スノ」氏ノ説ニ據レハ海拔七千六百四十呎ニ達スト云フ、山麓ニハ雜草ヲ生シ狐ヲ産ス、水禽ノ來集少シ、沿岸ノ懸崖ハ概ネ低卑ニシテ其北側ニハ舊土人住家ノ跡アリ、之レ時ニ海驢獵獲ノ爲メニ渡來ノ際ニ於ケル其根據地ナリ、海驢ノ蕃殖場ハ北西側ニ在リ海豹ハ普通ナリ、臘虎ヲ産セヌ臘納獸ハ海驢群中ニテ屢認ムルモ幼兒ナシ沿海ニハ魚族豐富ナリ、函館・人武富平作等ハ明治四十五年五月ヨリ十月ニ互リ本島ニテ鱈漁業ニ從事シ川崎船四隻ニテ約六百石ノ鱈粕ヲ製造セリト云フ占守島ハ西南一哩ニ滿タサル幌延海峽ヲ隔テ、幌延島ト相對シ東北國端崎ハ占守海峽ヲ隔テ、露嶺堪察加ろばとか岬ト相峙ス、土地平坦ニシテ山嶽少ク雜草ノ外、松、赤楊ノ類等ヲ生ス熊ハ少ク狐多カリシモ濫獲ノ結果全島中ニ約百餘頭棲息スルニ過キサレヘシ、鼯鼠モ棲息ス小流諸處ニ在リテ鮭鱒湖上ス、沿岸斷崖アルモ皆低卑ナリ、西部海岸ニ近ク淺湖アリ河流ニヨリテ海ニ通ス、此邊土人部落ノ跡アリ、沖合ニハ鱈ヲ饒産ス、土人部落ノ跡ハ尙一箇所幌延海峽片岡灣(まいる。ふ)ニ在リ、幌延海峽東方沖合ニハ數箇ノ礁礁アリ水禽ノ來集夥シ近海亦鱈、大鮭等ノ魚族ニ富ム、海豹ハ多ク臘虎ハ數頭常ニ棲息スヘシ明治二十九年以來報效義會ハ本部ヲ片岡(まいる。ふ)灣ニ置キ島内各所ニ漁場ヲ開キ土地ヲ開墾シテ農業ヲ創メ或ハ牛馬豚鶏ヲ移シテ熱心經營セント雖モ豫期ノ效果ヲ收メスシテ今日ニ及ヘリ同會ノ羅詰製造所ハ別飛ニアリテ四十五年ニハ鱈類約二百兩ヲ處理セリト又大日本遠洋漁業株式會社ハ東岸ノ中川外一箇所及別飛ニ漁船漁夫ヲ配置シ專ラ鱈漁業ニ從事セシメタリ本島南側ニ銀鑛アリト云フモ分明セス

各島ノ概況ハ既ニ記述スル所ノ如シ而シテ擇捉島以南ハ暫ラ措キ得撫島以北ニ於テ國利ヲ増進セントセハ溫爾古丹、幌延、占守ノ各島及新知島ノ一部ハ水産物ノ漁撈製造ヲ發展セシメ又舊時臘納獸ノ蕃殖場ナリシ各島ハ臘納獸ヲ保護シテ蕃殖ヲ計リ更ニ溫爾古丹、幌延、占守ノ三島ヲ除クノ他ハ黑狐ヲ蕃殖セシムルヲ以テ最モ策ノ得タルモノトナスヘシ左ニ其一斑ヲ記述スヘシ

臘納獸蕃殖保護策

本獸ハ海上獵者濫獲ノ結果現今來往スルモノ僅少ナリト雖トモ由來氣候風土ノ彼等ニ適スルカ故ニ適當ノ保護策ヲ講セハ其蕃殖ヲ計ル難事ニアラサルヘシ而シテ之レカ保護ヲ計ラントセハ先ツ舊臘納獸蕃殖場ナリシ各島ニ現在跋扈セル海驢ヲ鑿殺セサルヘカラス海驢ハ性來不潔ヲ嫌ハサル動物ニシテ陸上ニ躡居若クハ横臥シタルマ、脫糞放尿ス故ニ彼等ノ群棲セル所ニ到レハ其汚穢ニシテ惡臭鼻ヲ撃チ目ヲ刺戟シ嘔吐ヲ催サシムヘシ臘納獸ハ之ニ反シ水泳シ得サル幼稚ナル仔獸ヲ除キテハ陸上ニ於テ脫糞放尿スルコトナキカ故ニ其蕃殖場ハ常ニ清潔ニシテ些ノ惡臭ヲ感スルコトナシ又海驢ハ自己ノ巨大ナル體軀ヲ誇ルカ如ク常ニ臘納獸ヲ輕蔑シテ爭鬪ヲ挑ミ若シ自己ノ占居セル附近ニ臘納獸ノ上陸スルコトアレハ極力壓迫シテ驅逐セサレハ止マス、サレハ臘納獸ノ蕃殖場ニハ海驢ノ侵入ヲ絕對ニ拒否セサルヘカラスこんまんどるすきー及ふりびろふ等ニ於テ常ニ注意ヲ怠ラスシテ若シ一頭ノ海驢ニテモ臘納獸ノ群中ニ入ラントスルアレハ直チニ銃殺スト聞ケリ本列島ニ於テモ一度海驢ヲ鑿殺シタル後ト雖モ監視員ヲシテ密獵取締ノ傍ヲ注意セシムヘキナリ

黑狐ノ増殖策

得撫以北占守島ニ互リ狐類ヲ産セサルハ知理保以南島、雷公計、盤城島越湯磨、知林古丹等ニシテ其他ノ諸島ハ何レモ饒

産ス殊ニ得撫、新知、計吐夷、羅處和等ニハ黒、十字、赤ノ三種ヲ産シ他ハ赤狐ノミナルカ如シ
 黒狐ノ毛色ニハ黒色暗綠色灰黒色ノ三種アリ而シテ黒色最モ高價ニシテ二百圓乃至三百圓ヲ暗綠色ノモノハ八十圓乃至二百圓ヲ又灰黒色ノモノハ五十圓乃至百五十圓ヲ値ヒス本列島産ハ黒色多ク暗綠色之ニ亞ク勘察加及あらずカニテハ灰黒色ノモノ多キカ如シ之レ畢竟風土及食餌ノ關係ニテ相異レルニハアラサルナキカ概シテ赤狐ハ體軀大ニシテ十字狐之レニ次キ黒狐最モ小ナリ故ニ黒狐ハ特別ノ保護ヲ與ヘサレハ他二種ノタメ壓迫セラレ充分ノ蕃殖ヲナシ得サルモノ、如シキ丹土人ノ言ニ由レハ赤狐ノ牝ニ黒狐牝ノ交尾セルハ認メタルコトナキモ黒狐牝ニ赤又ハ十字牝ノ交尾セルハ屢認メタルコトアリ又黒狐ノ胎内ニ赤及十字、黒ノ三種混在スルコトアレトモ赤狐ノ胎内ニハ嘗テ黒狐ノアルヲ見スト又こまんどるすき一島ニ於テモ右ト略同様ノ結果ヲ發見シ且ツ年々赤狐増加スルカ故ニ近來ニテハ期節ヲ選マスシテ目撃スル毎ニ銃殺ニカメツ、アット云フ

以上ノ諸説ニ由リテ考查スルニ黒狐ノ蕃殖ヲ計ラントセハ赤、十字狐ハ共ニ撲滅セサルヘカラス然レトモ三種ノ混在セル諸島ニ於テハ特ニ赤、十字等ヲ選ミテ捕獲スルハ容易ノ業ニアラス故ニ目下狐ノ棲息セサル島ニ適當ノ方法ニ由リ黒狐ヲ移殖シテ蕃殖ヲ計リ而シテ三種ノ混在セル島ハ順次輪轉捕獲法ニ由リテ絶滅セシメ先キニ移シテ増殖セシメタルモノ又ハ他ヨリ種畜ヲ輸入シテ放飼スルハ適當ノ一方法タルヘシ狐ハ蕃殖力頗ル旺盛ニシテ生後一箇年ニシテ交尾シ其狀恰モ犬ノ如シ交尾期ハ地方ニ由リテ一定セスト雖モ北千島ニアリテハ二月初旬ヨリ下旬迄トス妊娠期間ハ約六十日ニシテ一度ニ四乃至六頭ヲ分娩ス又牡ハ幼兒ノ保育ニ關與スルコトナク時ニ奪ヒ去リテ食飼トナスコトアリ幼兒ハ又時々驚ノタメ掠メラル、コトアリ故ニ一牝一箇年ノ生産力ハ二頭ト見做スヲ以テ最モ安全トスヘシ殊ニ臘肭獸ノ如ク季節ニ由リテ去來スルモノニアラサレハ監理容易且ツ事業ノ性質確實ニシテ皮價モ亦不廉ナレハ臘肭獸保護蕃殖ト共ニ經營セハ大ニ有利ノ事業ナルヘシ

海驢ノ利用

海驢皮ハ毛質粗硬ニシテ毛皮トシテハ何等價値ナシト雖モ脱毛シテ製革セハ牛馬革ノ代用タルコトヲ得ヘク殊ニ水中ニ浸漬シテ後乾燥スルモ硬化スルノ恐レナシ然レトモ今日迄商品トシテ市場ニ上リシコト少ナキカ故ニ未ダ充分ナル用途ヲ考究セルモノナキカ如キモ若シ適當ニ利用セハ牛馬皮革ノ輸入ヲ控制シ正貨流出ノ一部ヲ防退スルヲ得ヘシ

第二章 海豹島及其臘肭獸

海豹島ノ地理

海豹島ハ露名ニテちゆれに島ト云フ然レトモ西洋人ハ一般ニスつべん島ト稱ス是レ海獸獵業者ノ稱セシ名ニシテ海獸島ノ意義ヲ示セリ前記ノ露名ハ或ハ之ヲ翻譯シタルモノナラント云フ我海豹島ノ名モ亦之ヲ譯シタルニ過キスト思考ス、但シ海豹ハあざらしト稱スル毛皮ニ斑紋ヲ有スル海獸ニシテ臘肭獸ト異レリ、海豹島ノ位置ニ關シテハ「ブレア」船長(John G. Blair)ノ測定ニ係ルモノアリ、即チ東經百四十四度四十三分四十八秒北緯四十八度三十一分三十秒ニシテ樺太北知床岬ヲ距ル十一哩ニ在リ、葦爾タル一小岩島ナリ、岩質ハ三紀層ニ屬シ岩層ハ少シク東南ニ向テ傾斜スルモ頂上ハ平坦ニシテ海拔約五十尺アリ形細長ニシテ東北ヨリ西南ニ向テ延長シ邊線概ネ斷崖ヲナシ斷崖ノ麓ニ粗砂ヲ布ケリ斷崖ノ東北端ヨリ西南端ニ至ル長サハ約二百三十間アリ而シテ中央部岩島ノ幅ハ三十間ニ滿タス島上及崖側ニハ夏季無數ノ氷いるもト(Via Ioviana)ト稱スル水鳥來集シ其光景一種ノ奇觀ヲ呈ス、西北側南部斷崖ニ一小凹罅アリ玆ニ露領時代ニ建設シタル家屋數棟同側西南端ニ近ク崖下ニ鹽庫二棟アリ、斷崖ヲ圍繞スル砂濱西側前記家屋ノアル邊ニ於テハ幅五六間アリ西南崖端ニ於テハ十數間アリト雖モ同側ノ北部ニ在リテハ一間ニ滿タサル所アリ實ニ昨年ノ如キハ海水崖脚ヲ洗ヒ海苔ノ

之レニ著生スルヲ見タリト云フ、東側中央部ニ於ケル砂濱ハ幅七八間アリ南北兩端ニ近クニ從テ其幅漸ク廣ク十六七間乃至二十四五間ノ所アリ而シテ南北兩端幅最廣キ所ニハ雜草ヲ繁生ス雜草中殊ニ多キハ禾本科ニ屬スル *Elymus mollis* ナリ夏期生長シタルトキハ高四五尺ニ及フト云フ、砂濱ハ斷崖ノ南北兩端ヨリ東北及西南ニ向テ著シク延長ス其東北端ニ在ルモノハ二十二三間西南端ニ在ルモノハ約六十間ニ及ブ

從來本島ヲ調査シタル諸氏ノ報告ヲ參照スルニ此ノ砂濱ノ形狀ハ時々變化スルヲ知ルナリ即チ一千八百九十六年(明治二十九年)米國博物館「ステイネガア」博士ノ報告スル所ニ依レハ北方ノ砂濱ハ五十三間餘南方ノ砂濱ハ五十六間餘アリ中央部東側砂濱ハ幅十間西側ハ十一間餘アリシカ如シ、又明治四十一年樺太廳技手久保雷之助ノ實測シタル所ニ依レハ北方砂濱ハ六十四間南方砂濱ハ六十六間中央部東側砂濱ノ幅ハ十四間アリシト云フ、如此年ニ依リ多少ノ變化アルハ冬期間ニ於ケル風浪潮流ニ基因スルモノナルヘキハ明ナリト雖モ本島臘肭獸蕃殖場タル東側ノ砂濱ノ幅カ縮少スルノ傾向アルハ幾分頼ミ少キカ如クナルモ此東濱ハ其兩端ニ近キ海中ニ暗礁多クシテ能ク激浪ヲ防禦スルヲ以テ此ノ如キ杞憂ハ無用ナルヘシト思考ス因ニ記ス南北兩端ニ位スル草原ハ大體ニ於テ變化ナキカ如シ

暗礁及岩島ハ尙本島ノ北方ニ許多並列シテ北知床岬ニ及ブ南端ニ近キ西側ノ沖合ニハ鎚地ニ適スル所アルモ西風激シキトキニハ數香方面ニ避難セサルヘカラサルヘシ、此島附近ノ水溫ハ七月頃ハ表面ニ於テ七八度ナリ(氣溫ハ十度内外)冬期ハ無論結氷シ五月初ニ至リ消失スルヲ通例トス

本島ハ有名ナル樺太東海岸ナル冷潮ニ浴スルモノナルモ夏季ニハ多來加灣ノ溫カニシテ鹽分稀薄ナル水ニ接スルコトアリ又此兩種ノ潮水ノ混和シタルモノニ包マル、コトアルナリ、即チ暖寒兩潮ノ近接スル場所ニシテ濃霧ノ頻繁ニ起ルハ自然ノ理ナリ

本島東側ノ砂濱ハ前ニ比較的靜穩ナル海ヲ控ヘ後ニハ朔風ヲ防クニ足ル斷崖ヲ負ヒ一ツノ危害ヲ與フル陸上動物無ク海ニ

ハ鱈類ノ魚族アリ加之濃霧常ニ四方ヲ閉鎖シタレハ砂地ナルニ拘ラス好個ノ臘肭獸蕃殖場タルナリ

露領時代ニ於ケル海豹島ノ歴史

本島ニ臘肭獸ノ生息場ノ存在スルコトハ今ヨリ凡ソ六十年前米國捕鯨船ニ依リ始メテ發見セラレタルカ如シ而シテ發見以來其獸群ハ濫獲ニ重マルニ濫獲ヲ以テシ實ニ其ノ種類ヲ殆ント絶滅セントシタルコト數次ニ及ヘリ船長 G. Niebaum 氏ノ語ルトコロニ依レハ某々捕鯨船ハ千八百五十二年及同五十二年ノ兩年ニ於テ五萬或ハ六萬ノ臘肭獸ヲ本島ニ於テ獵獲シ千八百五十四年ニハ二萬頭、千八百五十五年ニハ二萬八千頭ヲ獵獲スルモノアリテ遂ニ殆ント其種族ヲ絶滅シタリト云フ一千八百六十九年露米商會ノ創立セラル、ヤ同商會ハ千島及おこしつゝ海ノ海獸生息地ニモ注意ヲ傾グルニ至リ一千八百六十九年得撫島ニ於ケル露米商會出張所ヨリ派遣シタル某船ノ本島ニ來航シタルトキハ十四年間ノ休息ノ後ニアリシカハ獸群大ニ増加シテ沿岸ニ滿チ上陸スルニハ其ノ一部分ヲ追ヒ除ク必要アル程ニシテ臘肭獸ハ島ノ高所迄モ上リ居リタリト云フ船ニ乗組マセテ伴ヒタル得撫島ノ土人ハ經驗ナキ爲メ恐レテ上陸セス、因テ同船ハ空シク出帆シ去レリト云フ、翌一千八百七十年ニハ少クモ二箇ノ帆船來襲シタルカ如ク其内某船ハ仔獸六百頭ヲ除クノ外殆ント全群ヲ殺戮シ凡ソ一萬五千枚ヲ得タリト云フ、是ニ於テ商會ハ二年間獵獲ヲ禁止シ同七十三年ヨリ年三四千頭ノ若牡ヲ獵獲スルコト、シタルモ尙諸國ノ獵船カ年々我函館ニテ續裝シ英、獨、蘭、米等ノ諸國ノ國旗ノ下ニ來襲スルモノアリテ大ニ其ノ蕃殖ヲ阻害シタリ著シ商會ニテ獵獲ヲ終了シタル後ニ一隻ノ「スターナア」型帆船ト數名ノありゆうと人ヲ遺留スルニ過キサルカ故ニ全ク來襲者ノ自由掠奪ニ放委セラル、ノ狀態ナレハナリ、因テ露國政府ハ一千八百八十四年軍艦ヲ特派シテ密獵船數隻ヲ拿捕シタルコトアリ、又一千八百八十五年以來ハ一定ノ海軍(水兵十六人ト士官一人)ヲ置クコト、セリト雖モ其十月中旬ニ引上ケタル後ニ侵掠スル密獵船アリ甚シキハ警備員タル軍人カ私ニ殺戮シタルコトモ屢々之レアリキト云フ、商會ニテハ一千八百八

十六年ヨリ一千八百八十九年マテハ獵獲ヲ中止シ一千八百九十年ヨリ再ヒ獵獲ヲ行ヒシモ最多一千五百頭ニ止マリ多クハ數百頭ヲ收獲シタルニ過キス明治三十七八年日露戰役ノ際ニハ我獵船隊ノ襲撃スル處トナリ兩年ニテ約六千頭ヲ捕獲シタリト云フ

我領有以來ニ於ケル海豹島

明治三十八年樺太占領ノ際同年八月末岸上技師及中村技手ハ兵士若干ヲ伴ヒ本島ニ上陸シテ其占領ヲ確實ニシタリ、而シテ當時已ニ上陸シタル臘肭獸ハ約一千頭ニ及ヘリト云フ直チニ軍令ヲ以テ嚴ニ該獸ノ獵獲ヲ禁止セラレ明治三十九年ニハ憲兵若干ヲ特派シ又樺太民政廳ハ久保技手ヲシテ精細ニ臘肭獸ノ習性ニ關シ調査セシメタリ、四十年ニ至リ勅令ヲ以テ島上ノ臘肭獸獵獲ヲ禁止シ尙免許獵船ニ對シテハ島ノ周圍三十海里以内ニ於ケル獵獲ヲ禁止セラレタリ、而シテ同年ヨリハ樺太廳巡查及備員若干ヲ派遣シテ之レカ監守ノ任ニ當ラシメタリ、今此等監守員ノ報告ニ依リ年々上陸最多數分婉數等ヲ示セハ左表ノ如シ

年次	上陸獸數	分娩數	死兒數
三十九年	二、九五〇	一、一〇〇	九七
四十年	四、〇〇〇	一、五二〇	八〇
四十一年	四、二〇七	一、五九〇	六〇
四十二年	四、七五〇	一、八〇〇	四三
四十三年	四、八〇〇	一、八〇〇	四三
四十四年	四、九〇〇	二、二七〇	六九
四十五年	六、六〇〇	二、三八八	八八

海豹島ノ現狀

海豹島ノ地形ノ現況ハ大要前既ニ述ヘタルカ如クニシテ此ニ上陸スル臘肭獸ハ唯東側砂濱ノミ居ラ占メ決シテ西側ニ至ラス、是レ主トシテ西側ニハ家屋アリテ人ノ往來スルコトアルヲ以テノ故ナルヘシ、東側ニハ幅凡ソ七間長凡三百間ノ砂濱アリ、客年六月末ノ現況ニ依レハ此東側砂濱ノ中央部地圖參照)九十餘間面積凡七百坪ハ成牡ノ占領スル處トナリ、凡百十頭カ居ヲ定メテ踏踏シ所謂生殖場ヲ形成スルヲ見タリ、而シテ其兩端ニ接シテ各三四百頭ノ鰥獸ノ起臥シ更ニ其ノ外側ニ數頭ノ成牡ノ上陸セルヲ見タリ

近年米國ニ於テ實行セラレツ、アル臘肭獸群ノ細密ナル統計ニ微スルニ成牝及産仔ハ各全獸群ノ約三分ノ一ヲ占メ生殖ニ關セサル牡牝モ亦全群ノ三分ノ一ニ當ルカ如クシテ成牡一頭ニ配セラル、牝獸ノ數ハ平均四十頭乃至三十頭ナリ今海豹島成牡上陸ノ狀況ニ基キ米國ノ調査報告ヲ參照シテ本島臘肭獸群ノ狀態如何ヲ推測スルニ成牡百頭以上ノ上陸ヲ計ルトセハ一牡平均三十頭ノ成牝ヲ配スルトスルモ三千餘頭ニ達シ仔獸三千餘頭其他生殖ニ關係セサル獸群三千餘頭ニ達シ合セテ約一萬頭ノ上陸ヲ見ルヘキ筈ナリ最近拓殖局ノ報告ニ依レハ客年上陸最多數ハ合計八千九百餘頭ニ達シタリト云フ本局ノ豫想ノ無稽ナラザリシヲ知ルニ足ルヘシ、而シテ其上陸數ノ増加ノ割合カ日本海ニ於テ海上獵業ヲ殆ント行ハサリシ明治三十九年及四十年並ニ客年ノ如キ海上獵業全禁ノ年ニ於テ激増スルヲ見レハ海上獵業カ如何ニ該獸蕃殖ニ有害ナルカヲ推知スルニ難カラサルカ如シ

又海豹島現在ノ狀況ニ於テ其生殖場カ已ニ東側砂濱ノ三分ノ一ヲ占ムルトセハ殘リノ三分ノ二ヲ以テ生殖ニ關セサル牡牝ノ上陸地トセサルヘカラス、而モ此ノ三分ノ二ノ砂濱中南北兩端ニ近キ處ハ風ヲ吹キ通シ且ツ西側家屋所在地ニ近キヲ以テ獸群ハ可成中央部ニ近ク群集セントスルノ傾向アル如ク將タ又將來獵獲ヲ實行セントスルニハ是非共此兩端ニ近キ地面

ヲ以テ驅集場トセサルヘカラス故ヲ以テ到底殘餘ノ三分ノ二、全部ヲ鯨獸ノ上陸場トスヘカラス即チ延長約百三十間ニ面
積凡九百坪ヲ以テ限リトセサル可クサカ如シ即チ將來本島ニ於テ臘肭獸ノ上陸シ得ル區域ハ前記生殖場七百坪ヲ合セ
テ一千六百坪トセサルヘカラス一坪平均七頭トセハ一萬餘頭ノ上陸數ヲ得ヘシ
本島監守員トシテ敷香支廳ヨリ巡查若干名ハ監守夫若干名ヲ率ヒテ駐在セシム(五月初旬ヨリ十一月初旬マテ)本島駐在
者ノ最モ苦痛トスル處ハ雨水ヲ以テ飲料ニ充テサルヘカラスコト、野菜ニ乏シキコトナリ、雨水槽ハ露頭時代設備シタ
ル凡ノ三石入鐵「タンク」數箇アルモ今使用ニ堪ユルモノハ二箇アルノミ故ニ監守員ハ數十箇ノ四斗樽ヲ設備シテ降雨アル
毎ニ注意シテ各種ノ樋下ニ置キテ雨水ノ收集ニ努ム而モ各棟屋上ニハ鳥糞多キカ故ニ雨水ハ混濁スルヲ免レス隨テ使用ノ
際ニハ細砂ヲ以テ漏過セサルヘカラス、野菜ノ如キモ土壤殆ント砂地ナルカ故ニ播種栽培スルモ十分ニ其ノ效ヲ奏セサル
カ如シ島上樹木皆無ナルカ故ニ薪炭ノ用意ヲセサル可ラス、米鹽ノ攜帶ハ無論ナリ唯魚族ハ近海ニ豊富ニシテ島卵亦島上
ニ饒多アリ駐在者ノ食膳ニ供スルヲ得ヘシ、家屋ハ合計六棟アリ其建坪ハ合計四十九坪八合三勺アリ其ノ細別ヲ示セハ左
ノ如シ

第一號宿舍兼事務室	九・六五
第二號宿舍及厨房	一八・二六
物置及浴室	九・五〇
第一號物置(炭)	二・八〇
第二號物置(肉類)	四・四六
第三號物置(鹽)	五・一六
合計	四九・八三

海豹島臘肭獸保護ニ就キ將來ノ希望

海豹島ニ於ケル臘肭獸群ハ將來漸次増殖セハ一萬餘頭ニ達スヘキハ前述ノ如シ而シテ此處ニ上陸シタル獸群ヲ愛護シ十分
ニ蕃殖セシメ且ツ一部分其蕃殖ヲ害セサル程度ニ獵獲ヲ行ハンニハ(第一)可成上陸セントスル獸ニ對シ恐怖ノ念ヲ去ラシ
メ上陸シタル獸群ニ對シテハ安心セシムル爲人影ヲ彼等ニ接近シテ顯ハサハル様ニシ且ツぎるもト鳥群ヲ擾亂セシメサ
ルコトニ努ムヘシ(第二)岩崖ノ南端ニ續テ岩壁ヲ築キ獸群ノ上陸場ノ擴張ヲ計ルコト(第三)卷末ニ記載スル所ニ準シ獸群
ノ統計ヲ可成精細ニ調製スルノ要アリ此ノ統計ヲ調製スルニハ島上北部ニ更ニ一箇所ノ展望所ヲ造リ宿舍ヨリ之レニ通ス
ル溝道ヲ作成スルヲ可トス(第四)尙本島ノ臘肭獸蕃殖保護上絕對ニ排除スヘキ海驢ハ近來漸ク増加セントスル形勢ナリ而
シテ彼等ハ臘肭獸群ノ中央部ニ位シ且ツ害敵ノ襲撃ヲ豫防スルニ最モ便利ナル地點ニ上陸スルカ故ニ之レヲ驅除セントセ
ハ勢ヒ臘肭獸ニ恐怖ノ念ヲ與ヘサルヲ得ス從來本島ニ於テハ警備用ノ銃器ヲ使用シテ射殺スレトモ射手ノ技術拙劣ナルト
銃器ノ良シカラサル爲メ徒ラニ臘肭獸群ヲ擾亂スルコト多シ仍テ今後ハ無煙無聲ノ銃ヲ備ヘ且ツ毎發命中セシムル技術ヲ
有スル射手ヲ雇役シ臘肭獸ヲシテ銃聲ヲ感知セシメ且ツツナルヘク海中ニアル海驢ヲ射殺セシメテ臘肭獸ヲシテ何等不安
ノ念ヲ起サシメスシテ除去スルノ方法ヲ必要ト認ム

記

一、上陸ノ初期、盛期、末期ヲ左ノ階級ニ分テ調査スルコト

- 成 壯
- 成 牝
- 處 女 獸

鯨 仔 獸

- 二、一日中上陸數ノ變化ノ狀態
- 三、出遊ノ方向及區域ヲ一號ノ階級ニ區分シテ調査スルコト
- 四、食餌ノ種類
- 五、年齢ト體長、體重、毛色及毛皮量トノ關係
- 六、商品トシテ毛皮ノ價值アル時季
- 七、替毛、發生ノ初期及替毛期
- 八、獵獲上最モ便利ナル時季及獵獲ノ方法

膾牘獸群統計事項

- 一、毎十日間ニ一回最モ多數上陸シタリト認メラル、時機ニ於テ左ノ階級ニ分テ獸群ヲ計算スルコト
 - 一、家族ヲ作ラントシタル成牡
 - 二、家族ヲ作リタル成牡
 - 三、家族ヲ作ラサル成牡
 - 四、半成牡ノ數
 - 五、四年(即チ五歲) 牡 獸
 - 六、三年(即チ四歲) 牡 獸
- 不明ナル場合ハ此二階級ヲ混算スルモ差支ナシ

- 七、二年(即チ三歲) 牡 獸
 - 八、一年(即チ二歲) 牡 獸
 - 九、二年(即チ三歲) 牝 獸
 - 十、一年(即チ二歲) 牝 獸
 - 十一、仔獸(即チ當歲)
 - 十二、成 牝(仔獸ノ數ニ同シ)
 - 十三、處女獸
 - 十四、各家族ニ屬スル牝獸最多最少及平均
- 但シ家族分裂後ハ左ノ階級ニ分テ計算スルモ可ナリ

- 一、成 牡
- 二、半成牡
- 三、成 牝(處女獸ヲ含ム)
- 四、若 牝(三、四年)
- 五、幼 獸(一、二年)
- 六、仔 獸

- 二、斃死數 前號各階級、性及斃死ノ狀態並ニ其原因ト認メラルヘキ事實ヲ記入スルコト
- 三、家族ノ區域及面積(區域ハ圖ニ依ルカ又ハ相當ノ記載方法ニ依リテ示スコト)

- 四、鯨獸ノ占領シタル區域及面積(區域表示ニ關スル注意ハ前號ノ通り)
- 五、獵獲シタル獸ノ數、年齡又ハ體長(體長ハ吻端ヨリ尾ノ基部マテ計ルコト)及性別ニ表示スルコト
- 六、獵獲シタル時日、墾集及獵獲ノ場所回數

監守諸規則

海豹島監守員勤務細則(四十二年)

第一章

- 第一條 海豹島監守員トシテ派遣セラレタル巡查部長及巡查ハ監守夫ヲ指揮監督シ臘朥獸ノ蕃殖ヲ保護シ之レカ密獵船ノ取締ニ從事スヘシ
- 第二條 海豹島監守所ニ左ノ簿冊ヲ備ヘ置キ文書ノ整理ヲ爲スヘシ
 - 一、例規文書綴
 - 二、備品臺帳
 - 三、消耗品受拂簿
 - 四、日誌
 - 五、公文書綴(雜文書綴)
 - 六、臘朥獸蕃殖日計簿
 - 七、氣象觀測簿
 - 八、海水觀測簿

- 第三條 巡查部長ハ一晝夜二回以上島内ノ監督巡視ヲ爲スヘシ
- 第四條 巡查部長ハ臘朥獸ノ蕃殖狀態及其ノ他島内ノ狀況ヲ精査シ日誌ニ記載シ置キ便船毎ニ支廳長ニ報告スヘシ
- 第五條 巡查部長ハ各日三回(午前六時、午後二時、同十時)氣象觀測ヲ爲シ別記第一號様式ニ依リ觀測表ヲ調製シ毎月支廳長ニ報告ト同時ニ一部ヲ大泊測候所長ニ通知スヘシ
- 第六條 巡查部長ハ當番巡查ヲシテ毎日三回(午前九時、午後二時、同六時)海水觀測ヲナサシメ別記二號ノ様式ニ依リ觀測表ヲ調製シ毎月支廳長ニ報告ト同時ニ本廳水産課ニ通知スヘシ
- 第七條 海水觀測ハ支廳長ノ認可ヲ得テ其ノ回數ヲ短縮スルコトヲ得
- 第八條 海水觀測點ハ西方海岸波打際ヨリ二百間沖合ニ出船觀測スヘシ
- 第九條 海水觀測ヲ命セラレタル巡查ハ激浪其他天候不穩ノ爲メ出船スルコト能ハサルトキハ其ノ都度巡查部長ニ報告スヘシ
- 第十條 海豹島勤務ノ巡查ハ共同勤務日誌ヲ備ヘ置キ服務執行上ノコトハ細大洩サス記載シ毎朝巡查部長ノ檢閲ヲ受ケヘシ
- 第十一條 汽船寄港シタルトキハ巡查部長又ハ巡查ハ速ニ汽船ニ出張シテ相當ノ取締ヲ爲スヘシ但シ巡查一名ハ必ス島内ニ在テ相當ノ取締ヲ爲スモノトス
- 第十二條 島内ノ觀覽ヲ申出ツル者アルトキハ差支ナシト認ムル者ニ限り許可ヲ與フヘシ
- 第十三條 觀覽者ニ對シテハ特ニ相當ノ觀覽區域ヲ指示シテ之レカ取締ヲ勵行シ苟モ臘朥獸ノ蕃殖ヲ妨害シ若シクハ妨害セントスル行爲アラシムヘカラス
- 第十四條 巡查部長及巡查ハ萬國信號ヲ習得シ置キ必要アルトキハ備付ノ信號旗ヲ以テ海上船舶ト信號ヲ交換スヘシ

第十五條 近海ニ於テ船舶ヲ認メタルトキハ直チニ國旗ヲ掲ケ監守員ノ存在ヲ知ラシムヘシ

第十六條 巡査部長ハ物品受授ノアル毎ニ所定ノ帳簿ニ記入シ出納ヲ明ニスヘシ

第十七條 巡査部長及巡査ハ監守夫ヲ指揮監督シ監守用ノ船舶及船具ノ保存整理ヲ爲サシメ不完備ノ廉ナキ様注意スヘシ

第十八條 巡査部長及巡査ハ監守夫ヲ指揮監督シ常ニ建物及島内ノ掃除ヲ爲サシメ清潔ヲ保持スヘシ

第十九條 巡査部長ハ監守夫ノ勤怠ヲ精査シ置キ時々支廳長ニ報告スヘシ

第二十條 巡査部長ハ監守夫ノ受持分擔ヲ定メタルトキハ支廳長ニ報告スヘシ

第二十一條 巡査部長又ハ巡査ハ海豹島ニ於テ鳥獸魚貝海藻其他ニシテ珍ラシキモノヲ發見シタルトキハ標本用トシテ採收シ標本臺帳ニ記入シテ保存シ置クヘシ

第二十二條 前項ノ外必要ト認ムル事項ハ便宜巡査部長ニ於テ規定シ支廳長ニ報告スヘシ

第二章 監守夫

第二十三條 監守夫ハ巡査部長又ハ巡査ノ命ヲ受ケ概ネ左記ノ勤務ニ服スヘシ

第二十四條 監守夫ヲ分チテ船夫、大工、雜役夫トス

第二十五條 監守夫ハ監守員ノ補助トシテ毎夜二人一組トナリ二回以上島内ヲ巡廻スヘシ但シ配置ハ便宜巡査部長ノ定ムル處ニ依ル

第二十六條 監守夫中ノ船夫ハ常ニ船舶及船具ノ保存整理ヲ爲シ不完備ノ廉アルトキハ速ニ巡査部長又ハ巡査ニ報告スヘシ

第二十七條 監守夫中ノ船夫ハ巡査部長又ハ巡査ノ命アリタルトキハ何時ニテモ速ニ出船スヘシ

第二十八條 監守夫ハ降雨アリタルトキハ直チニ之レカ採收ニ著手スヘシ

第二十九條 監守夫中ノ雜役夫ハ内外ノ雜役ニ從事スヘシ

第三十條 監守夫ハ常ニ宿舍及島内ノ掃除ヲ爲シ清潔ヲ保持スヘシ

第三十一條 前項ノ外巡査部長及巡査ヨリ命セラレタル事項ハ遵守スヘシ

監守夫勤務心得(四十四年)

一、監守夫ハ監守員ノ命シタル各分擔事務ニ從事スヘシ

一、分擔事項ニシテ他ノ助力ニ非ラサレハ爲シ能ハサル場合若シクハ至急ヲ要スル際ハ何レノ係夫ヲ問ハス之ニ援助ヲ與フヘシ

一、船舶出入港ノ際ニ當リテ船舶出入ノ場合ハ各係ハ總テ船係ニ應援スヘシ

一、監守夫ハ毎日二回以上島内ヲ巡廻ス可シ但シ巡廻ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

一、監守夫ハ巡廻ニ當ルヘキ者ヲ除キ就寢ハ午後九時起床ハ午前六時トス但シ監守員ノ命アルトキハ此ノ限りニアラス

一、監守夫疾病其他事故ノ爲メ役務ニ服スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ監守員ニ申出ツヘシ

一、監守夫ハ監守員ノ認可ヲ得スシテ鳥獸ヲ捕獲スヘカラス

一、監守夫ハ何レノ場合ヲ問ハス島内又ハ海洋ニ於テ船舶ヲ認メ又ハ異狀アリト認メタルトキハ直チニ監守員ニ報告スヘシ

一、監守員ノ認可ヲ得スシテ禁止区域内ニ立入ル可ラス

一、島ニ物ヲ搬出セントスルトキハ監守員ノ検査ヲ受ク可シ島外ヨリ自己ニ宛テタル物品ノ受領ノ際モ亦同シ但シ書信ハ此ノ限りニアラス

一 監守夫ハ共同日記ヲ備ヘ置キ其日ニ於ケル作業ノ大略巡廻中ノ出來事及天候又ハ出入ノ船舶名其他ノ事項ヲ記載シ置

以上ノ外臨時ノ出來事ニ對シテハ、巡查部長及他ノ監守員タル巡查ノ指揮命令ニ從フ可シ
明治四十四年七月

敷 香 支 廳

省 略

軍用銃使用及取扱内規(四十二年)

省 略

調査事項左ノ通り心得ヘシ(四十二年)

- 一、生兒ノ頭數
- 二、死兒ノ頭數(陸上ニテ斃死シタルモノ及漂著シタルモノ)及牝牡ノ別
- 三、分娩ノ始期及終期
- 四、交尾ノ始期及終期
- 五、牝獸ノ數
- 六、蕃殖場ニ在リテ牝ヲ領有シ之レト交尾セル老牝ノ數
- 七、明年前項老牝ノ伴ニ入ルヘキ牝牡ノ數(大サニ依リ推測シ得ヘシ)
- 八、蕃殖場ノ模様
- (イ)、牝ノ集團ノ有様
- (ロ)、牝ト牝トノ配屬ノ關係頭數

九、生殖ニ關與セサル若キ牝獸ト蕃殖場トノ關係

(イ)、若キ牝獸ノ仔獸ニ對スル有様

(ロ)、若キ牝獸ノ集團カ如何ナル時期ニ如何ナル狀態ニアルヤ及其集團ノ位置ト蕃殖場ノ位置トノ關係但シ海釣島中央岩トノ關係ヲ示ス圖ヲ添付スルコト並ニ其ノ頭數

十一、毎日ノ頭數

十二、昨年耳ヲ切斷シタル仔獸五十頭アリ右仔獸ノ來否、來著ノ初期及頭數(機會アラハ其牝牡ノ別及體長體重ヲ測ルコト)

十三、親獸ノ斃死アルタル時ハ其狀態ト牝牡ノ別及大サ

十四、海驢(トマ)及海豹ノ狀態

其他注意スヘキ事項

斃死臘納獸取扱内規(四十二年)

第一條 臘納獸ノ斃死セル場合ハ別ニ定メタル臘納獸取扱簿ニ斃死ノ狀況及牝牡、大小ノ別等ヲ記入シ便船毎ニ其要領ヲ支廳長ニ報告スヘシ

第二條 斃死ノ臘納獸ニシテ採取シ得ヘキモノハ剝皮ノ上便船毎ニ支廳ニ送達スヘシ但シ採取ノ場合ハ密敗セシメサル様注意スルコト

第三條 監守夫斃死ノ臘納獸ヲ發見シタルトキハ巡查部長及巡查ニ速報シテ其指揮ヲ受クヘシ

第四條 海驢、海豹等ニ對シテモ前各條ニ準シ取扱フモノトス

斃死臘納獸取扱簿ハ之レヲ略ス

海豹島送還品取扱内規(四十四年)

- 第一條 島産ノ物件ノ何タルヲ問ハス之レヲ島外ニ輸出スルコトヲ得ス
特命輸出スル場合ニハ第一號様式ノ臺帳ヲ備ヘ各欄ノ事項ヲ記載ノ上輸出スヘシ
- 第二條 私有物件ヲ島外へ還送スル場合ハ監守員巡查部長ノ檢閲ヲ受ケ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 監守所ニ第二號様式ノ還送品認可簿ヲ備ヘ還送品ノ認可ヲ與ヘタルトキハ其都度各欄ノ事項ヲ登載シ置クヘシ
- 第四條 島ヨリ還送シタル物件ハ其物件ノ何タルヲ問ハス汽船寄港地ニ於テ之レヲ檢査スルコトアルヘシ
一號、二號様式略ス

海豹島觀覽心得(四十二年)

傍 示

海豹島ニ上陸觀覽セントスル者ハ監守員ノ許可ヲ受クヘシ
觀覽者ハ監守員ノ指示ニ從フハ勿論左記各項ヲ遵守スヘシ

記

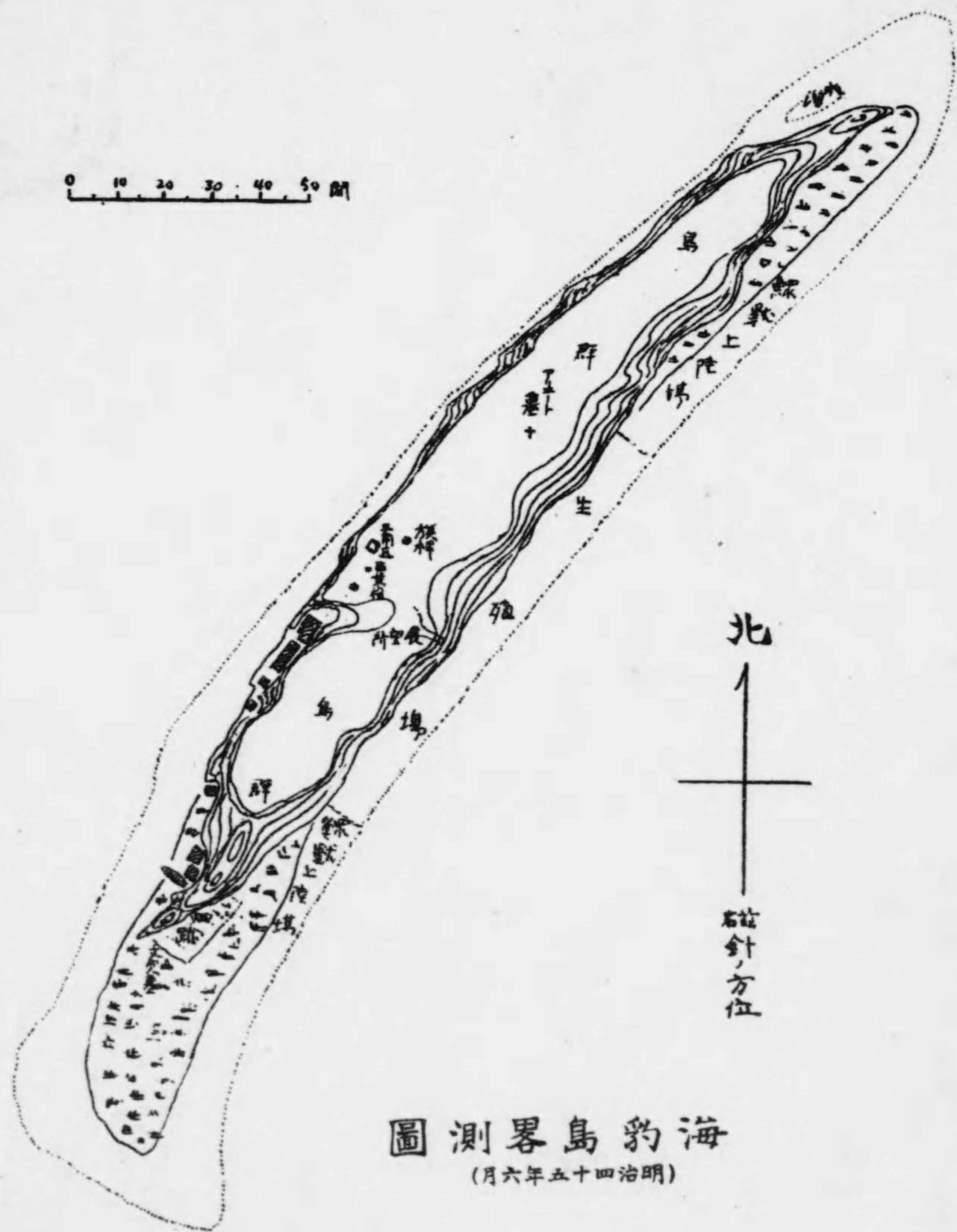
- 一、觀覽者ハ食料品ノ外物品ヲ携帶スヘカラス
- 二、許可ヲ得スシテ島内ニ存在スル鳥卵砂石鳥骨牙等ヲ持去ル可ラス
- 三、臘腸獸群棲場所及其附近ニ於テ火氣ヲ弄シ又ハ喫煙シ或ハ吸殻等ヲ投棄スヘカラス
- 四、鴨所在ノ場所ニ在リテハ十間以上ノ距離ヲ保持シ近寄ル可ラス
- 六、鳥獸ヲ追ヒ又ハ驚逸セシムヘカラス
- 七、本島ノ狀況ヲ撮影若クハ寫生セントスルモノハ監守員ノ承認ヲ受ク可シ

八、觀覽ヲ終リタル者ハ直ニ退島ス可シ
右違背シタル者ハ處罰セラルヘシ

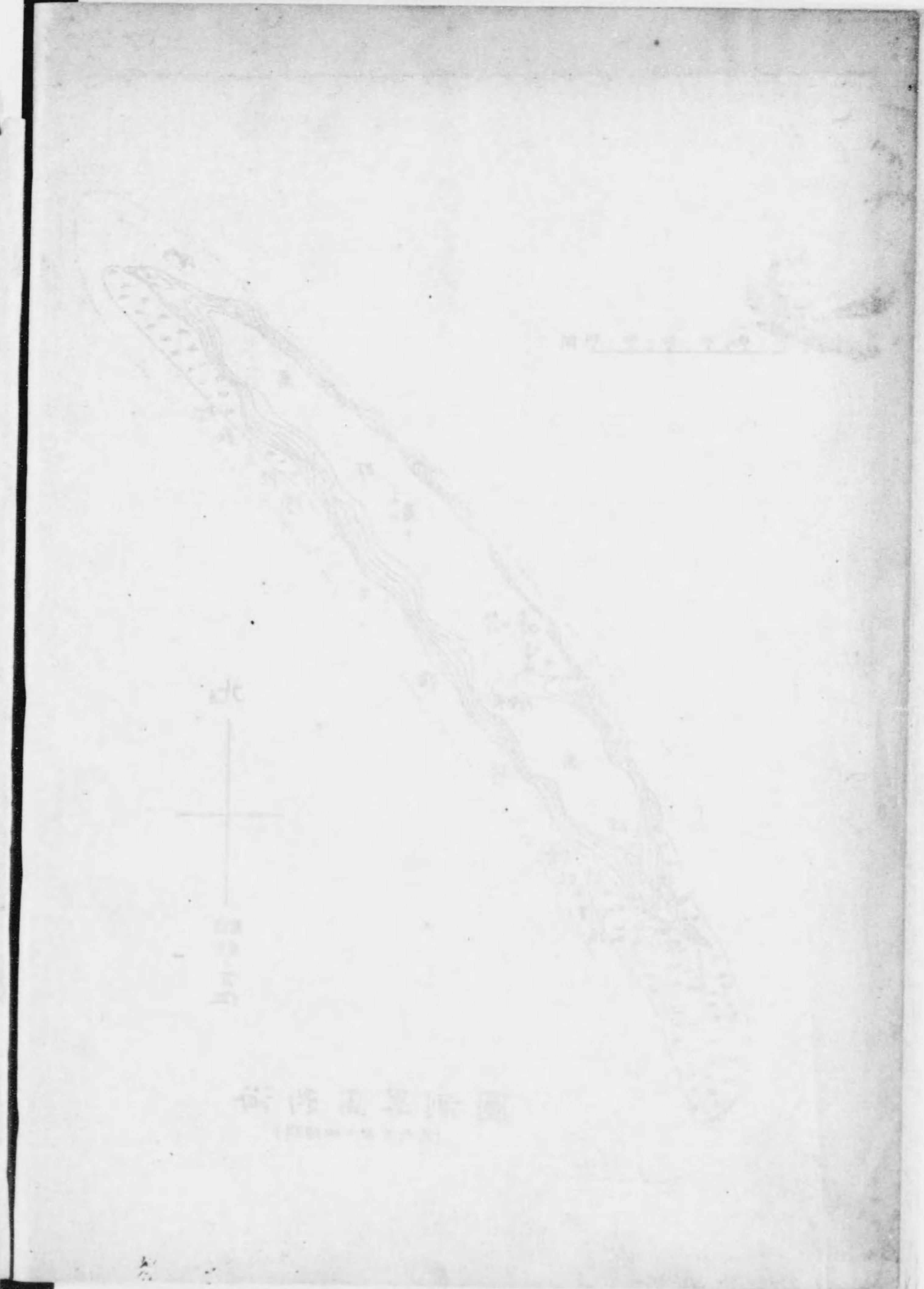
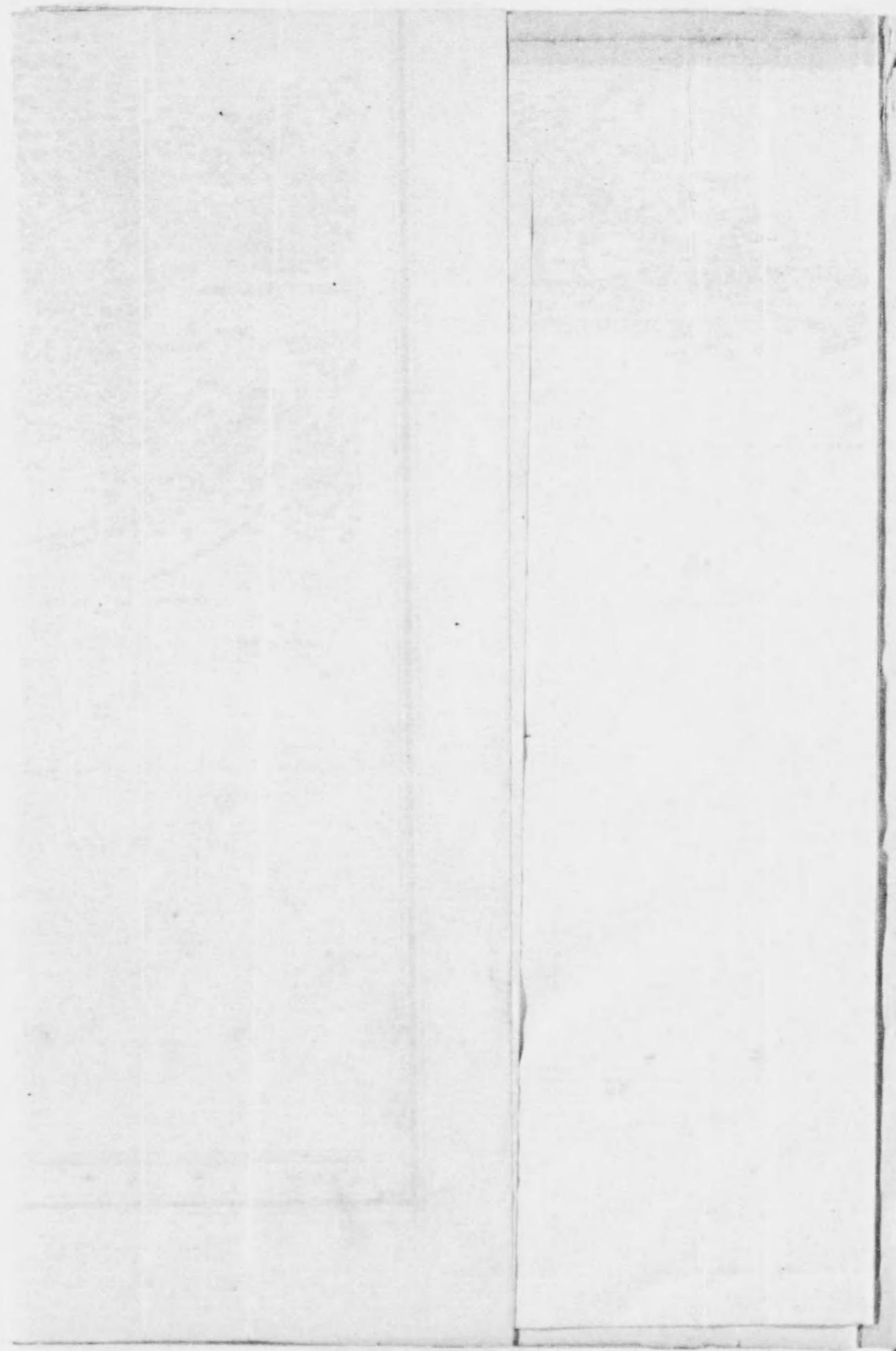
年 月 日

樺 太 廳

0 10 20 30 40 50 里

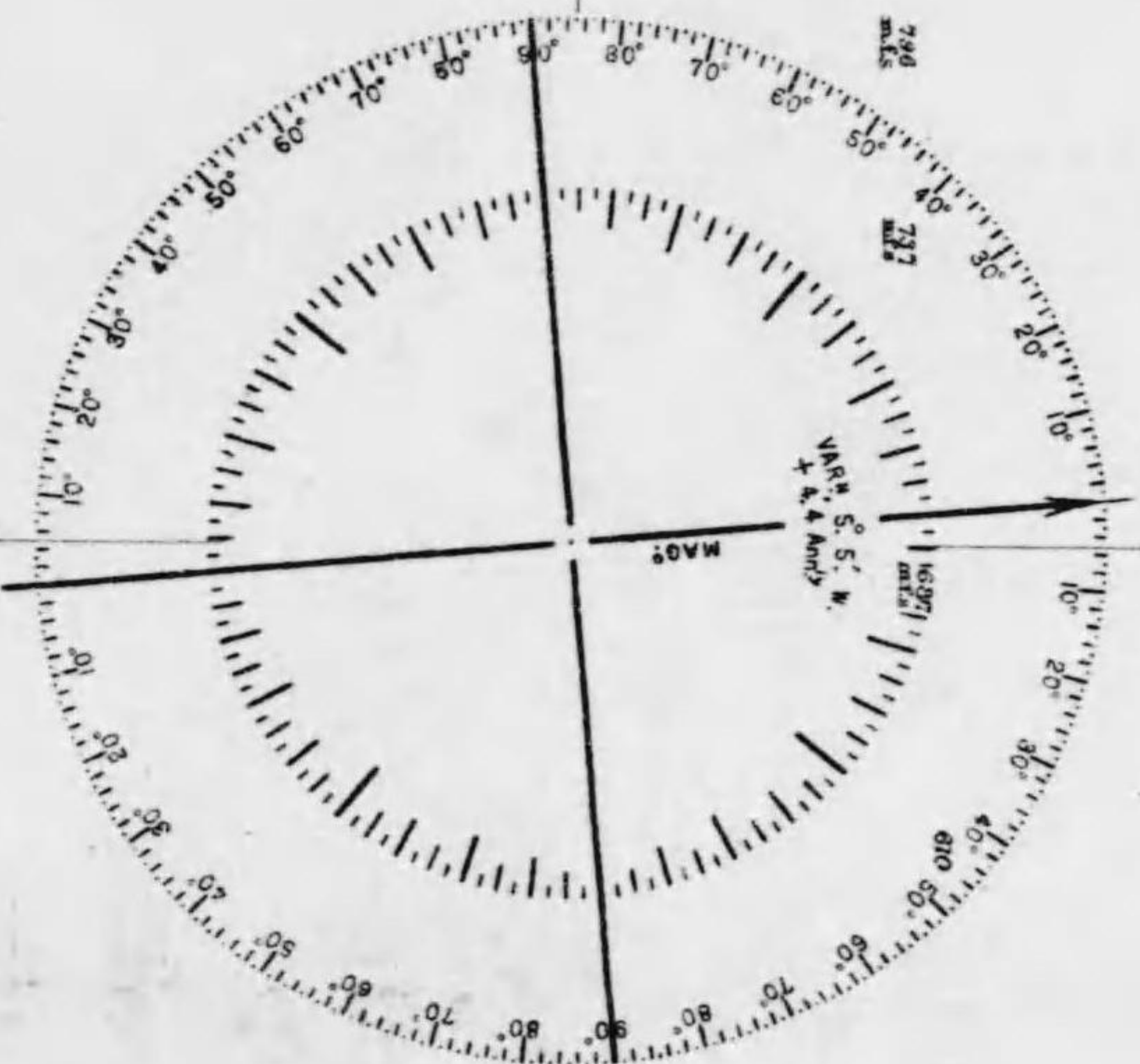


海豹島畧圖
(明治四十五年六月)



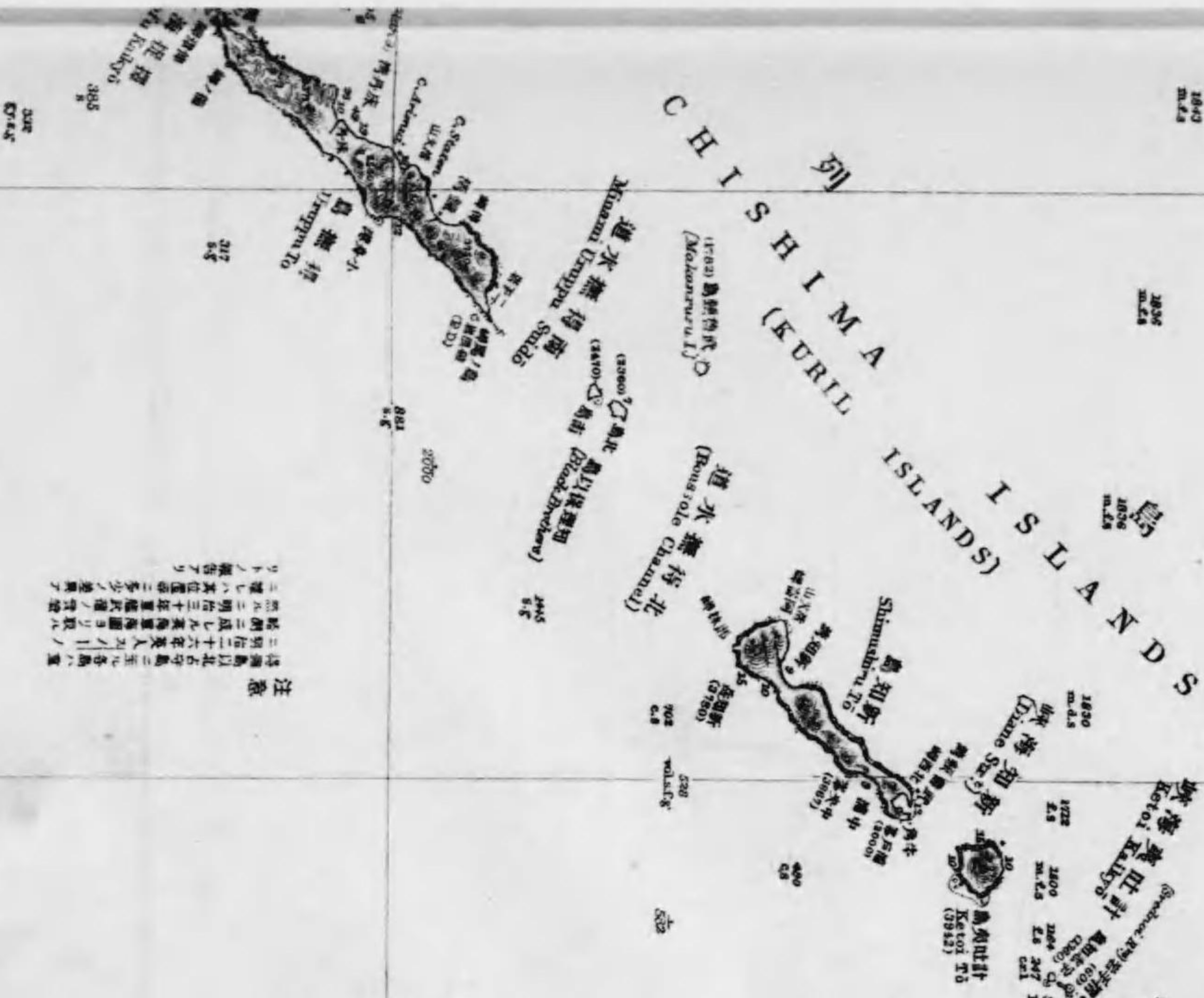
OKHOTSK

150° 151° 152° 153° 154° 155° 156°



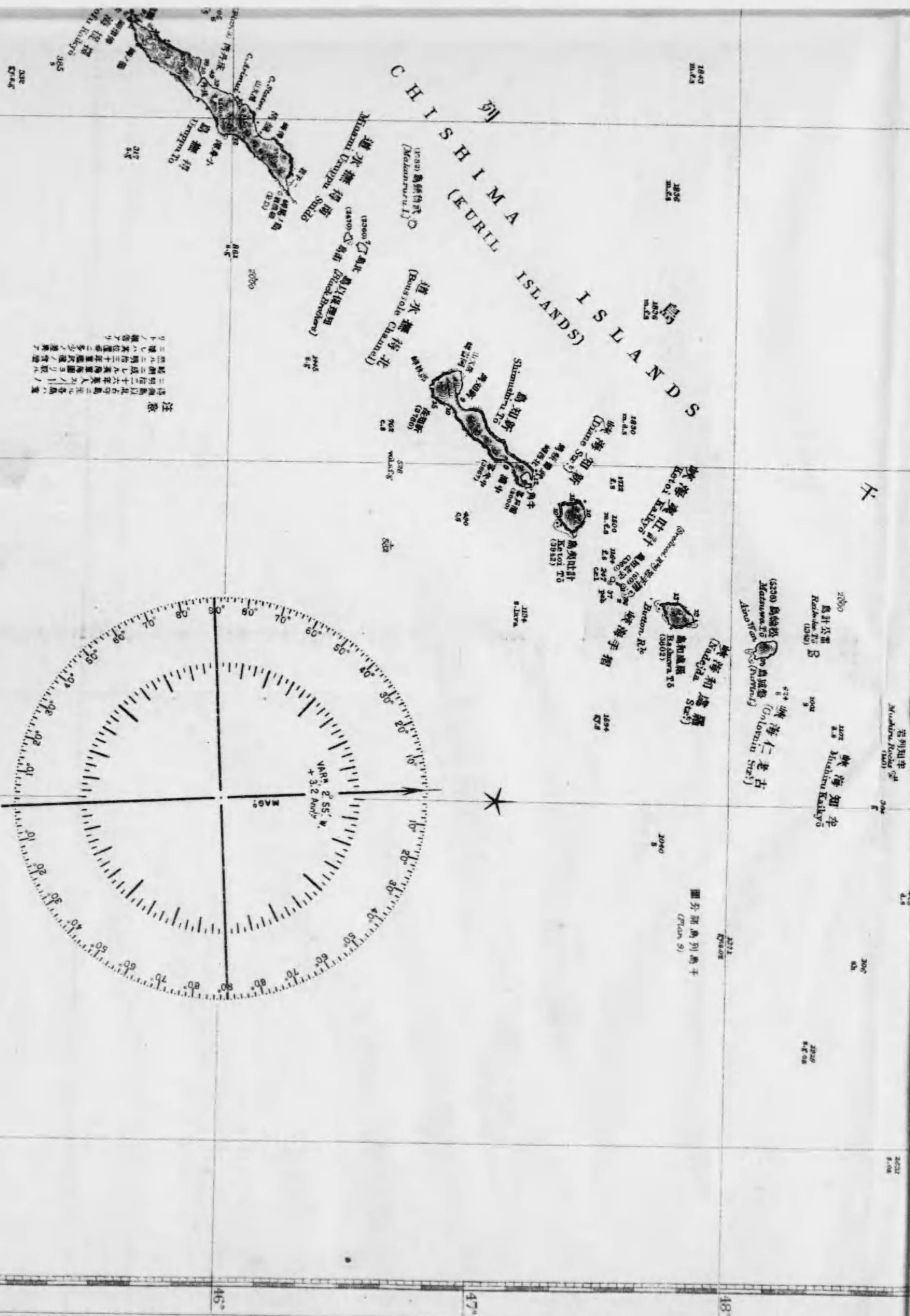
注意
 本圖係以日本經度二五度
 三十分為起點
 經度每度分為十
 分
 緯度每度分為十
 分
 凡有標記之處均
 係根據最近之測
 量結果
 凡有標記之處均
 係根據最近之測
 量結果

CHISHIMA ISLANDS (KURIL ISLANDS)



本日

45° 46° 47° 48° 49° 50°



注意
 一、此圖係在明治三十七年五月九日
 二、此圖係在明治三十七年五月九日
 三、此圖係在明治三十七年五月九日
 四、此圖係在明治三十七年五月九日
 五、此圖係在明治三十七年五月九日
 六、此圖係在明治三十七年五月九日
 七、此圖係在明治三十七年五月九日

日本
 附
 島列島千及洲北

太樺及州岸沿龍黑

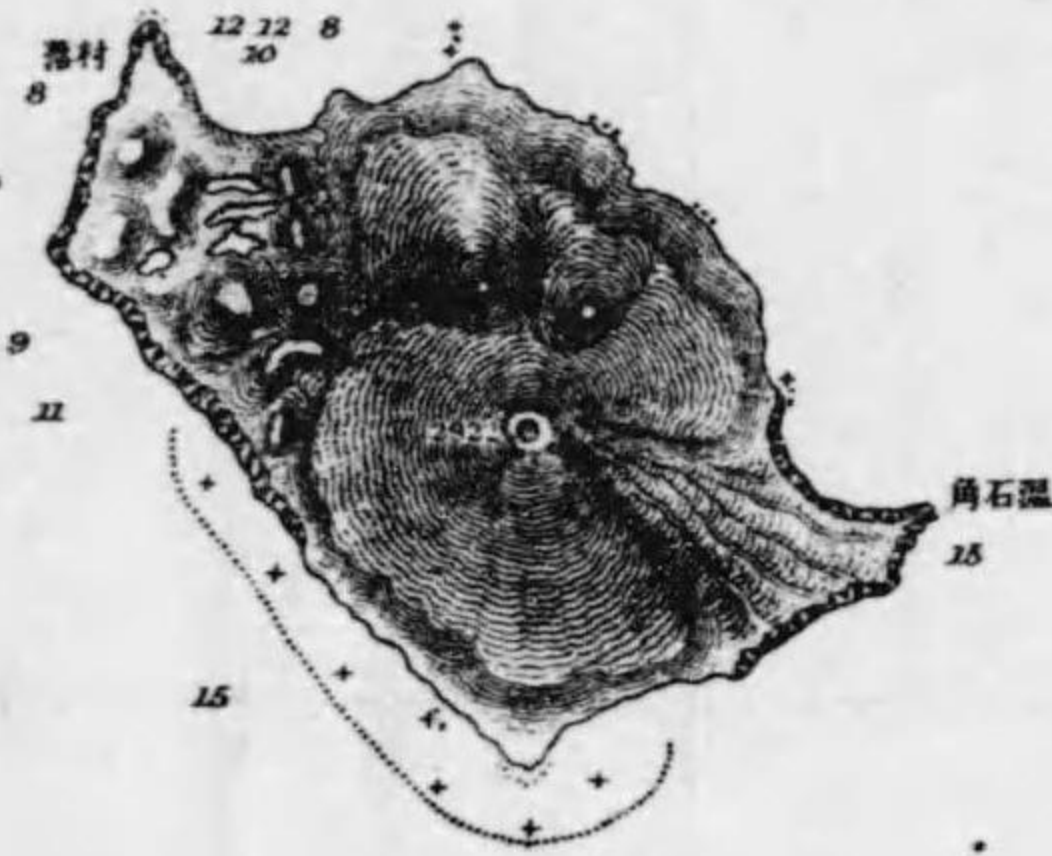
本圖ハ明治三十七年二月至九月
 軍ノ各測量ト諸英海軍海測ト
 披フ編成ス又但シ海軍省
 高低用帆ニ付テハ
 深淺用聲ニ付テハ
 C. 粗砂土 d. 石灰 d. 暗色
 底質 E. 礫石 F. 圓礫 S. 砂 G. 軟泥 F. 石
 磁針偏差ハ明治四十五年ノ算定

JAPAN
HOKUSHŪ AND CHISHIMA IS.
 WITH
 RUSSIAN TARTARY AND
 KARAFUTTO
 (SAKHALIN IS.)
 (compiled from the Surveys of the Imperial Japanese Navy, to 31st Feb. of Meiji (1870),
 and British Admiralty Charts.)
 Escarpes, d. deep, val. covered, dark, f. fine, g. gravel, G. grey, m. mud, oz. ooze,
 P. pebbles, pbl. pebbles, r. rocks, s. sand, sh. shells, st. stones, w. white.
 All heights are expressed in feet above High Water Springs.
 Magnetic Variation in 1872.
SOUNDINGS IN FATHOMS

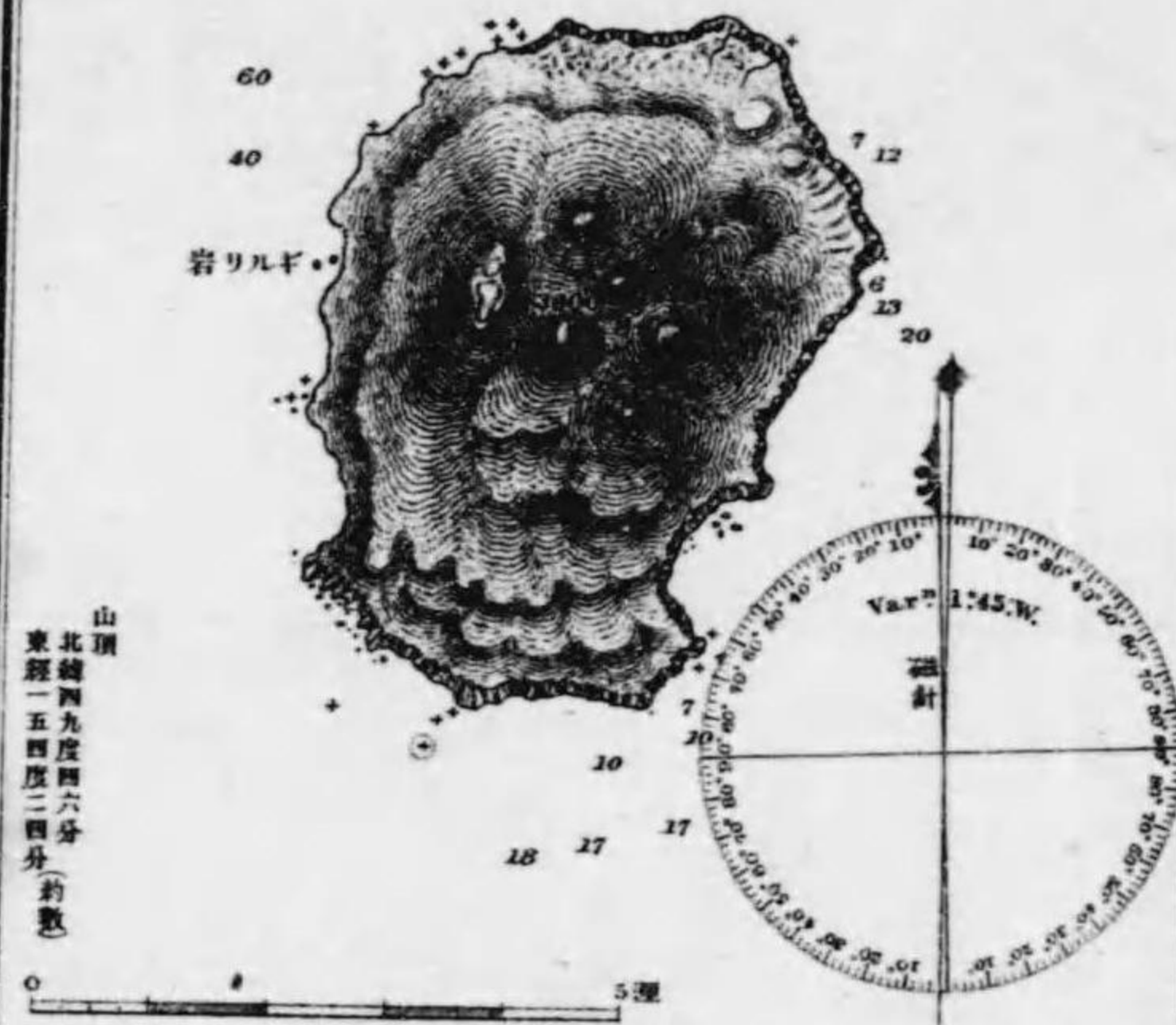
150° 151° 152° 153° 154° 155°
 41° 42° 43° 44° 45° 47° 48°

日本
千島列島諸分圖
JAPAN PLANS OF CHISHIMA ISLANDS

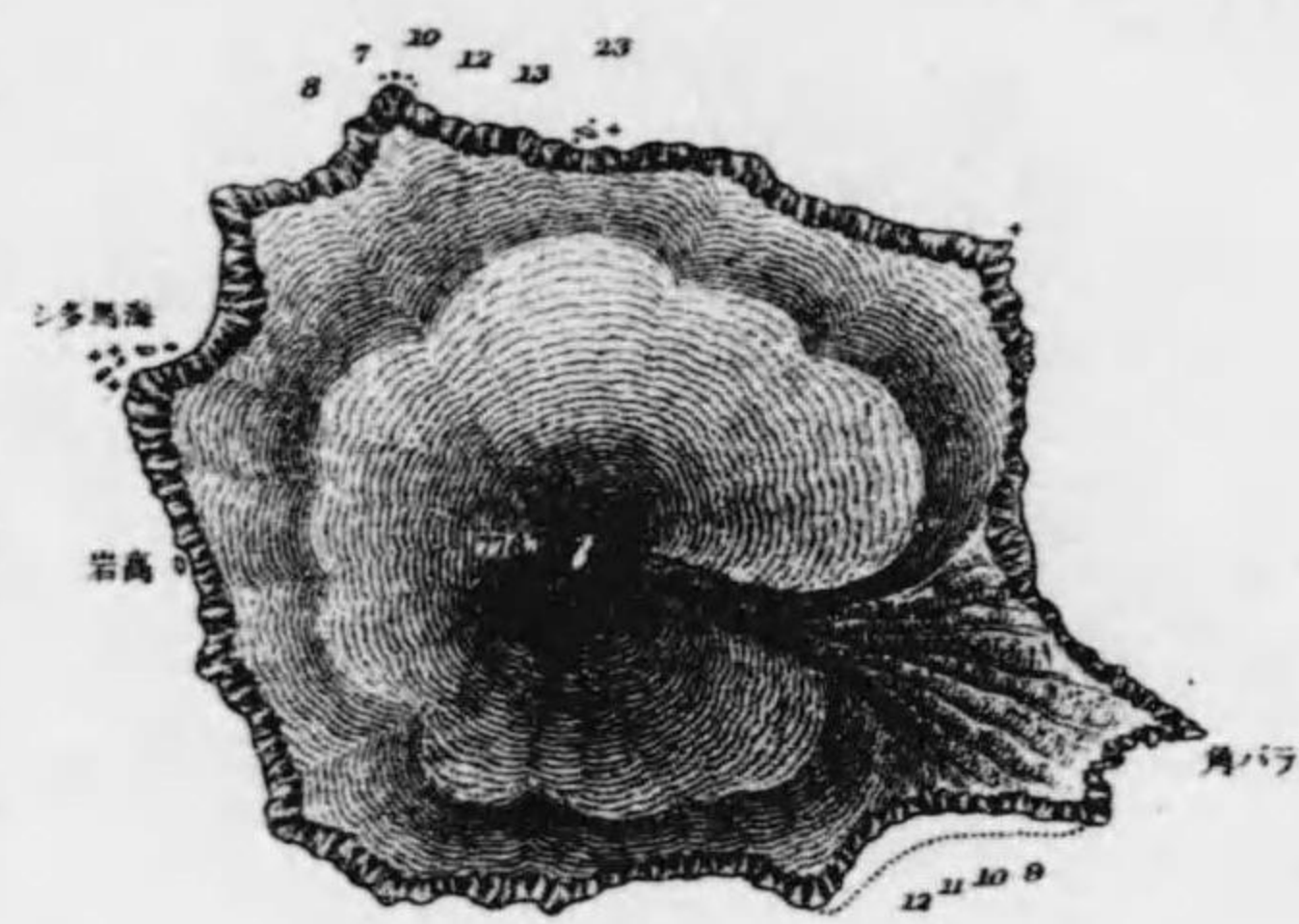
島丹古牟春
HARUMUKOTAN TŌ



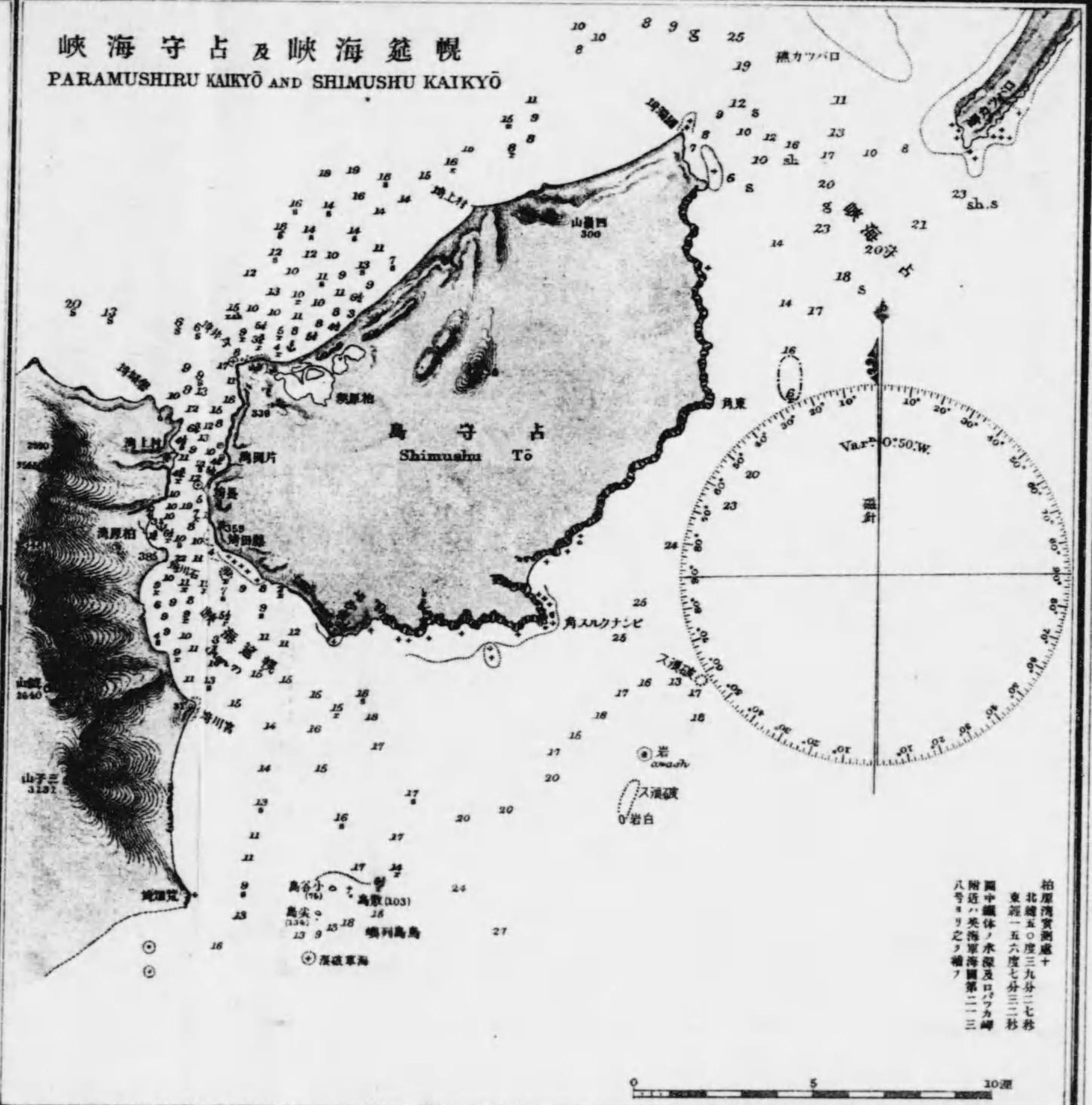
島留勒磨
MAKANRU TŌ



島度賴阿
ARAIDO TŌ



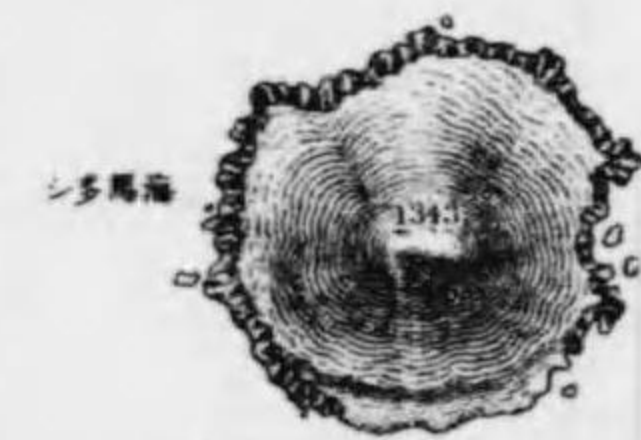
峽海守占及峽海筵幌
PARAMUSHIRU KAIYŌ AND SHIMUSHU KAIYŌ



島頓魯武
BUROTON TŌ



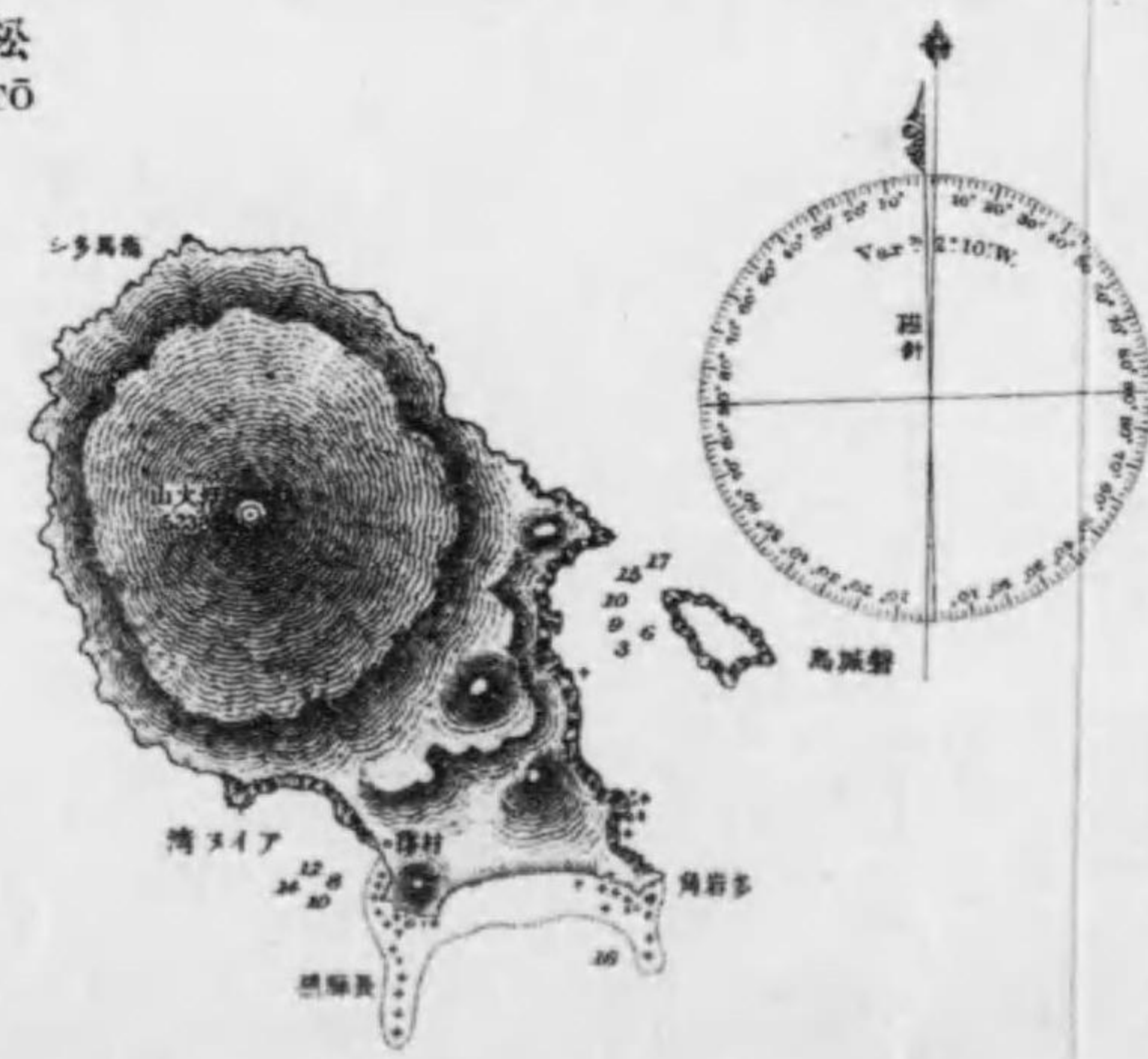
島計公雷
RAIKOKE TŌ



島規林志
SHIRINKI TŌ



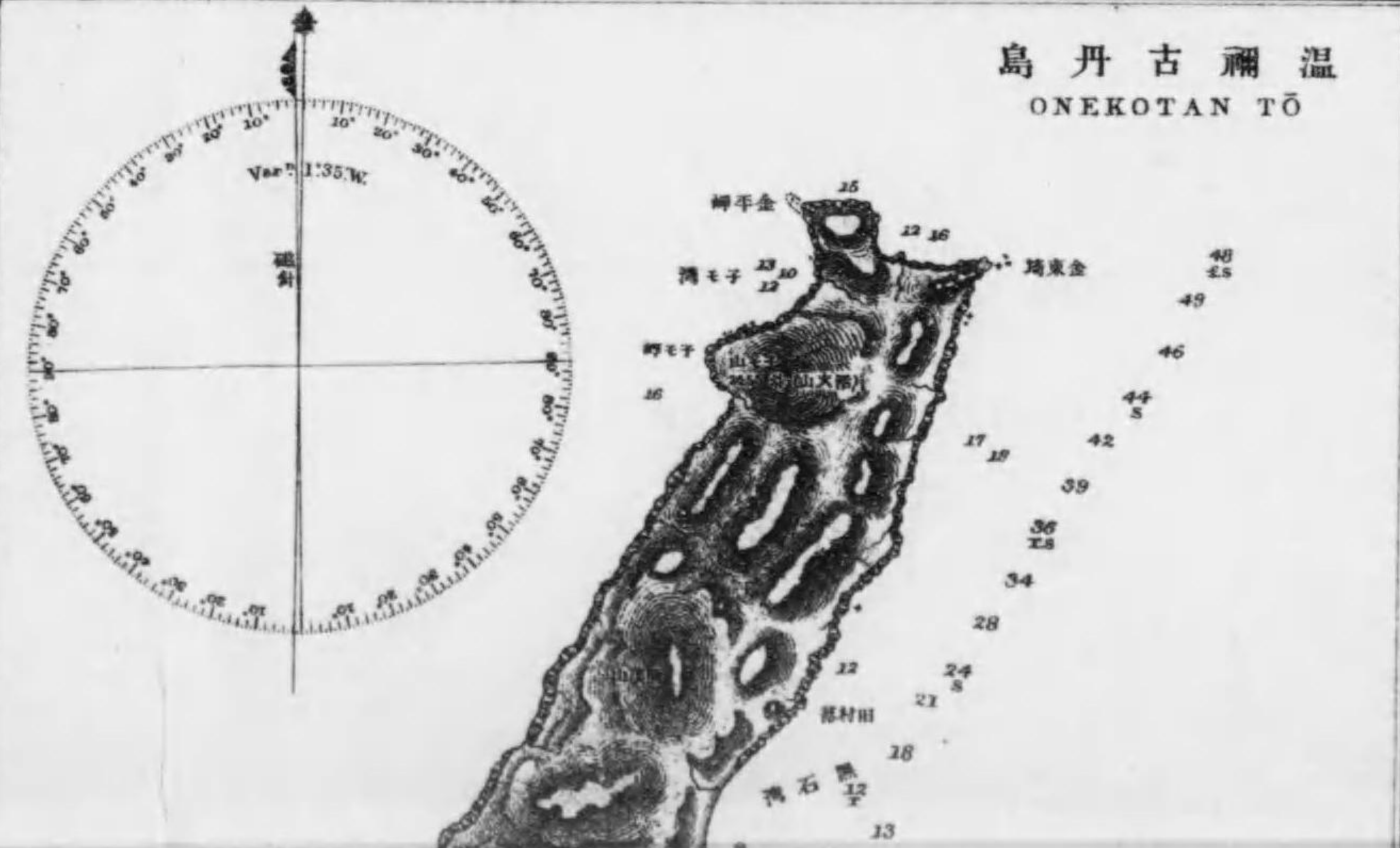
島輪松
MATSUWA TŌ



岩列知牟
MUSHIRU ROCKS



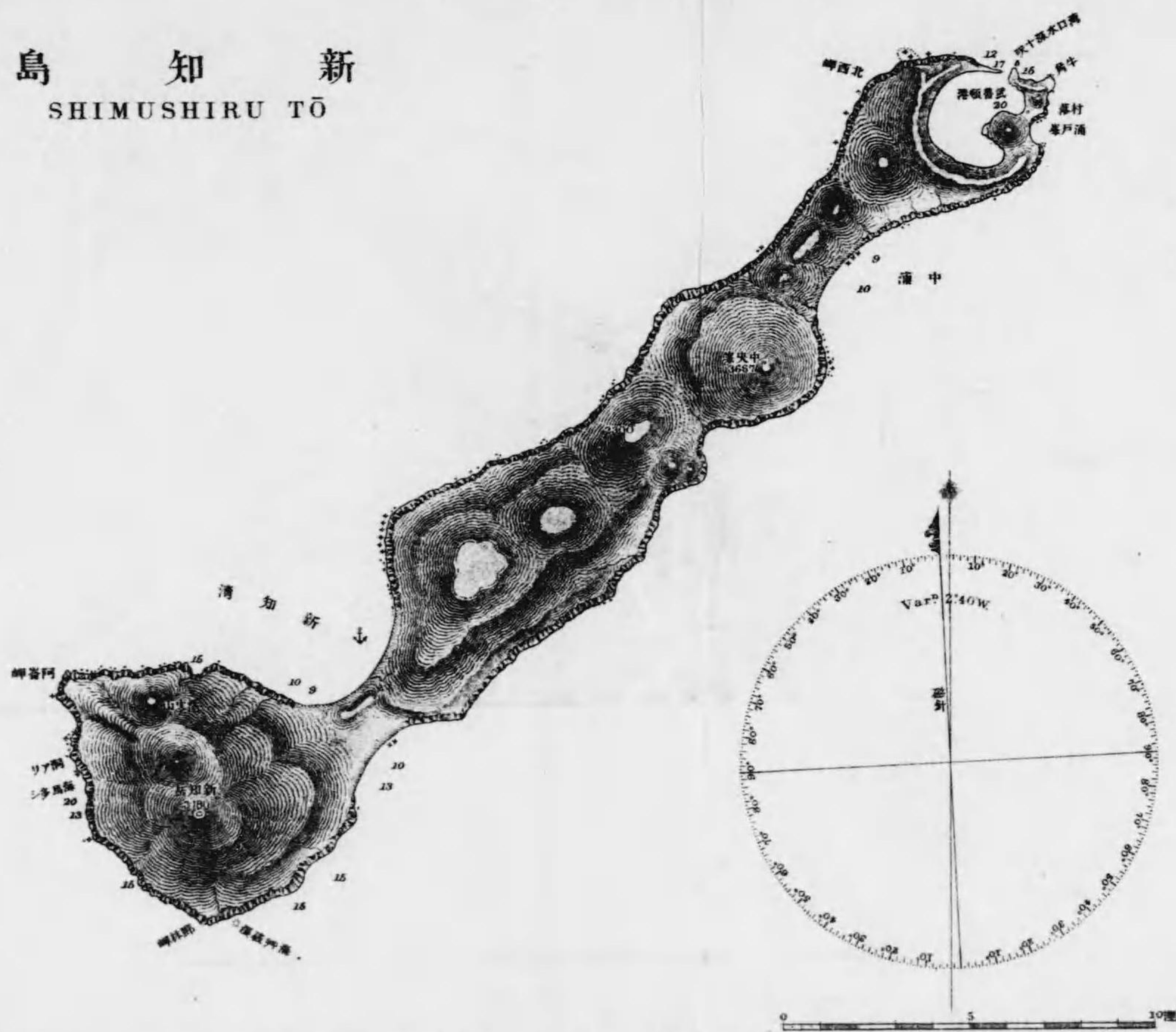
島丹古禰温
ONEKOTAN TŌ



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

日本
千島列島諸分圖
JAPAN PLANS OF CHISHIMA ISLANDS

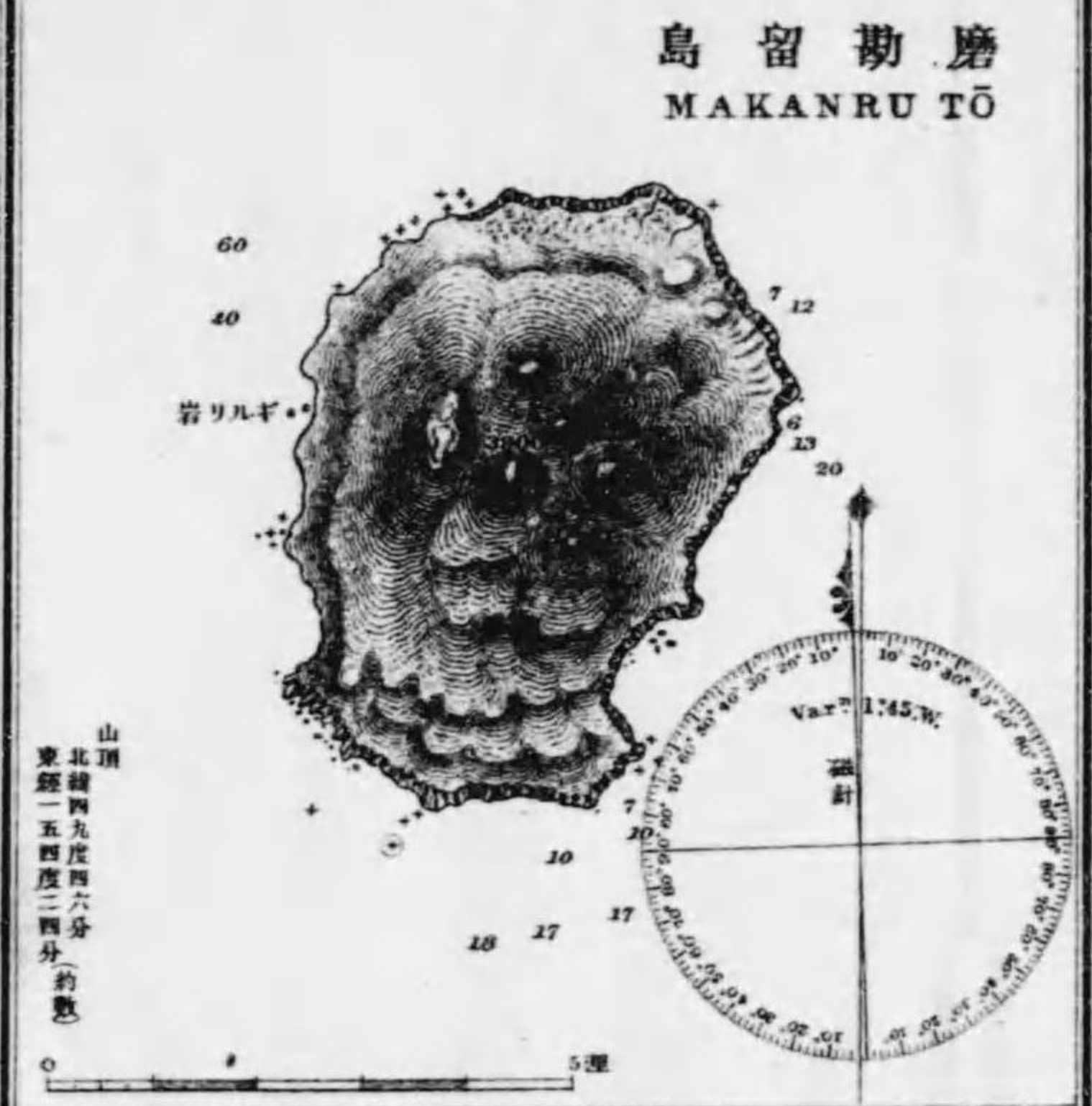
新 知 島
SHIMUSHIRU TŌ



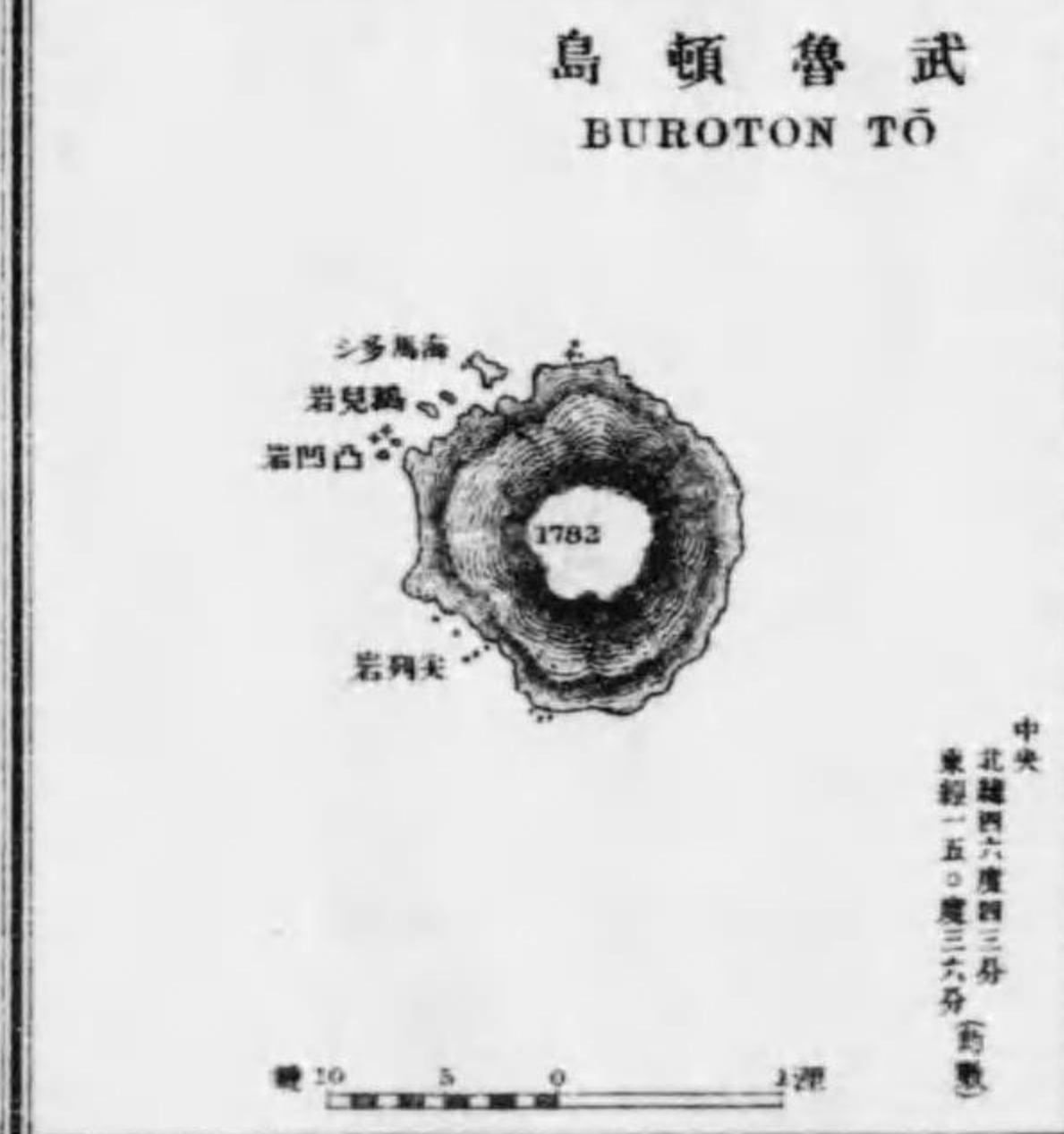
春 牟 古 丹 島
HARUMUKOTAN TŌ



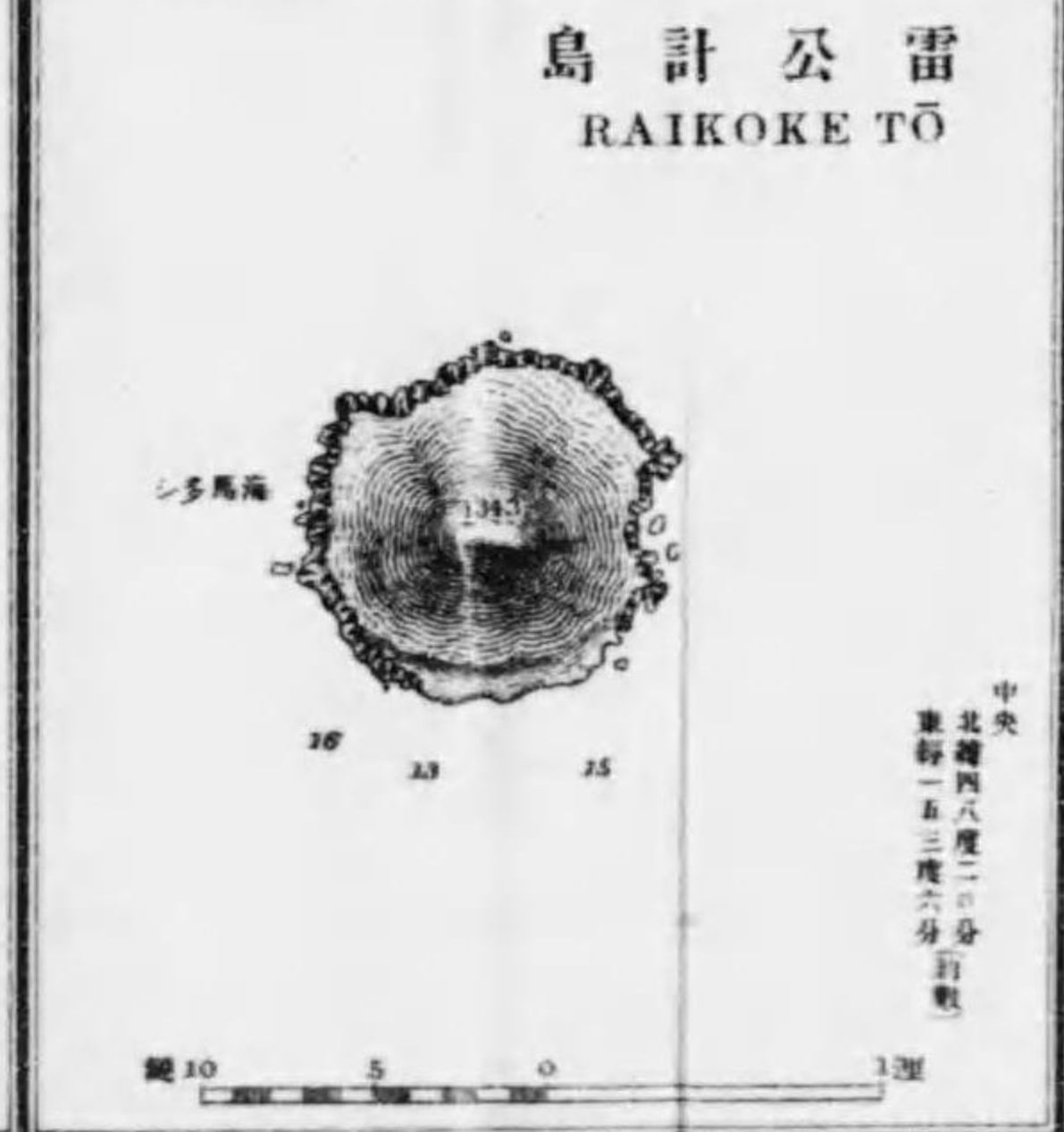
磨 勒 留 島
MAKANRU TŌ



武 魯 頓 島
BUROTON TŌ



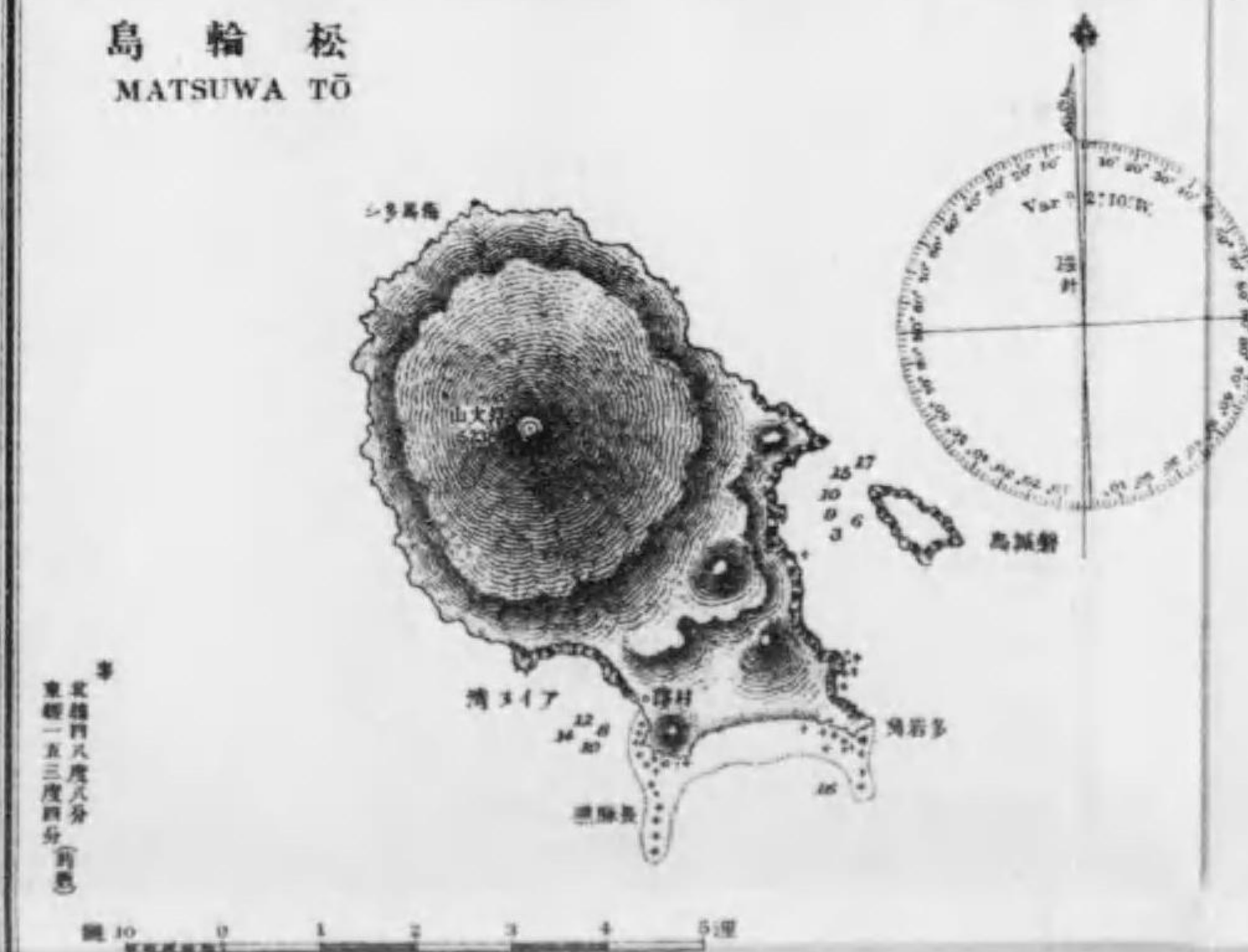
雷 公 計 島
RAIKOKE TŌ



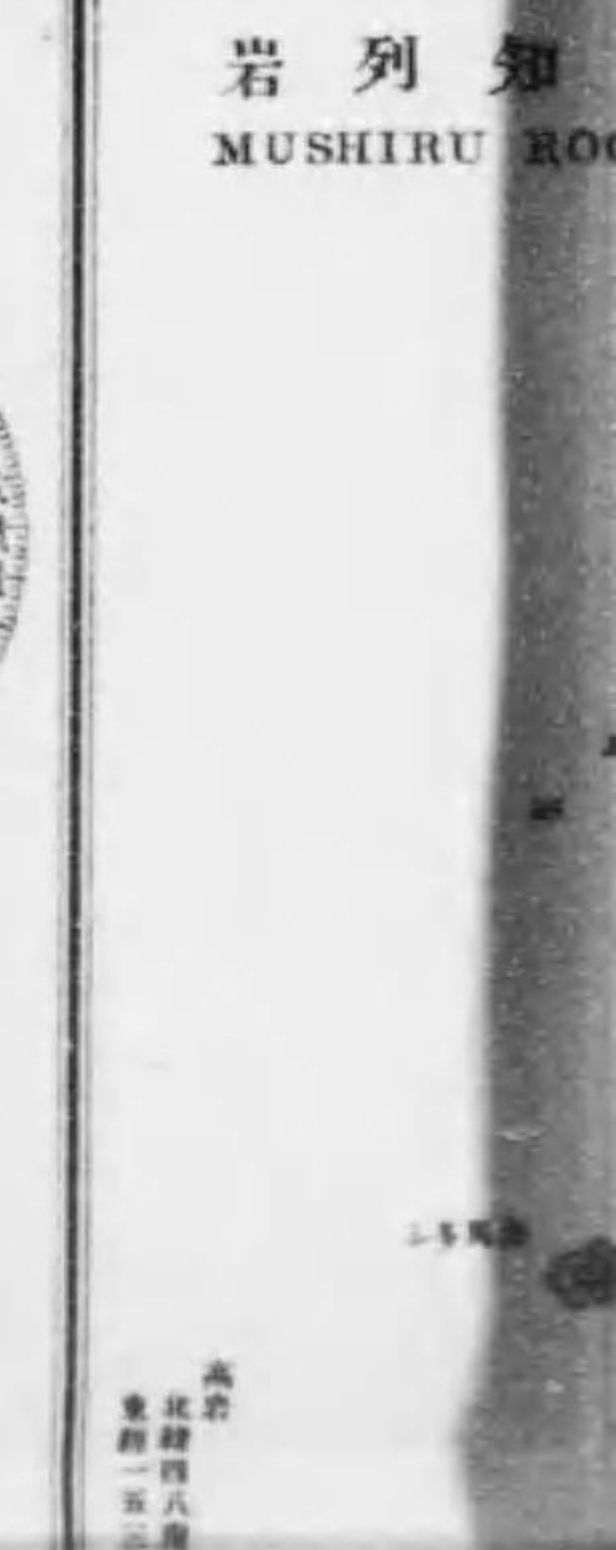
得 撫 島
URUPPU TŌ

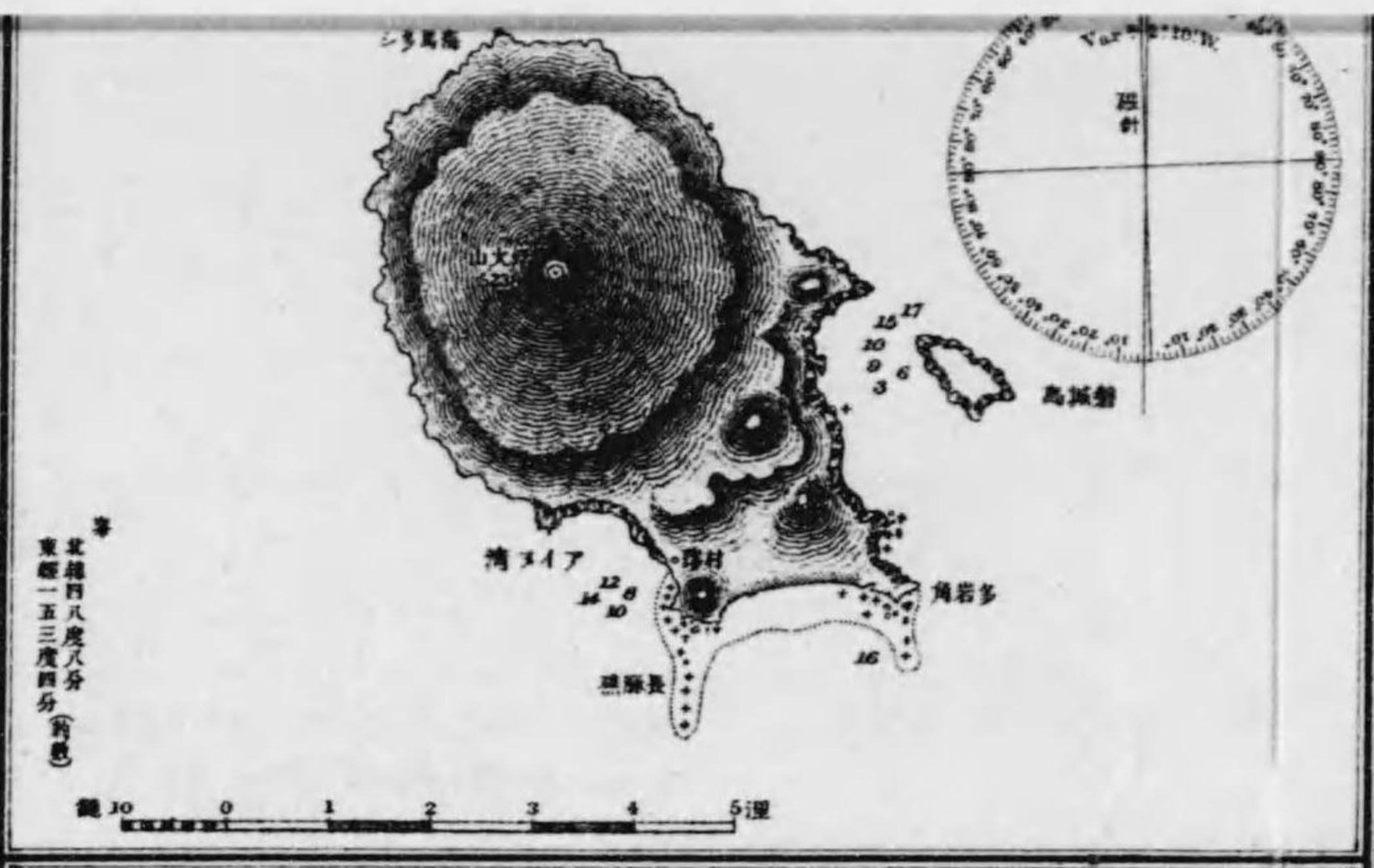


松 輪 島
MATSUWA TŌ

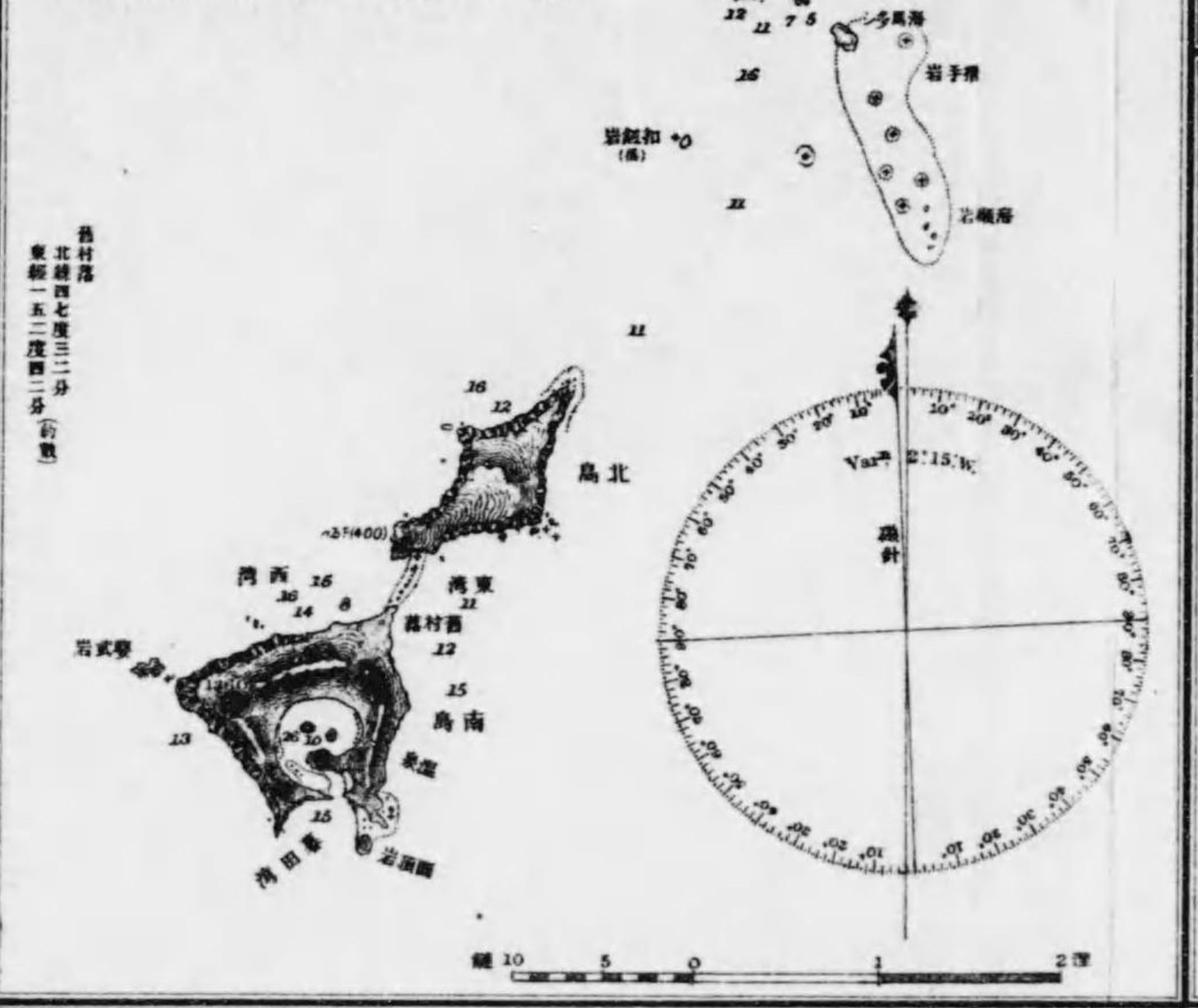


知 列 岩
MUSHIRU RO

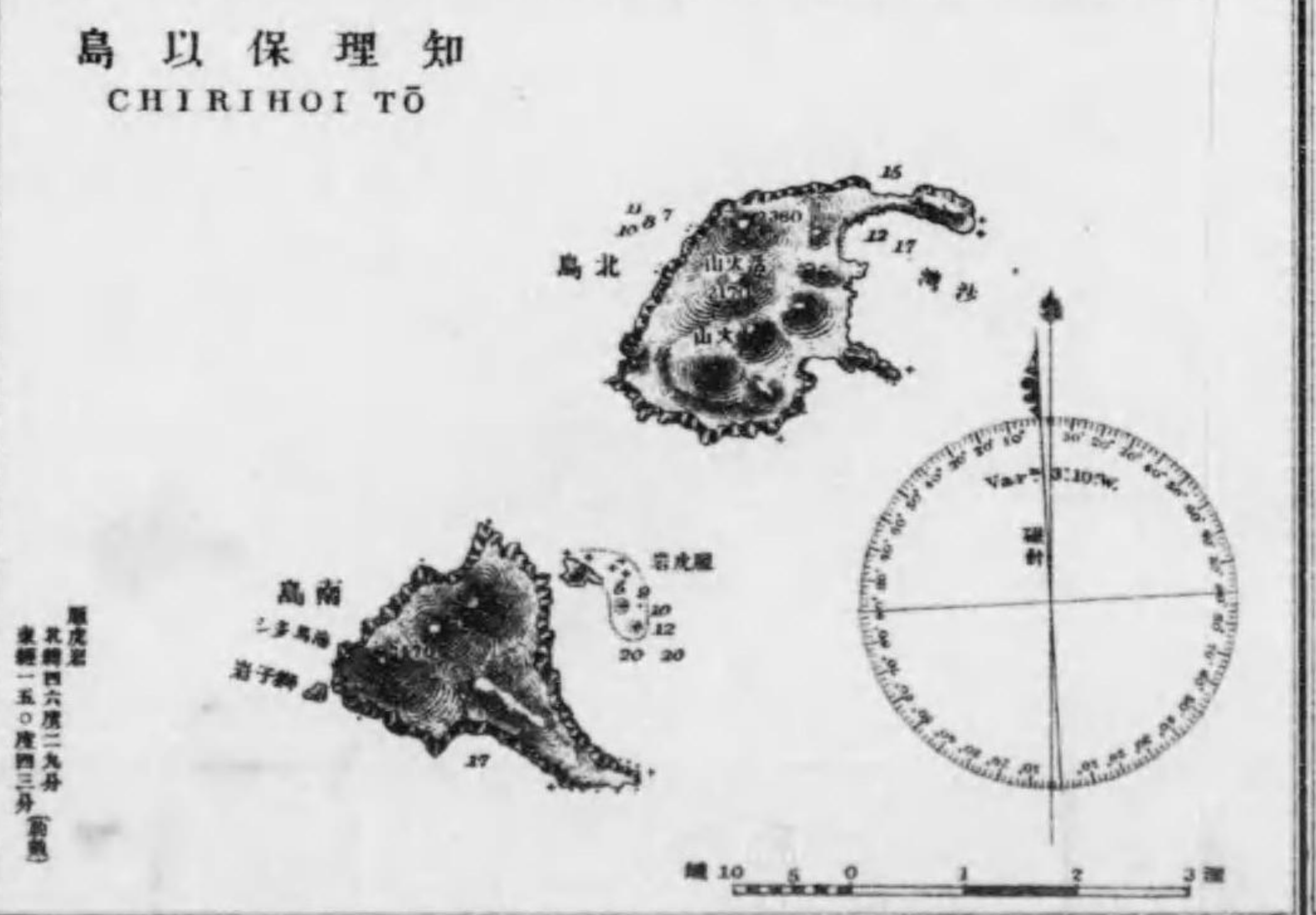




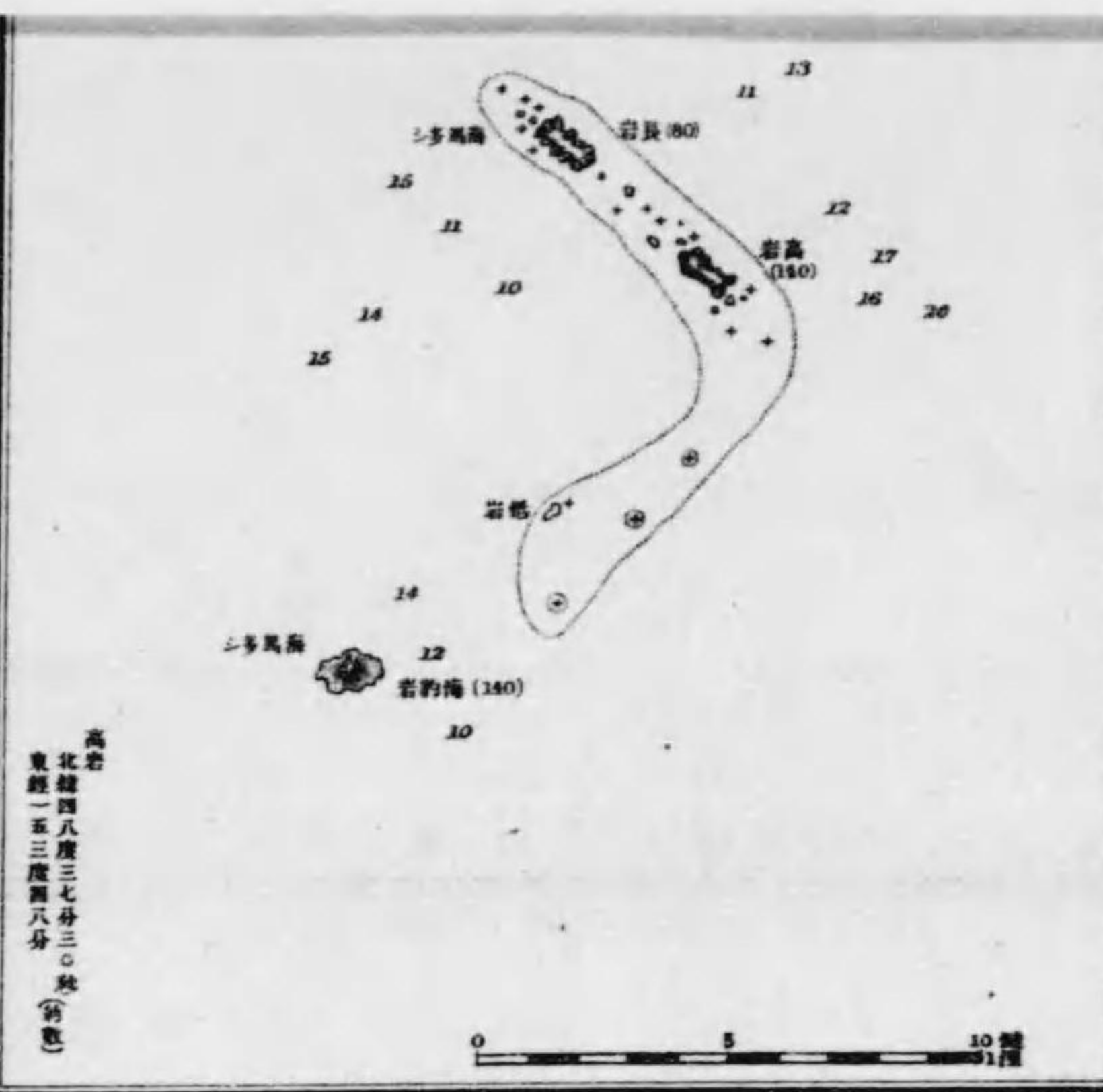
岩諸近附及島知志宇
USHISHIRU TŌ AND ADJACENT ROCKS



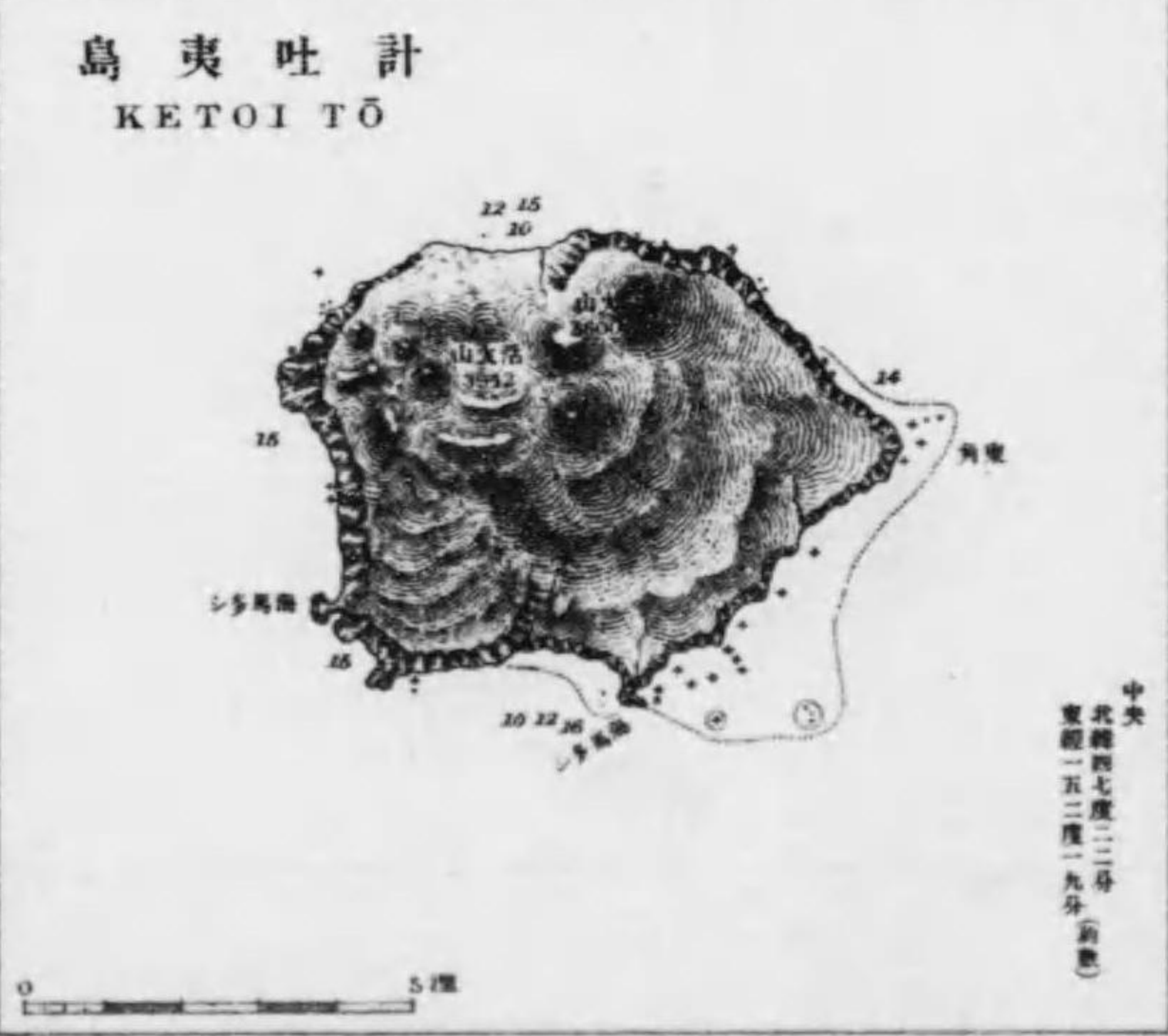
島和處羅
RASHUWA TŌ



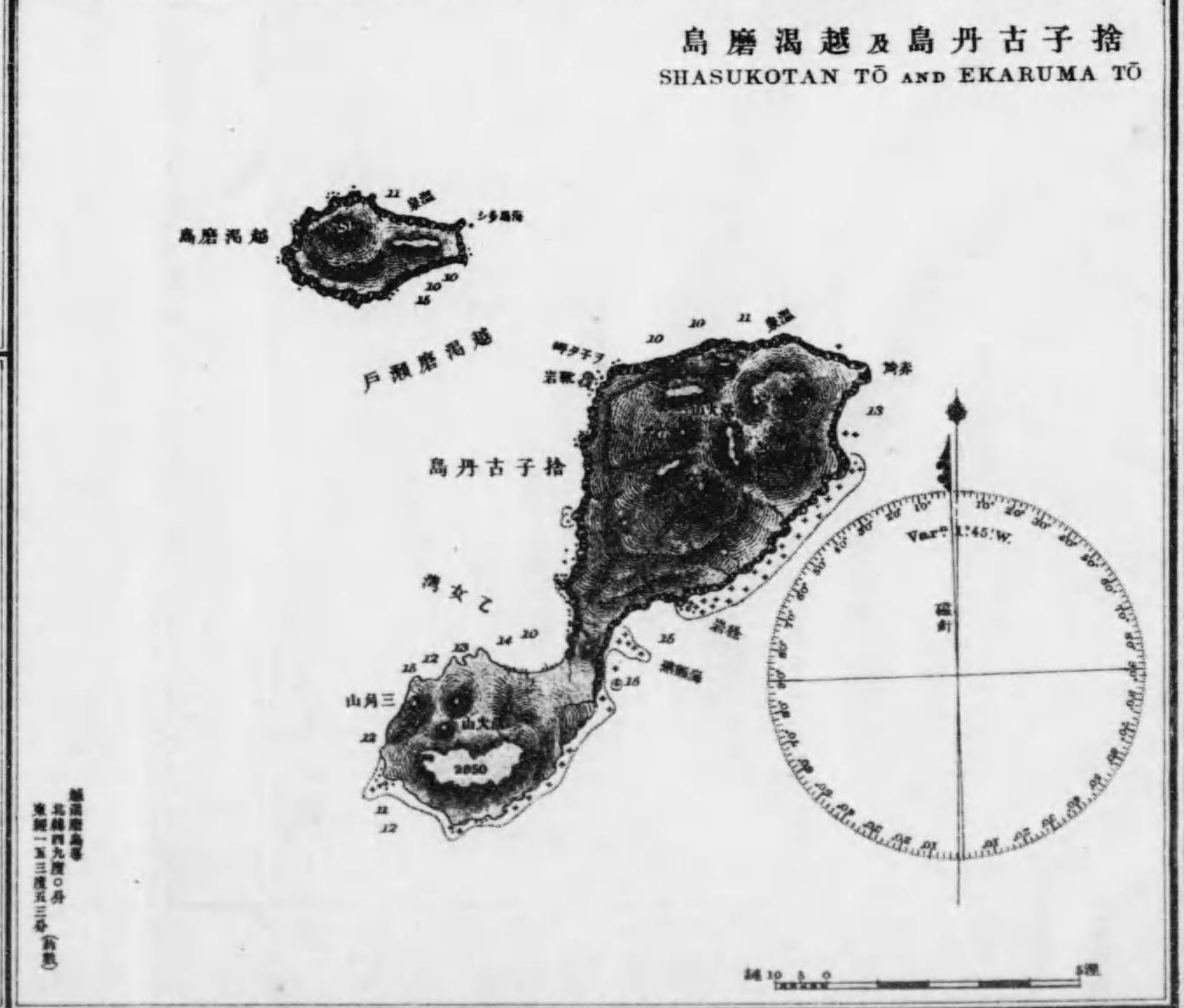
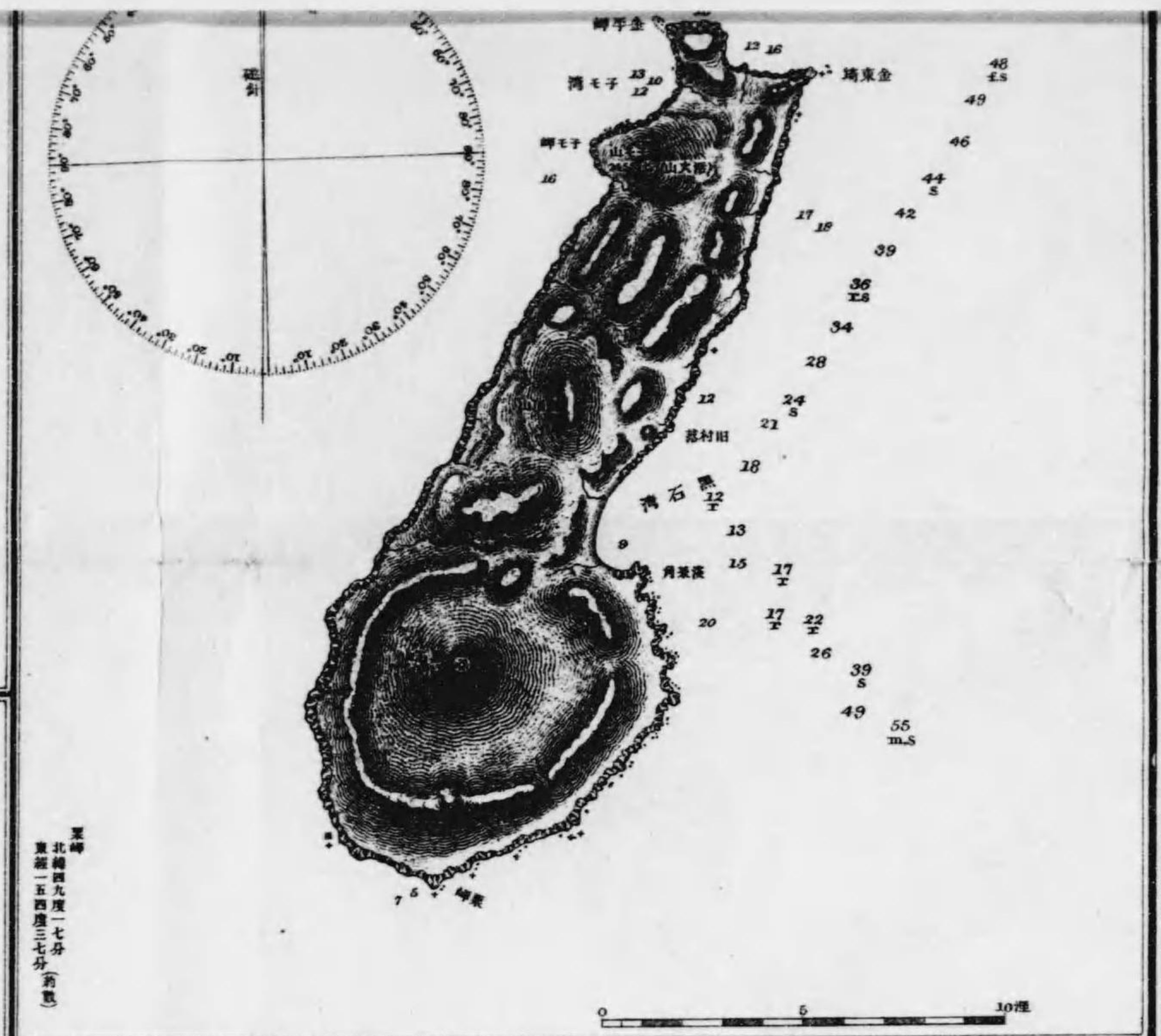
島以保理知
CHIRIHOI TŌ



島磨渴越及島丹古子捨
SHASUKOTAN TŌ AND EKARUMA TŌ



島夷吐計
KETOI TŌ



北緯四十八度八分
東經一五三度四分
（約數）

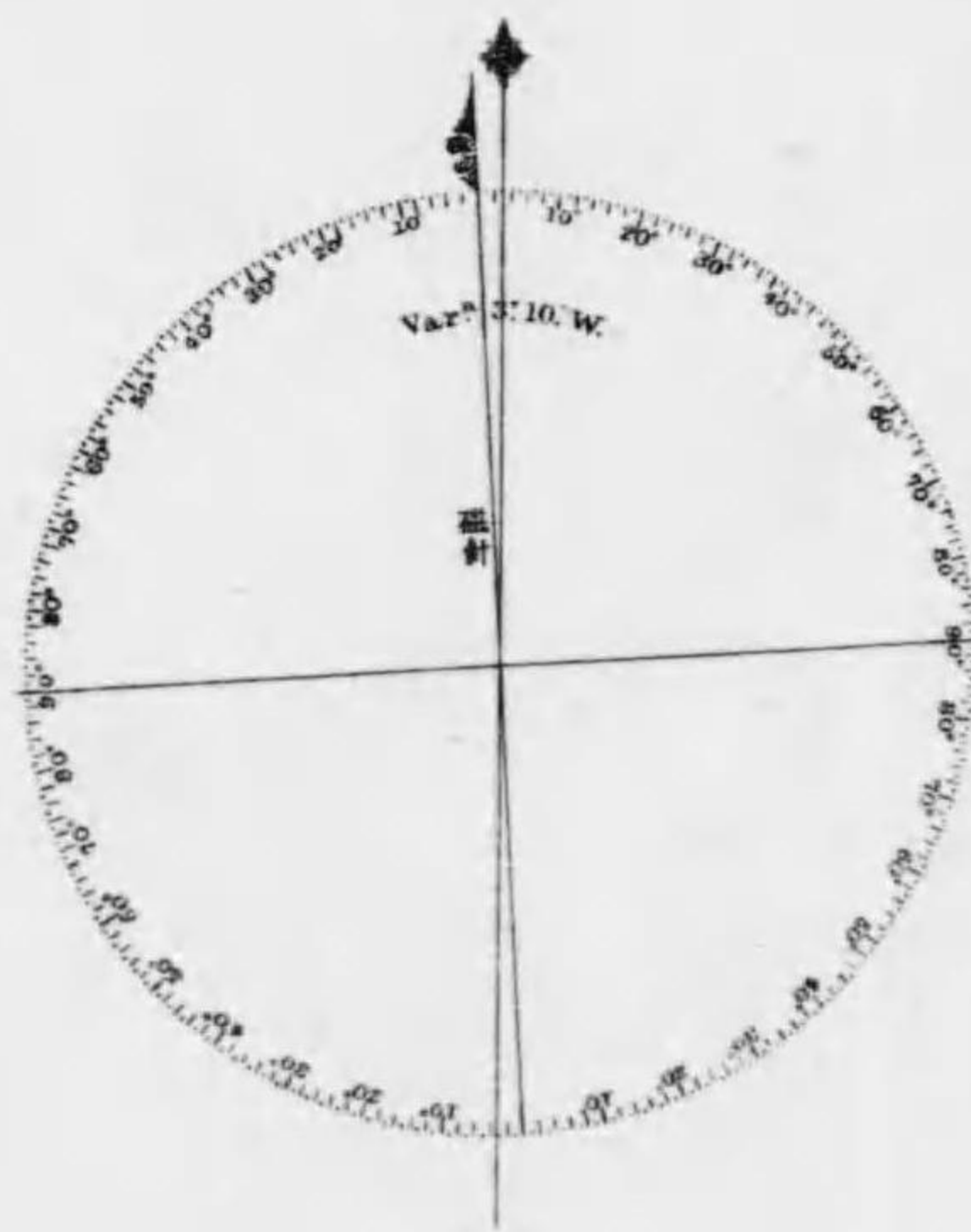
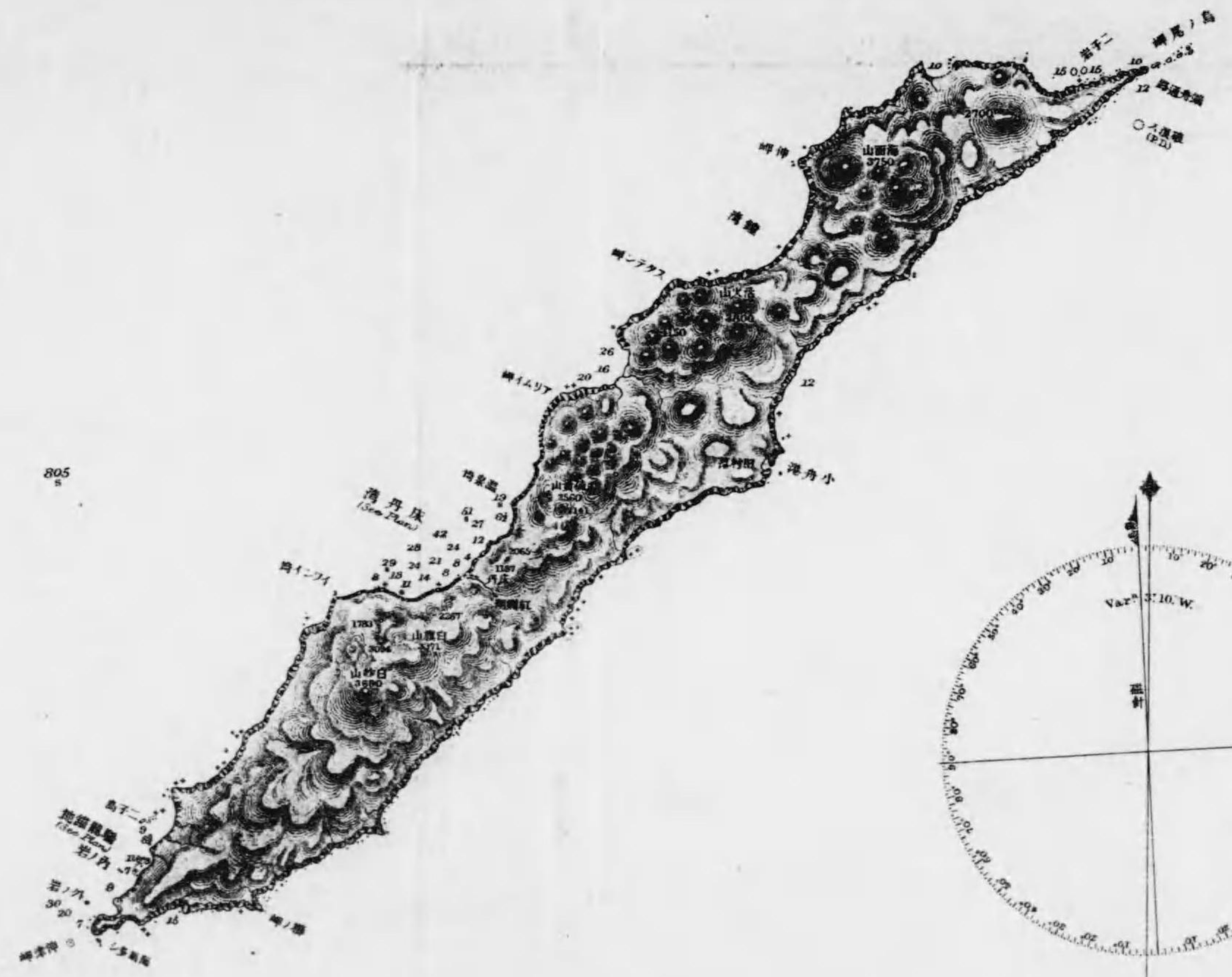
北緯四十八度七分三〇分
東經一五三度四分
（約數）

北緯四十七度三分
東經一五二度四分
（約數）

北緯四十九度七分
東經一五四度三分
（約數）

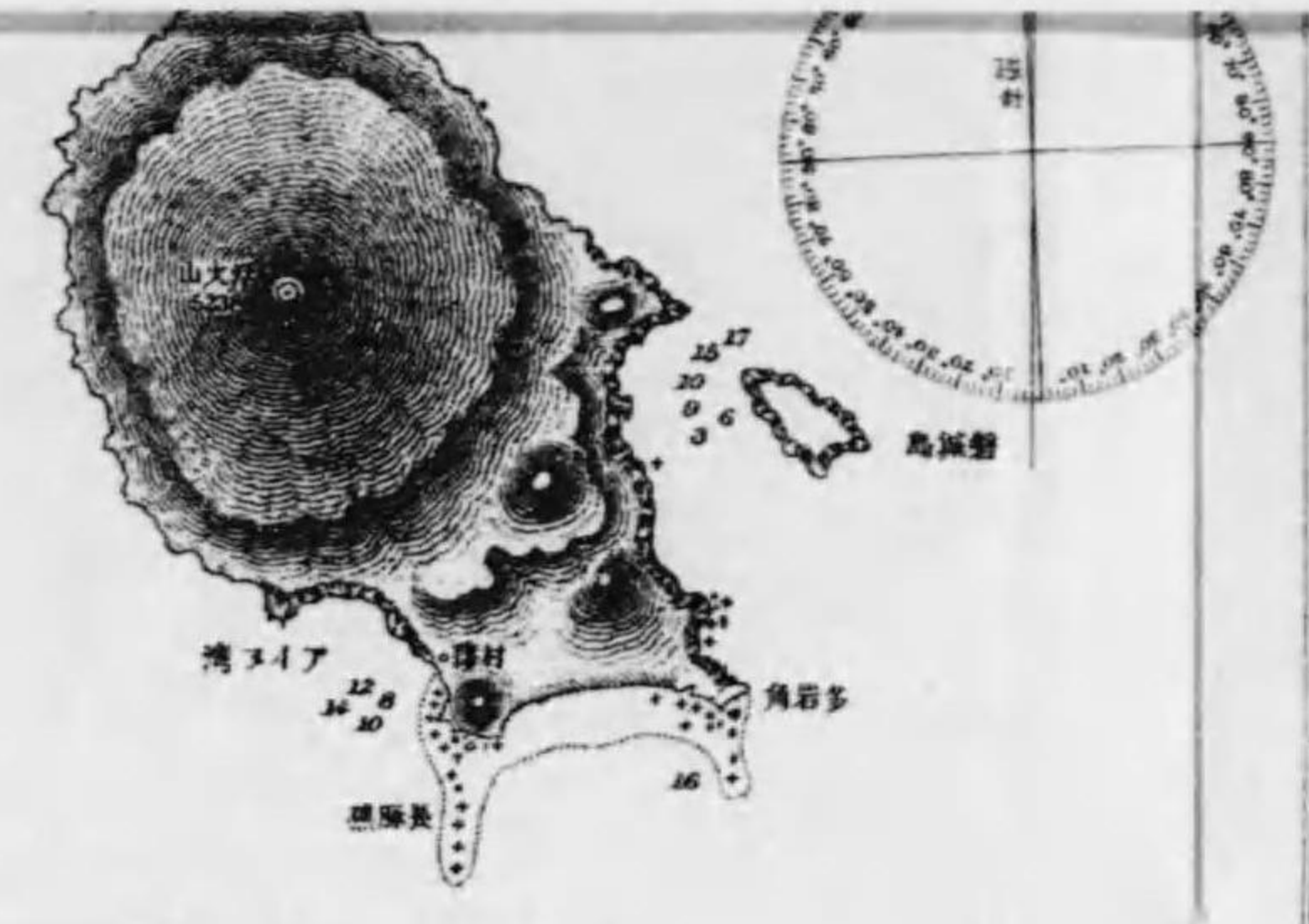
北緯四十六度二分
東經一五〇度四分
（約數）

北緯四十七度三分
東經一五二度四分
（約數）



島嶼十
北緯四十五度二分八秒
東經一四十九度四十分七秒

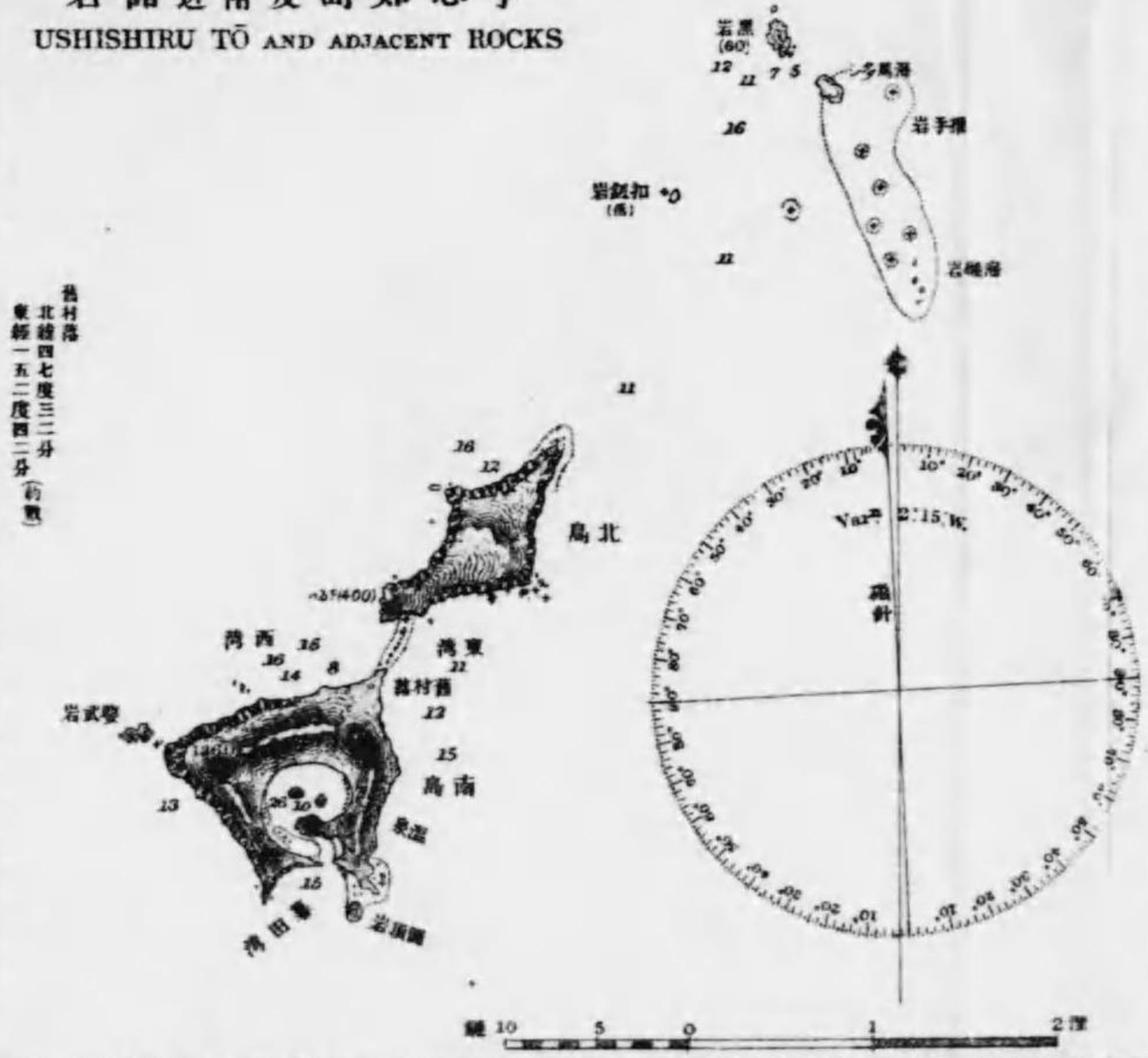
805



島嶼十
北緯四十五度八分
東經一五三度四分
實地

島嶼十
北緯四十五度七分三〇秒
東經一五三度四分
實地

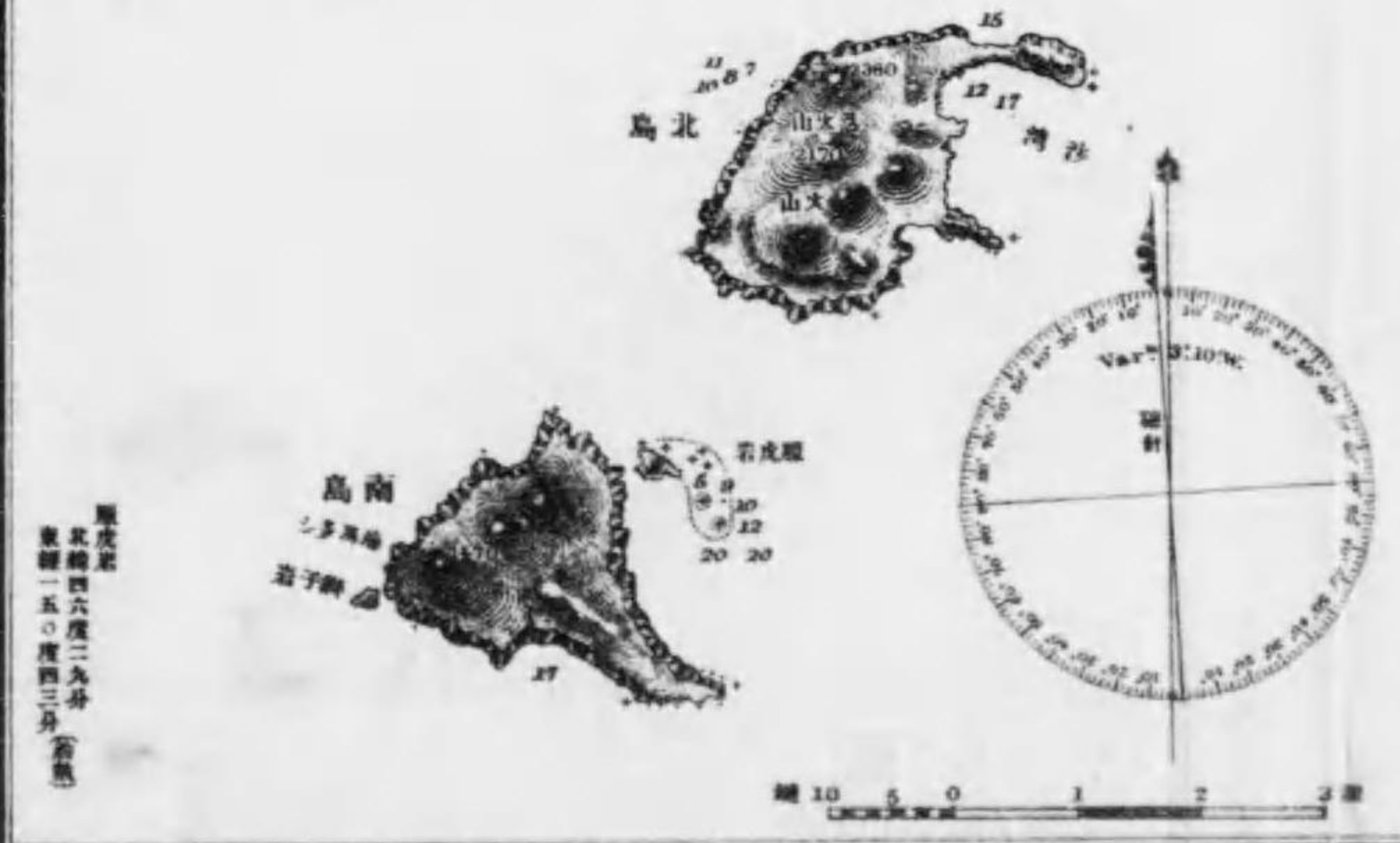
岩諸近附及島知志宇
USHISHIRU TŌ AND ADJACENT ROCKS



島嶼十
北緯四十七度三分
東經一五二度四十分
實地

島和夷
RASHU

島以保理知
CHIRIHOI TŌ



島嶼十
北緯四十六度二分
東經一五〇度三分
實地

島夷吐
KETOI

387
113

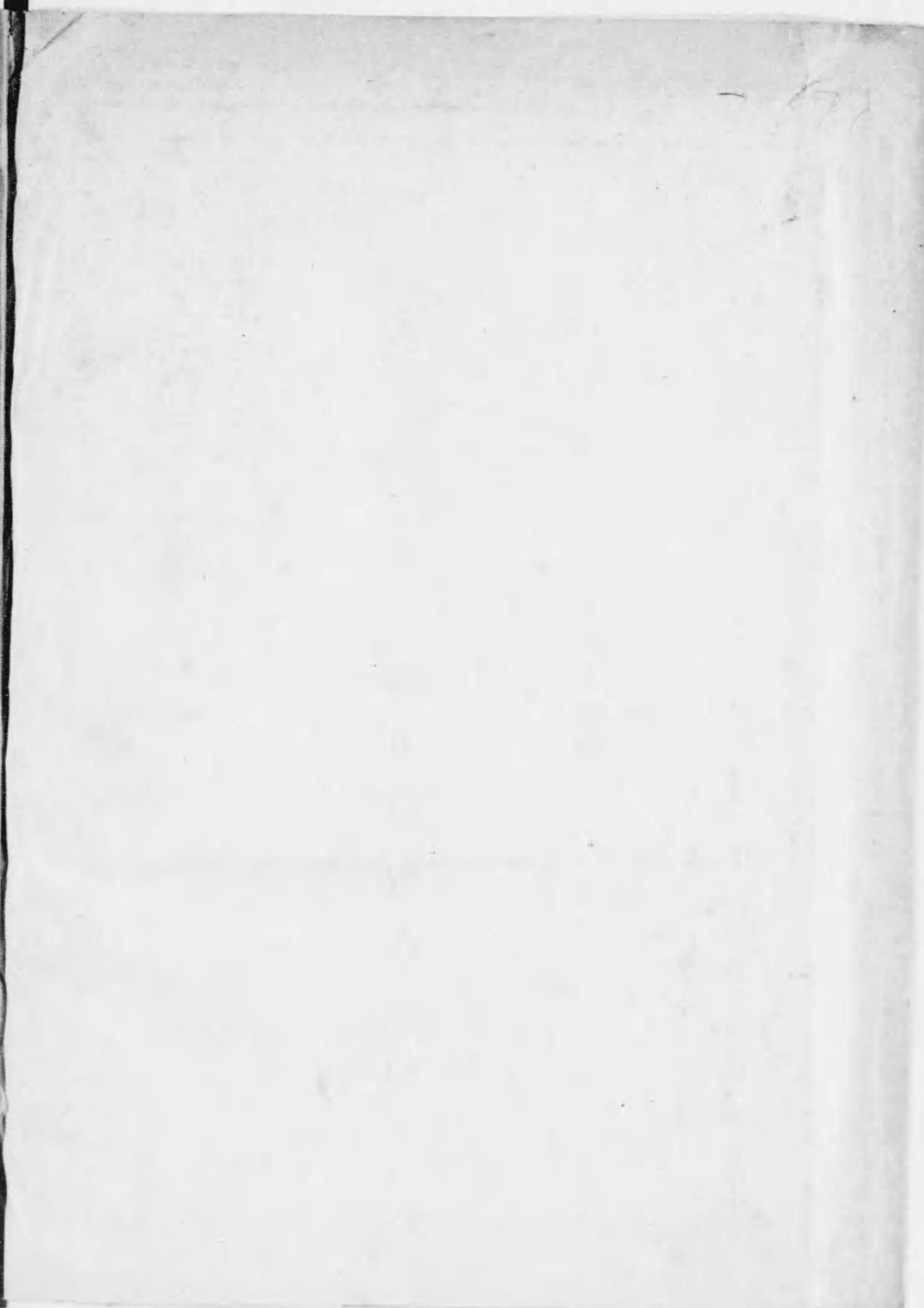
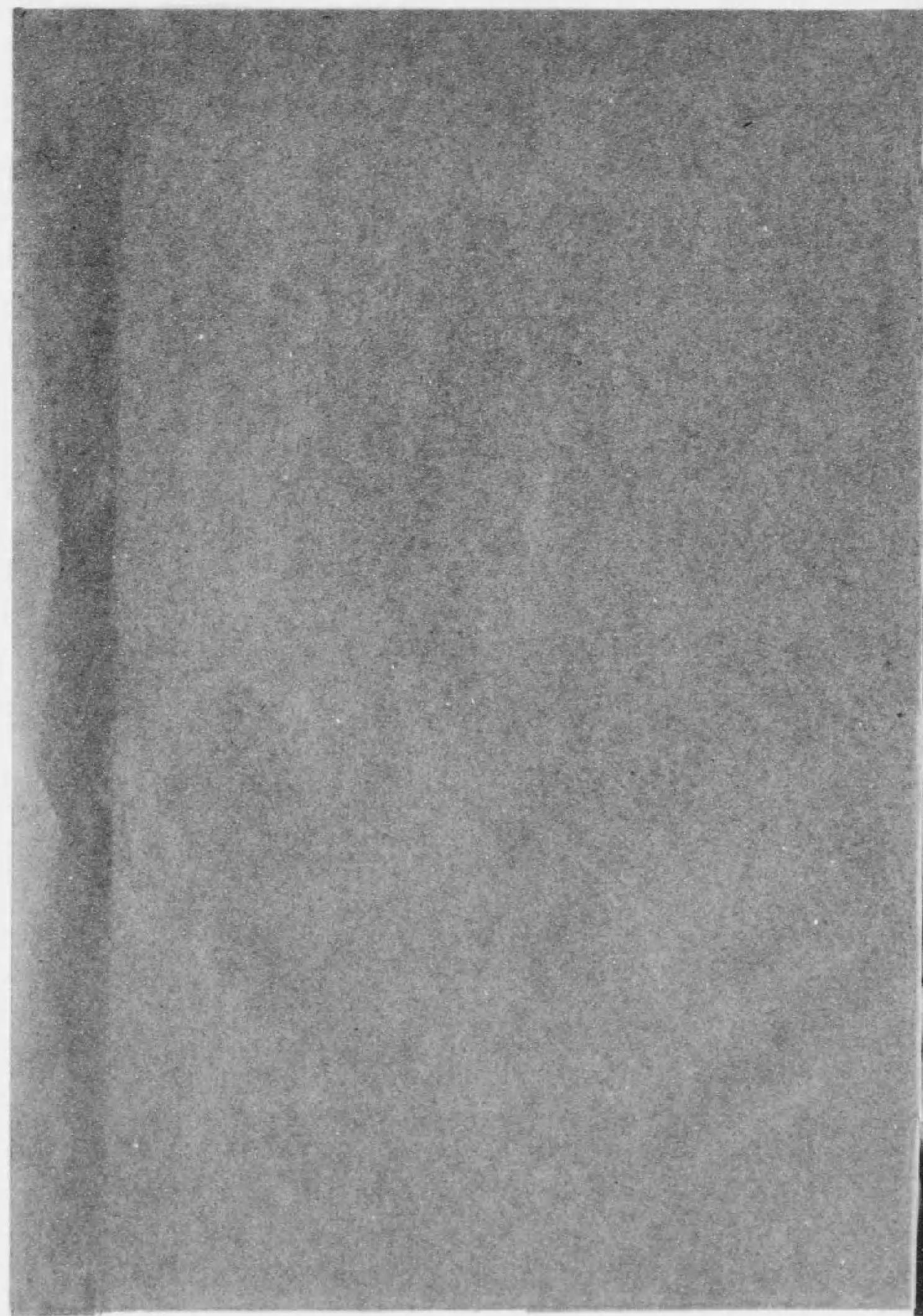
大正二年三月廿三日印刷
大正二年三月廿五日發行

農商務省水產局

印刷者 松本魁
東京市芝區濱松町一丁目七番地

印刷所 會社 東京國文社
東京市京橋區宗十郎町十五番地





337
113

終

